

**平成26年度**  
**「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」**  
**調査報告書**

長野市



# 目 次

|     |                  |     |
|-----|------------------|-----|
| I   | 調査の概要            | 1   |
|     | 1 調査の目的          |     |
|     | 2 調査の対象          |     |
|     | 3 抽出方法           |     |
|     | 4 調査の方法          |     |
|     | 5 調査時期           |     |
|     | 6 送付・回収状況        |     |
|     | 7 調査事項           |     |
|     | 8 調査票の集計         |     |
|     | 報告書の見方           |     |
| II  | 回答者の属性           | 5   |
| III | 結果の概要            | 13  |
| IV  | 調査の結果            | 19  |
|     | 一般的な問題           | 21  |
|     | 労働に関する問題         | 43  |
|     | 仕事と家庭生活の調和に関する問題 | 51  |
|     | 地域社会に関する問題       | 71  |
|     | 男女の人権に関する問題      | 77  |
|     | 男女共同参画施策に関する問題   | 85  |
|     | 資 料              | 91  |
|     | 単純集計             | 93  |
|     | 自由意見             | 109 |
|     | 調査票              | 129 |



# I 調査の概要



## 1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

## 2 調査の対象

平成 26 年 8 月 18 日現在で長野市に在住する 20 歳以上 75 歳未満の男女各 1,000 人  
(計：2,000 人)

## 3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

## 4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒（料金受取人払）により調査票を返送してもらう郵送調査法による（調査票は別紙のとおり）。

## 5 調査時期

平成 26 年 9 月 3 日（水） ～ 平成 26 年 9 月 19 日（金）

## 6 送付・回収状況

送付数：2,000 票

回収数：846 票（回収率：42.3%）【男性票：373 票、女性票：473 票】

## 7 調査事項

### ● 回答者の属性

A 性別 B 年齢 C 職業 D 家族 E 配偶者の有無 F 配偶者の職業の有無 G 子の有無

- (1) 一般的な問題
- (2) 労働に関する問題
- (3) 仕事と家庭生活の調和に関する問題
- (4) 地域社会に関する問題
- (5) 男女の人権に関する問題
- (6) 男女共同参画施策に関する問題
- (7) 自由記入

## 8 調査票の集計

電子計算機による集計（委託）

### 報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表記している。従って、内訳を合計しても 100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。



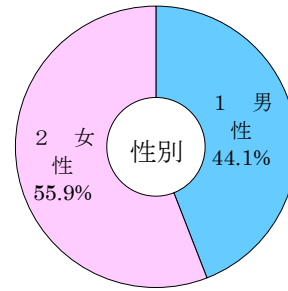


## II 回答者の属性



### A 性別

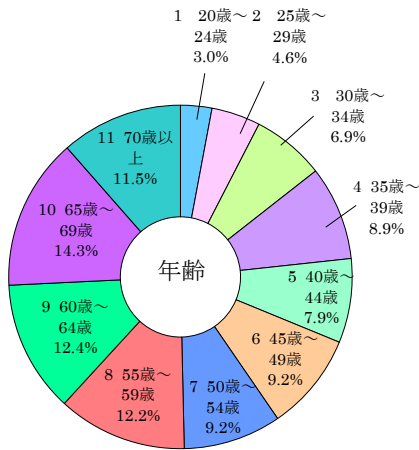
|      | 回答者数<br>(人) | 割合 (%) |
|------|-------------|--------|
| 1 男性 | 373         | 44.1%  |
| 2 女性 | 473         | 55.9%  |
| 合計   | 846         | 100.0% |



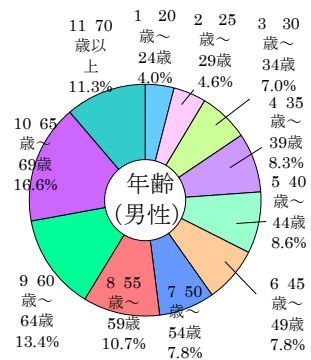
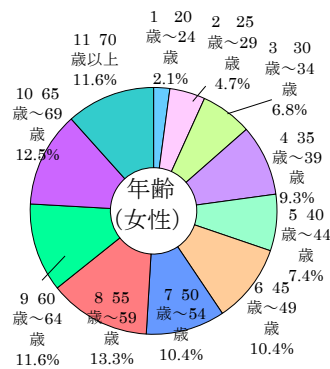
### B 年齢

|            | 回答者数 (人) |     |     | 割合 (%) |       |       |
|------------|----------|-----|-----|--------|-------|-------|
|            | 全体       | 女性  | 男性  | 全体     | 女性    | 男性    |
| 1 20歳～24歳  | 25       | 10  | 15  | 3.0    | 2.1   | 4.0   |
| 2 25歳～29歳  | 39       | 22  | 17  | 4.6    | 4.7   | 4.6   |
| 3 30歳～34歳  | 58       | 32  | 26  | 6.9    | 6.8   | 7.0   |
| 4 35歳～39歳  | 75       | 44  | 31  | 8.9    | 9.3   | 8.3   |
| 5 40歳～44歳  | 67       | 35  | 32  | 7.9    | 7.4   | 8.6   |
| 6 45歳～49歳  | 78       | 49  | 29  | 9.2    | 10.4  | 7.8   |
| 7 50歳～54歳  | 78       | 49  | 29  | 9.2    | 10.4  | 7.8   |
| 8 55歳～59歳  | 103      | 63  | 40  | 12.2   | 13.3  | 10.7  |
| 9 60歳～64歳  | 105      | 55  | 50  | 12.4   | 11.6  | 13.4  |
| 10 65歳～69歳 | 121      | 59  | 62  | 14.3   | 12.5  | 16.6  |
| 11 70歳以上   | 97       | 55  | 42  | 11.5   | 11.6  | 11.3  |
| 合計         | 846      | 473 | 373 | 100.0  | 100.0 | 100.0 |

【全体】



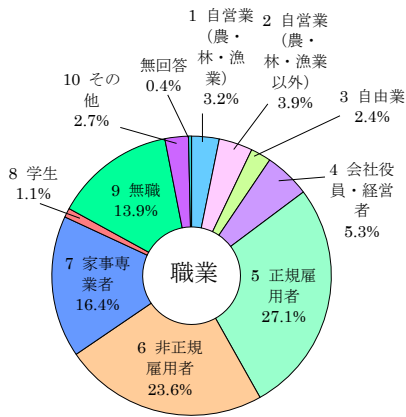
【男女別】



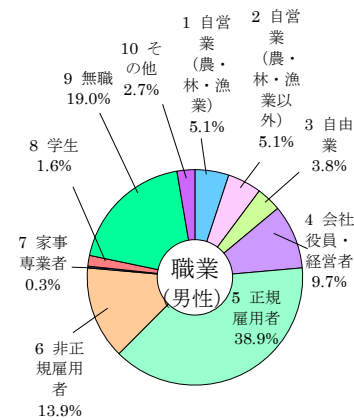
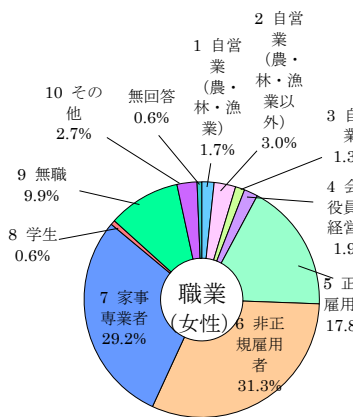
### C 職業

|                  | 回答者数 (人) |     |     | 割合 (%) |       |       |
|------------------|----------|-----|-----|--------|-------|-------|
|                  | 全体       | 女性  | 男性  | 全体     | 女性    | 男性    |
| 1 自営業 (農・林・漁業)   | 27       | 8   | 19  | 3.2    | 1.7   | 5.1   |
| 2 自営業 (農・林・漁業以外) | 33       | 14  | 19  | 3.9    | 3.0   | 5.1   |
| 3 自由業            | 20       | 6   | 14  | 2.4    | 1.3   | 3.8   |
| 4 会社役員・経営者       | 45       | 9   | 36  | 5.3    | 1.9   | 9.7   |
| 5 正規雇用者          | 229      | 84  | 145 | 27.1   | 17.8  | 38.9  |
| 6 非正規雇用者         | 200      | 148 | 52  | 23.6   | 31.3  | 13.9  |
| 7 家事専業者          | 139      | 138 | 1   | 16.4   | 29.2  | 0.3   |
| 8 学生             | 9        | 3   | 6   | 1.1    | 0.6   | 1.6   |
| 9 無職             | 118      | 47  | 71  | 13.9   | 9.9   | 19.0  |
| 10 その他           | 23       | 13  | 10  | 2.7    | 2.7   | 2.7   |
| 無回答              | 3        | 3   | 0   | 0.4    | 0.6   | 0.0   |
| 合計               | 846      | 473 | 373 | 100.0  | 100.0 | 100.0 |

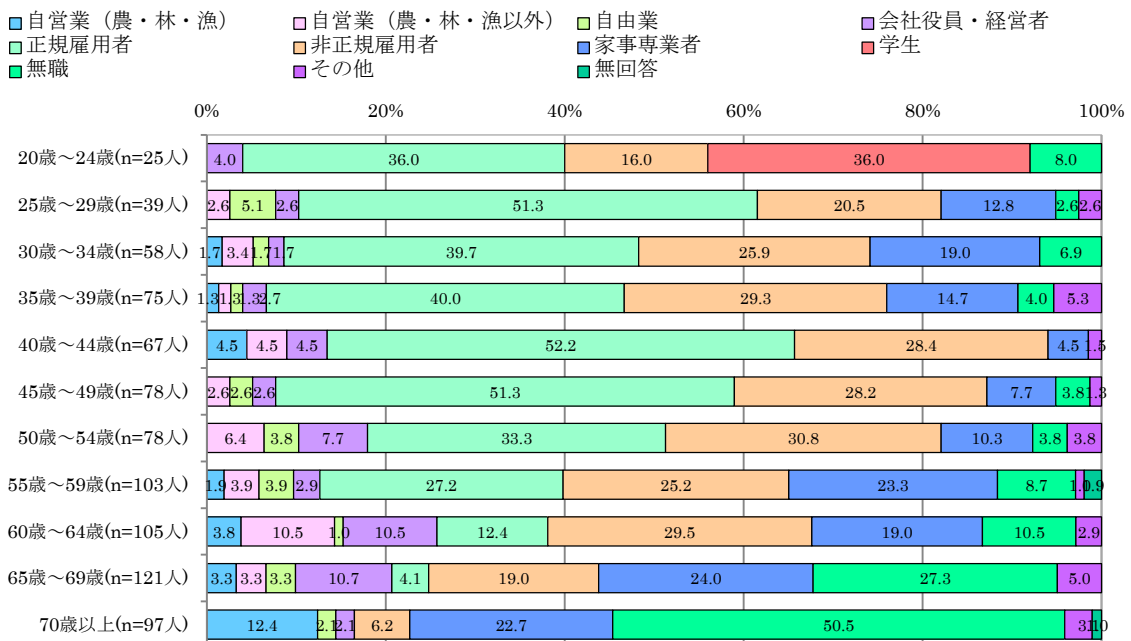
【全体】



【男女別】



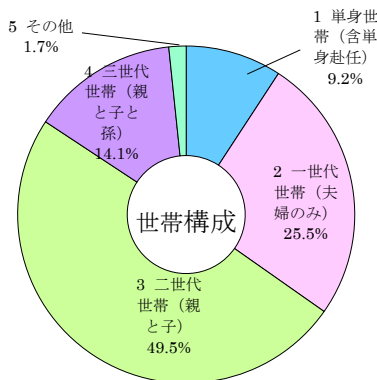
【年代別】



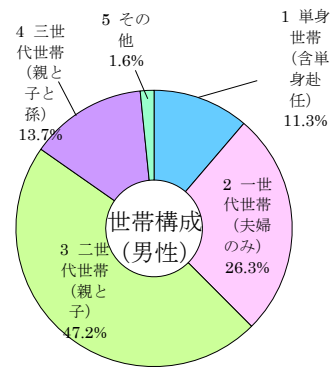
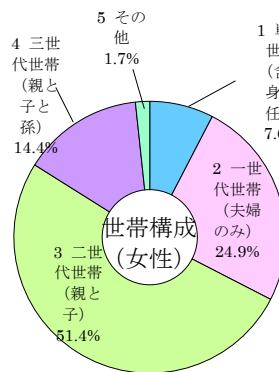
D あなたの家族の構成（世帯構成）について教えてください。

|                 | 回答者数（人） |     |     | 割合（％） |       |       |
|-----------------|---------|-----|-----|-------|-------|-------|
|                 | 全体      | 女性  | 男性  | 全体    | 女性    | 男性    |
| 1 単身世帯（含単身赴任）   | 78      | 36  | 42  | 9.2   | 7.6   | 11.3  |
| 2 一世代世帯（夫婦のみ）   | 216     | 118 | 98  | 25.5  | 24.9  | 26.3  |
| 3 二世世代世帯（親と子）   | 419     | 243 | 176 | 49.5  | 51.4  | 47.2  |
| 4 三世世代世帯（親と子と孫） | 119     | 68  | 51  | 14.1  | 14.4  | 13.7  |
| 5 その他           | 14      | 8   | 6   | 1.7   | 1.7   | 1.6   |
| 合計              | 846     | 473 | 373 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

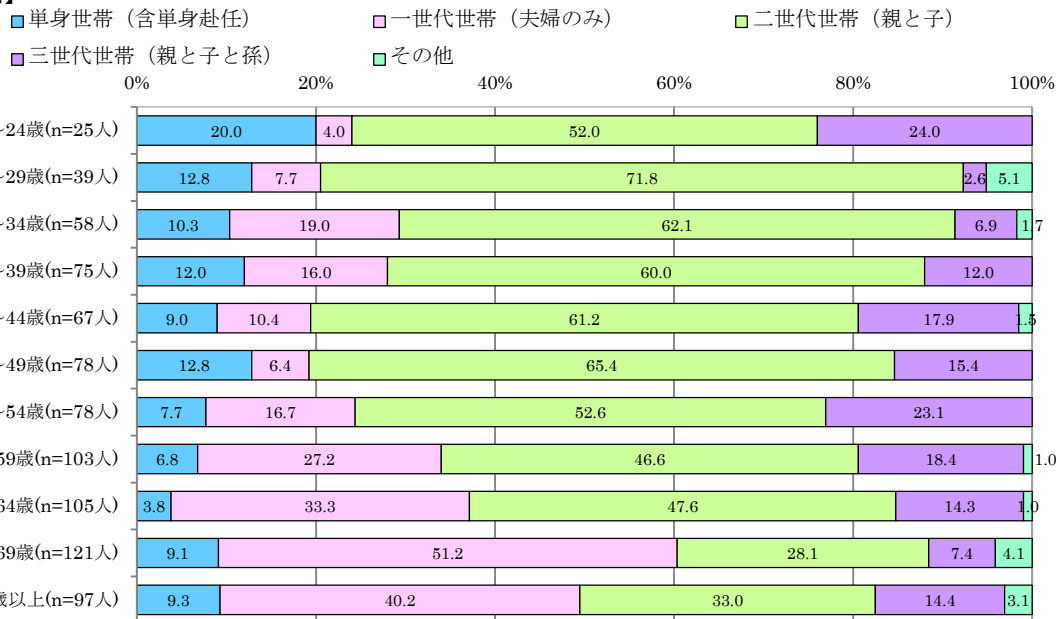
【全体】



【男女別】



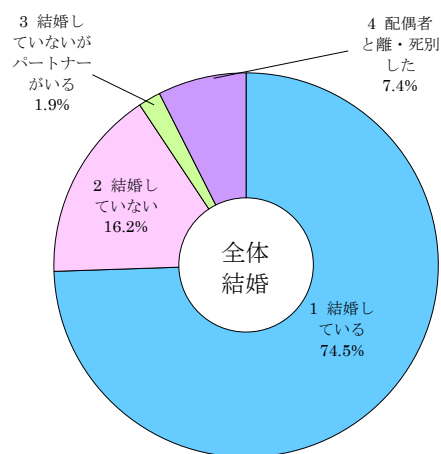
【年代別】



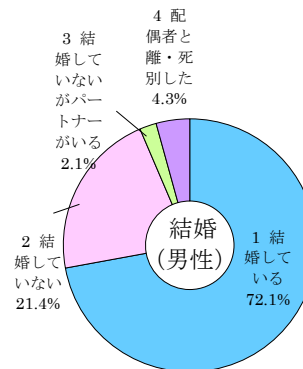
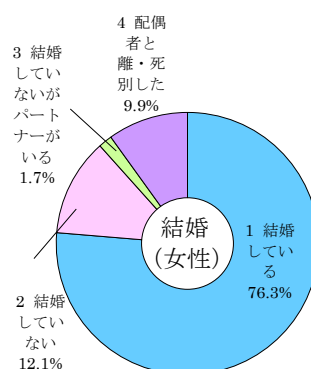
E あなたは現在、結婚していますか。

|                    | 回答者数（人） |     |     | 割合（%） |       |       |
|--------------------|---------|-----|-----|-------|-------|-------|
|                    | 全体      | 女性  | 男性  | 全体    | 女性    | 男性    |
| 1 結婚している           | 630     | 361 | 269 | 74.5  | 76.3  | 72.1  |
| 2 結婚していない          | 137     | 57  | 80  | 16.2  | 12.1  | 21.4  |
| 3 結婚していないがパートナーがいる | 16      | 8   | 8   | 1.9   | 1.7   | 2.1   |
| 4 配偶者と離・死別した       | 63      | 47  | 16  | 7.4   | 9.9   | 4.3   |
| 合計                 | 846     | 473 | 373 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

【全体】

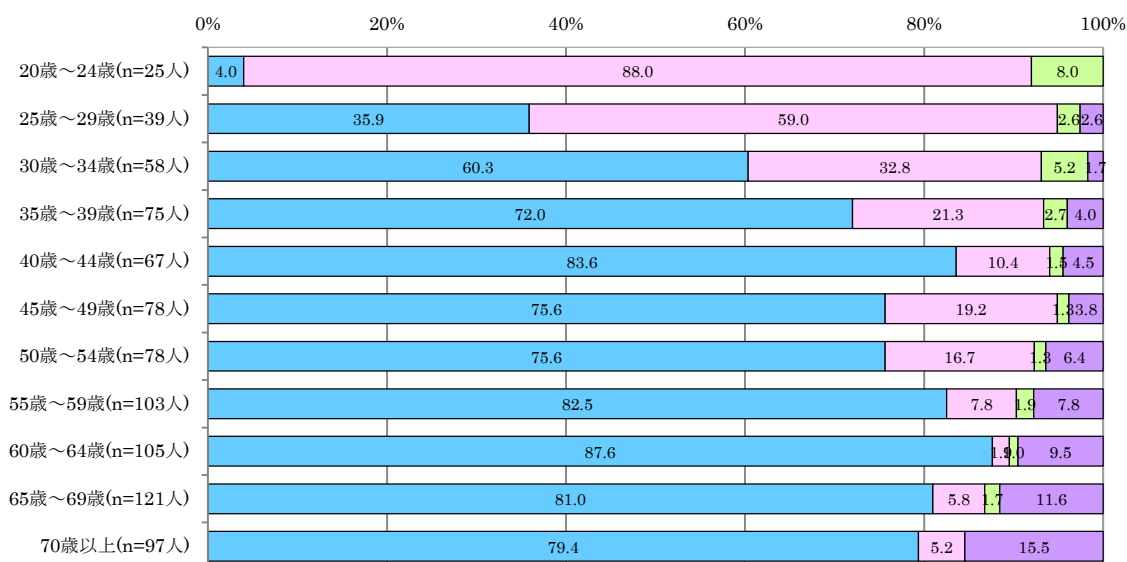


【男女別】



【年代別】

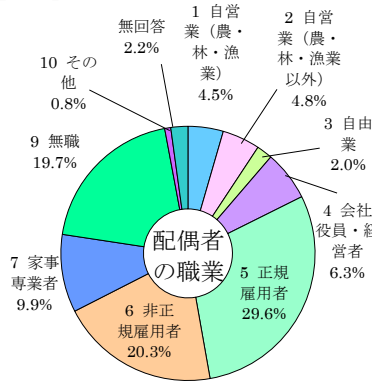
■ 結婚している ■ 結婚していない ■ 結婚していないがパートナーがいる ■ 配偶者と離・死別した



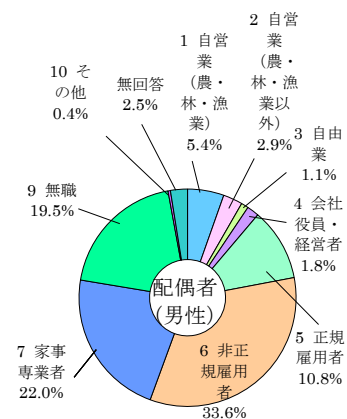
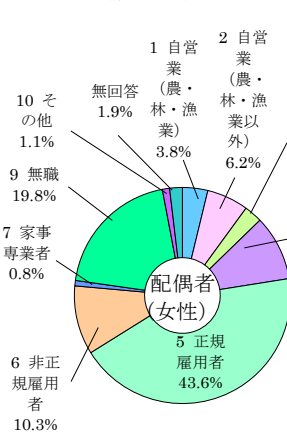
F Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。  
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

|                 | 回答者数（人） |     |     | 割合（%） |       |       |
|-----------------|---------|-----|-----|-------|-------|-------|
|                 | 全体      | 女性  | 男性  | 全体    | 女性    | 男性    |
| 1 自営業（農・林・漁業）   | 29      | 14  | 15  | 4.5   | 3.8   | 5.4   |
| 2 自営業（農・林・漁業以外） | 31      | 23  | 8   | 4.8   | 6.2   | 2.9   |
| 3 自由業           | 13      | 10  | 3   | 2.0   | 2.7   | 1.1   |
| 4 会社役員・経営者      | 41      | 36  | 5   | 6.3   | 9.8   | 1.8   |
| 5 正規雇用者         | 191     | 161 | 30  | 29.6  | 43.6  | 10.8  |
| 6 非正規雇用者        | 131     | 38  | 93  | 20.3  | 10.3  | 33.6  |
| 7 家事専業者         | 64      | 3   | 61  | 9.9   | 0.8   | 22.0  |
| 8 学生            | 0       | 0   | 0   | 0.0   | 0.0   | 0.0   |
| 9 無職            | 127     | 73  | 54  | 19.7  | 19.8  | 19.5  |
| 10 その他          | 5       | 4   | 1   | 0.8   | 1.1   | 0.4   |
| 無回答             | 14      | 7   | 7   | 2.2   | 1.9   | 2.5   |
| 合計              | 646     | 369 | 277 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

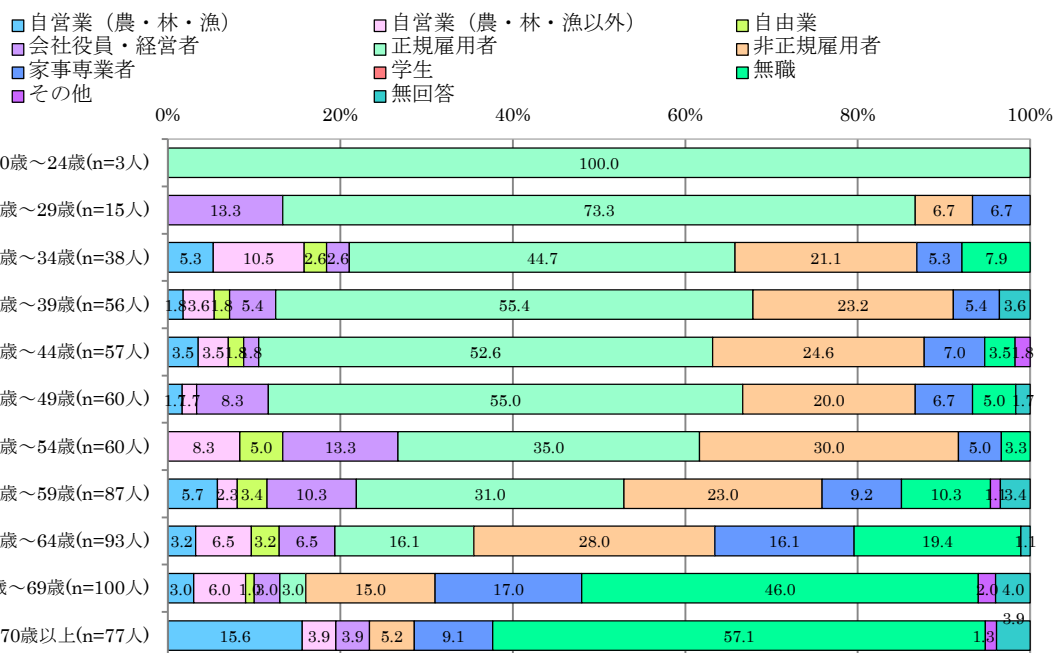
【全体】



【男女別】



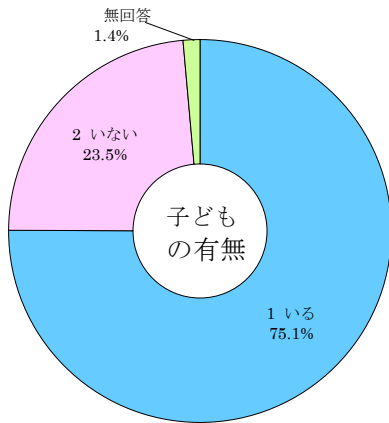
【年代別】



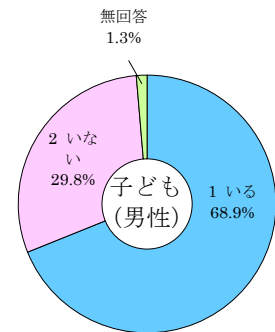
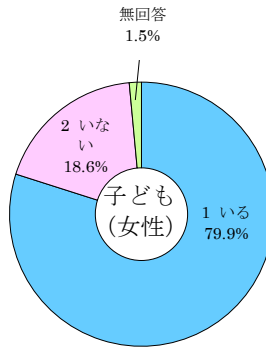
G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

|       | 回答者数（人） |     |     | 割合（%） |       |       |
|-------|---------|-----|-----|-------|-------|-------|
|       | 全体      | 女性  | 男性  | 全体    | 女性    | 男性    |
| 1 いる  | 635     | 378 | 257 | 75.1  | 79.9  | 68.9  |
| 2 いない | 199     | 88  | 111 | 23.5  | 18.6  | 29.8  |
| 無回答   | 12      | 7   | 5   | 1.4   | 1.5   | 1.3   |
| 合計    | 846     | 473 | 373 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

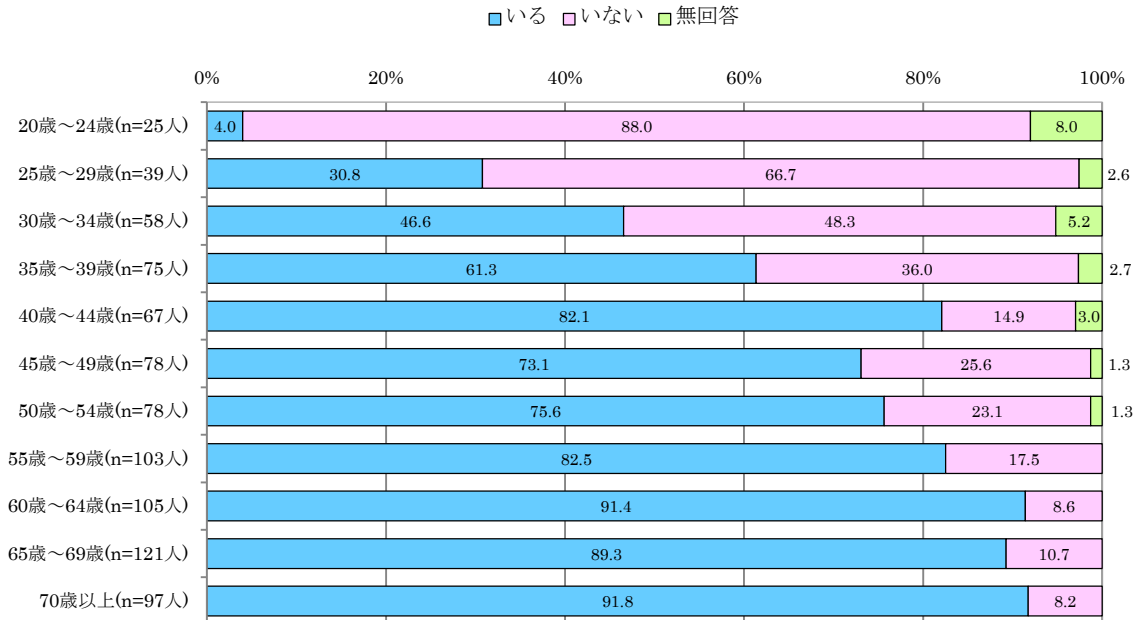
【全体】



【男女別】



【年代別】





### Ⅲ 結果の概要



## 1 一般的な問題

### (1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(51.8%)、「家庭」(40.9%)、「法律や制度」(35.7%)の3分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」においては、全体では「平等である」という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が23.6%、女性が48.2%をとり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が26.3%なのに対し、女性は46.3%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも約5割～9割となっている。

### (2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「ジェンダー(社会的性別)」、「女子差別撤廃条約」、「男女雇用機会均等法」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」の6つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合が高いのは、「男女雇用機会均等法」(93.0%)と「男女共同参画社会」(74.5%)、「ジェンダー(社会的性別)」(51.3%)の3つとなっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「ジェンダー(社会的性別)」は、年齢が20歳代前半での認知度が8割となり最も高くなっている。「男女雇用機会均等法」はすべての年代、性別においても8割以上の認知度となっている。

### (3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は41.7%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は56.0%となっている。前年に比べ、前者は2.2ポイント減少し、後者は1.3ポイント増加した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答が、半数を上回り、その差は徐々に大きくなっており、年代別でみると、20歳代前半と30歳代後半、40歳代後半の女性の割合が7割を超えている。

また、女性が働くことへの考え方に関しては、男女共に「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

## 2 労働に関する問題

### 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」の4つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男女とも4割以上が回答している。また、「賃金」に関しては、「女性の方が優遇されている」という回答がほとんどないという結果となっている。

### 3 仕事と家庭生活の調和に関する問題

#### (1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の25.3%となっており、認知度は依然として低いが、前年より1.3ポイント増加している。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が29.2%と女性の22.2%より多くなっている。

#### (2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となった。現実の生活では、『家庭生活』優先」が最も多い回答となっている。しかし、男性が10.7%、女性が38.7%となっており、男女間での差が大きくなっている。

#### (3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみを捨てる」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみを捨てる」(41.8%)、女性では、「食事のしたく」(79.9%)、「洗濯」(77.8%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」(46.9%)、「洗濯」(45.0%)で、女性では、「ごみを捨てる」(11.8%)であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が4割を超えている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」を選んだ方が、男性は20.2%、女性は61.7%と差が大きい。介護に関しては男性が22.3%、女性が29.9%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「利用しにくい雰囲気があるから」(54.0%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(51.1%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(43.9%)といった理由で利用が進まないといった状況となっている。

### 4 地域社会に関する問題

#### 自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」で、46.9%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」42.0%、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」38.4%と多くなっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、4割(44.2%)を超えている。次いで、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること」(22.0%)と「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」(20.1%)と続いている。

## 5 男女の人権に関する問題

### DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が24.7%に対し、女性は43.1%と男性の2倍近くになっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が21.7%、女性では「受けたことがある」という回答が21.1%と比較的多くなっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（地域安全推進室）」で約4割（38.5%）となっている。次いで、「児童虐待・DV24時間ホットライン」（26.2%）、「長野市福祉事務所」（22.7%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、5割（52.0%）を超えている。

## 6 男女共同参画施策に関する問題

### （1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（36.2%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（28.1%）が続いており、合わせて64.3%の方が「増えた方がよい」と考えている。

また、政策決定の場に女性が増えることで何を期待するか尋ねたところ、最も多い回答は「女性が持つ意見や発想が活かされる」（50.6%）となっており、男女とも約5割の回答割合となる。

### （2）男女共同参画社会実現へ向けた拠点施設の機能と行政に期待することについて

拠点施設の機能としては、「相談機能の充実」（43.0%）が最も多くなっている。次いで、「女性リーダーの育成」（36.2%）、「市民団体への活動の場の提供」（35.8%）の順で続いている。

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（49.6%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（37.2%）、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」（28.5%）の順で続いている。



## IV 調査の結果





---

## 一般的な問題

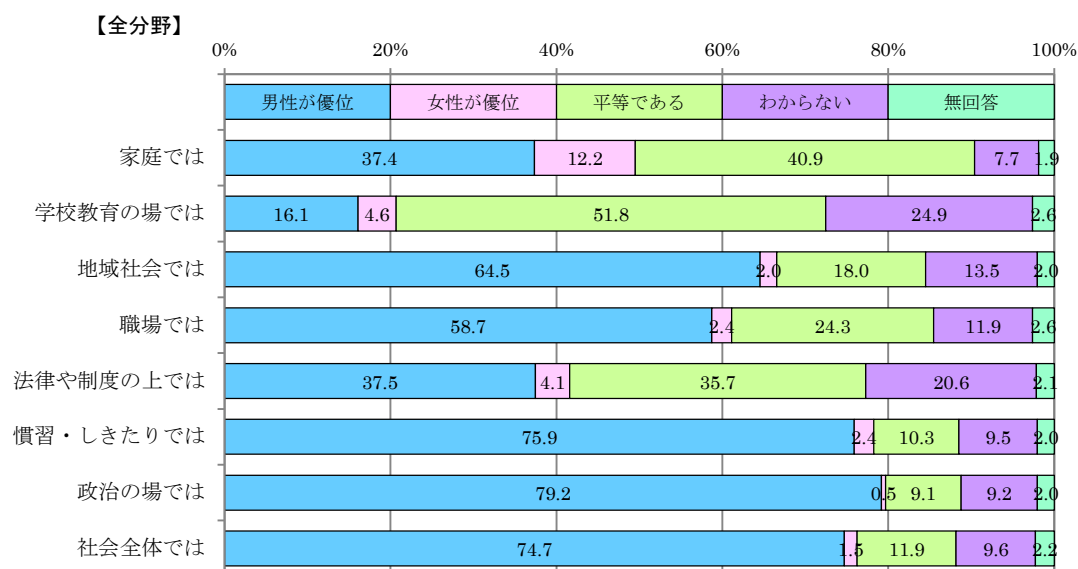
---



問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

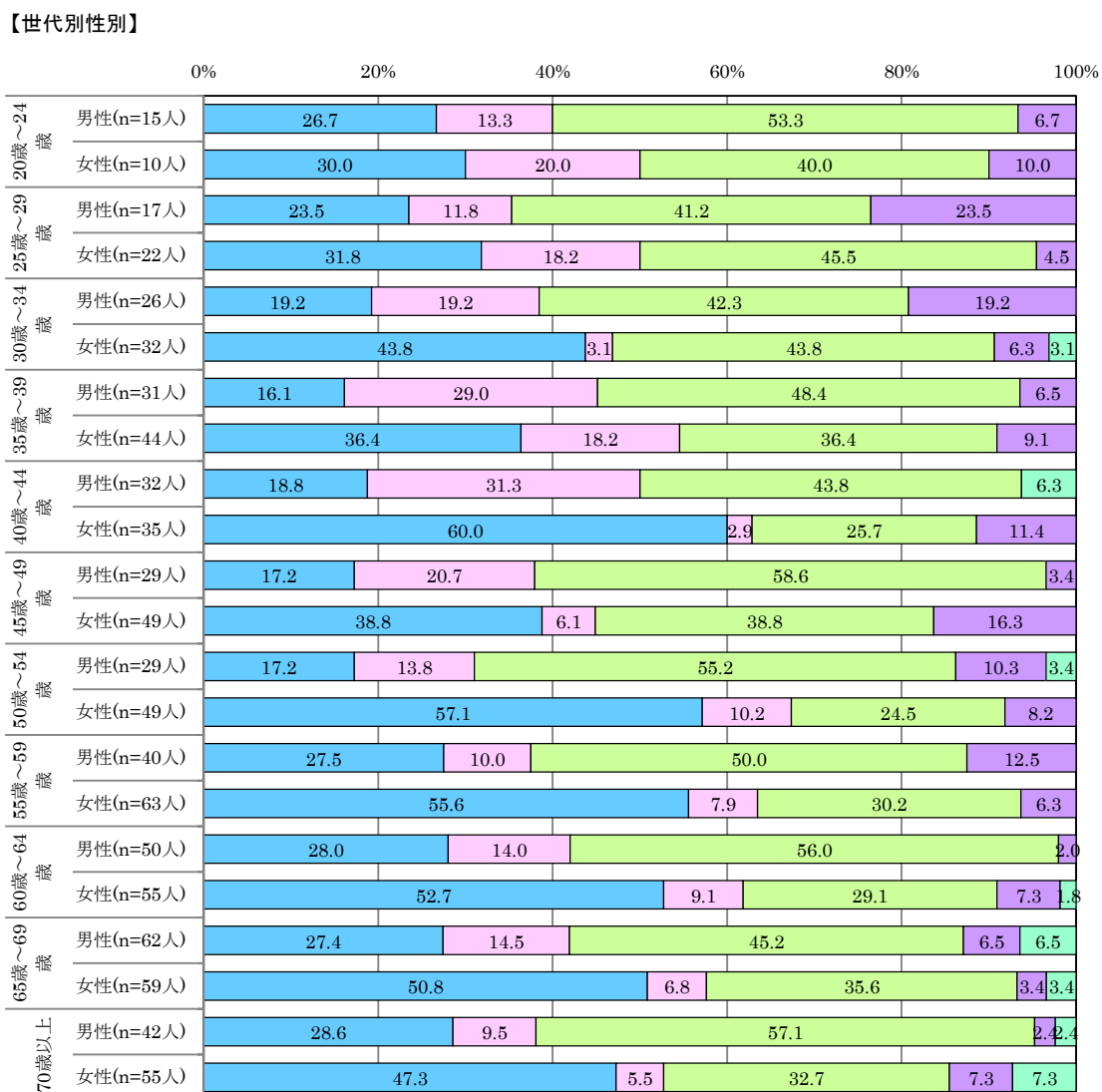
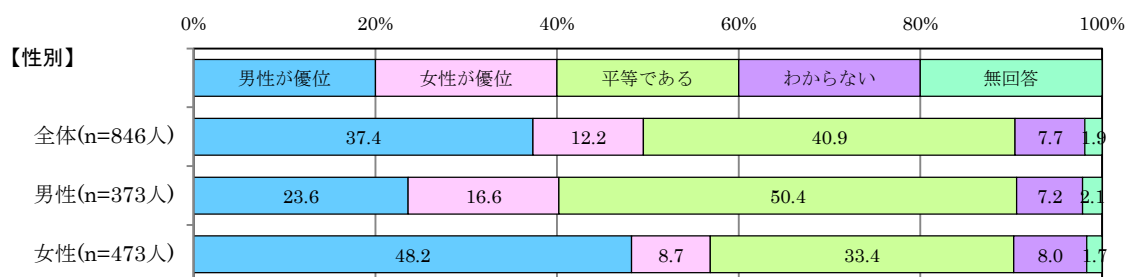
- ・「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(51.8%)、「家庭」(40.9%)、「法律や制度」(35.7%)の3分野となっている。
- ・一方、「地域社会」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では、「男性が優位」という回答がいずれも6割以上で最も多い回答となっている。なかでも「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では7割を超えており、その他の分野に比べて「男性が優位」という回答が多い。

全体 (n=846人)



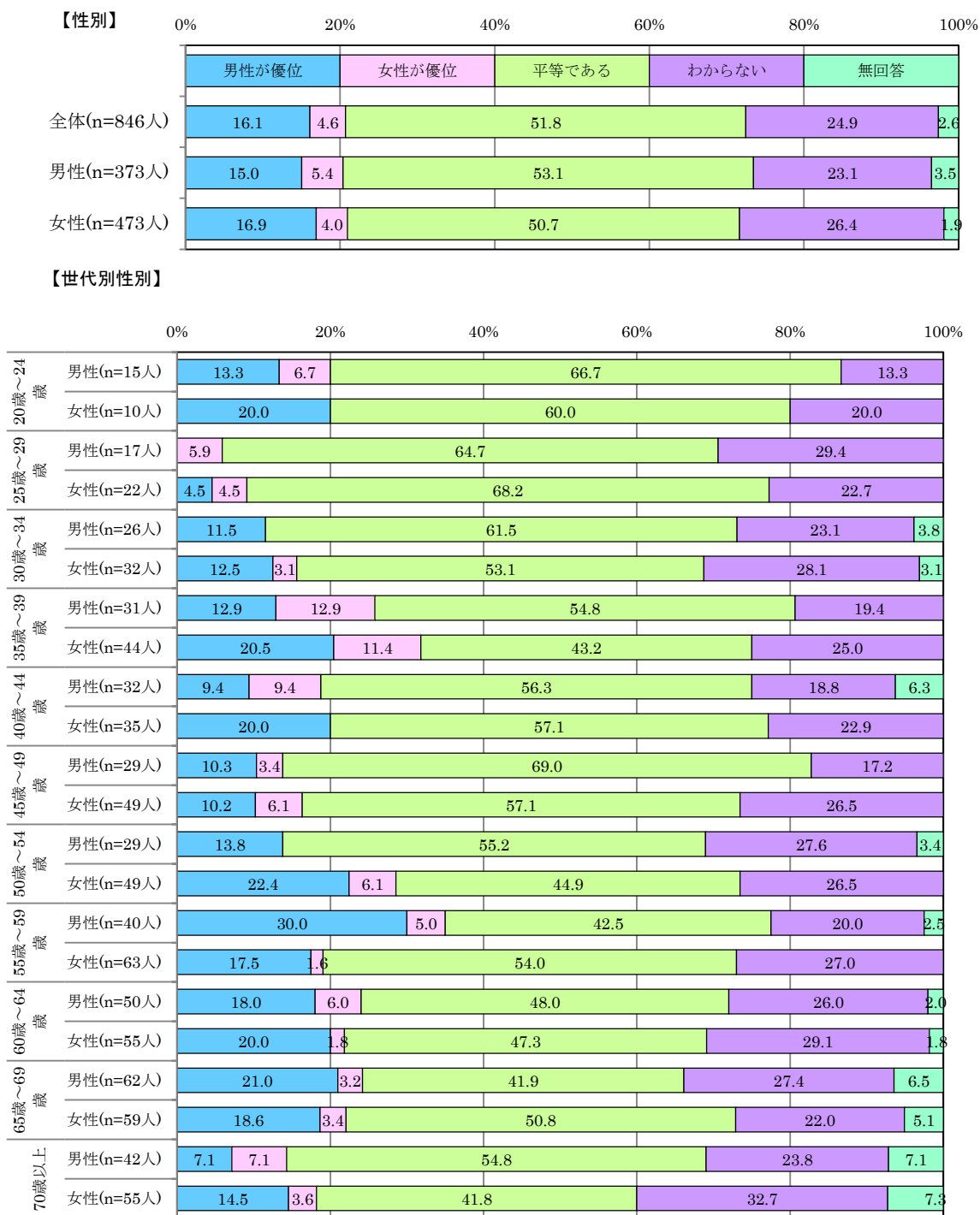
## 1 家庭では

- 性別でみると、男性は、「平等である」(50.4%)という回答が最も多く、5割を超えているが、女性の回答は約3割(33.4%)となっている。「男性が優位」という回答は、男性においては約2割(23.6%)となっているが、女性では約5割(48.2%)となり、最も多い回答となっている。
- 世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性では40歳～44歳と50歳代、60歳代で多く、回答割合が5割を超えている。男性では、いずれも「平等である」という回答が最も多い。



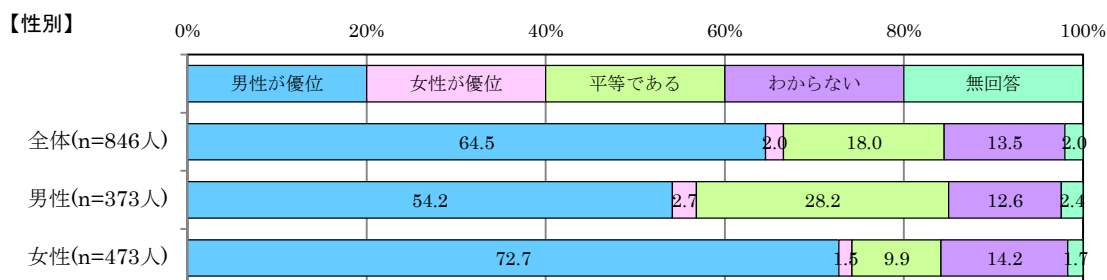
## 2 学校教育の場では

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（53.1%）、女性（50.7%）とともに約5割となっている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、男性では、55歳～59歳の男性で約3割となり、そのほかの世代に比べ高い回答割合となっている。一方で、女性の20歳～24歳、40歳～44歳、男性の30歳～34歳、50歳～54歳においては、「女性が優位」という回答はなしとなっている。また、25歳～29歳の男性においては「男性が優位」という回答はなしとなっている。

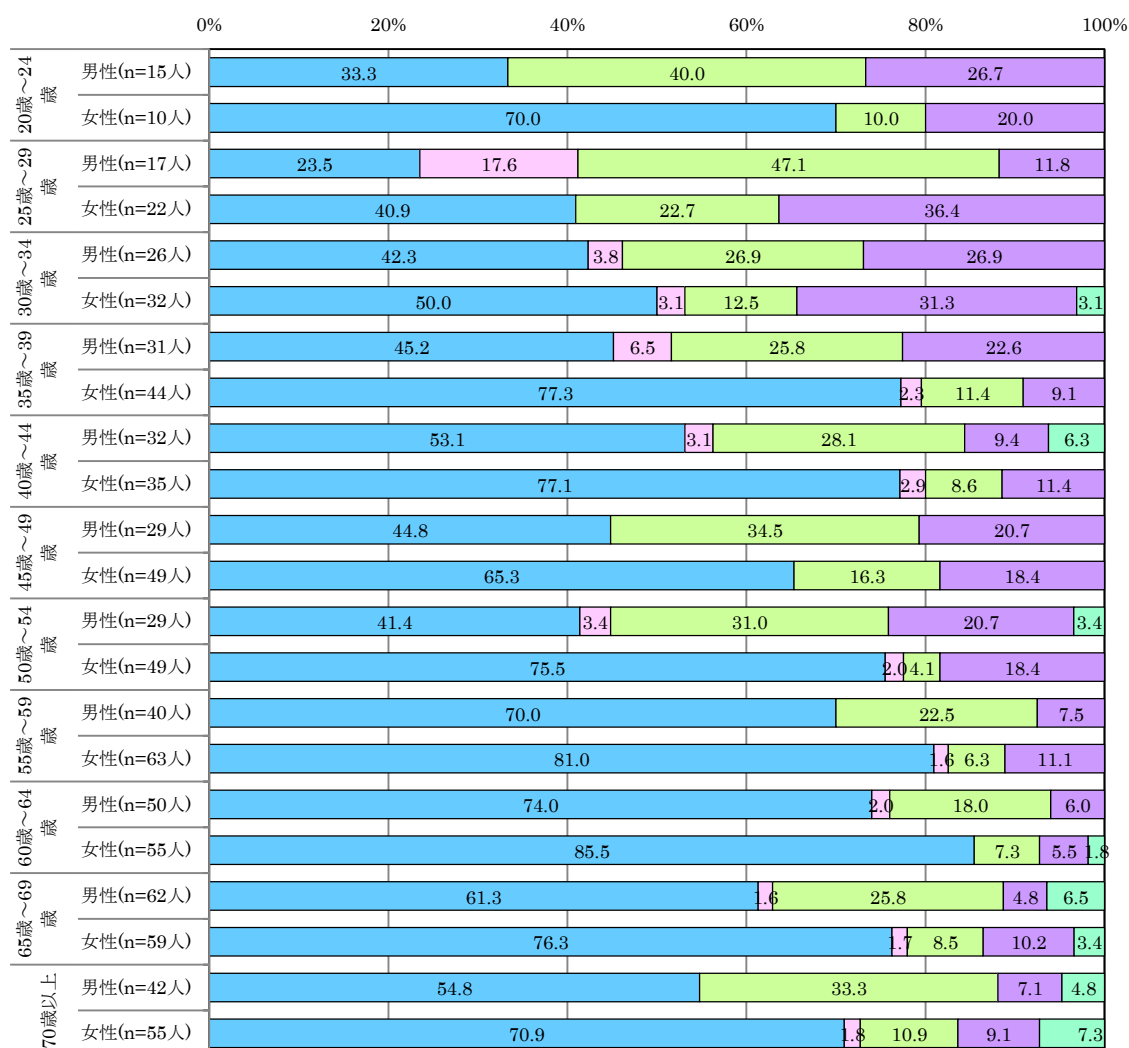


### 3 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性が約5割（54.2%）、女性が約7割（72.7%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約3割（28.2%）、女性が約1割（9.9%）となる。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも女性の55歳～59歳、60歳～64歳においては「男性が優位」という回答が8割を超えている。

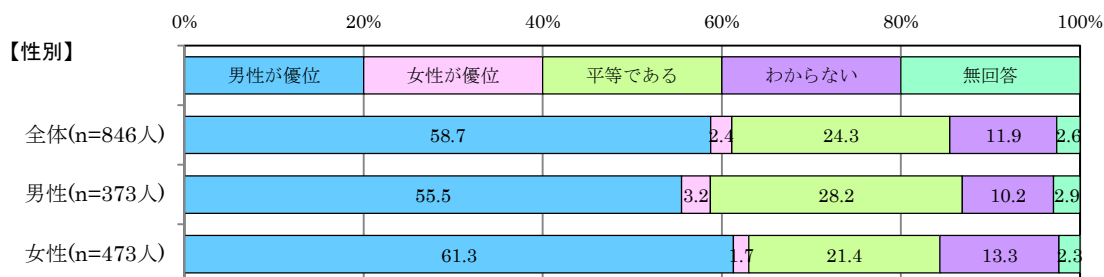


【世代別性別】

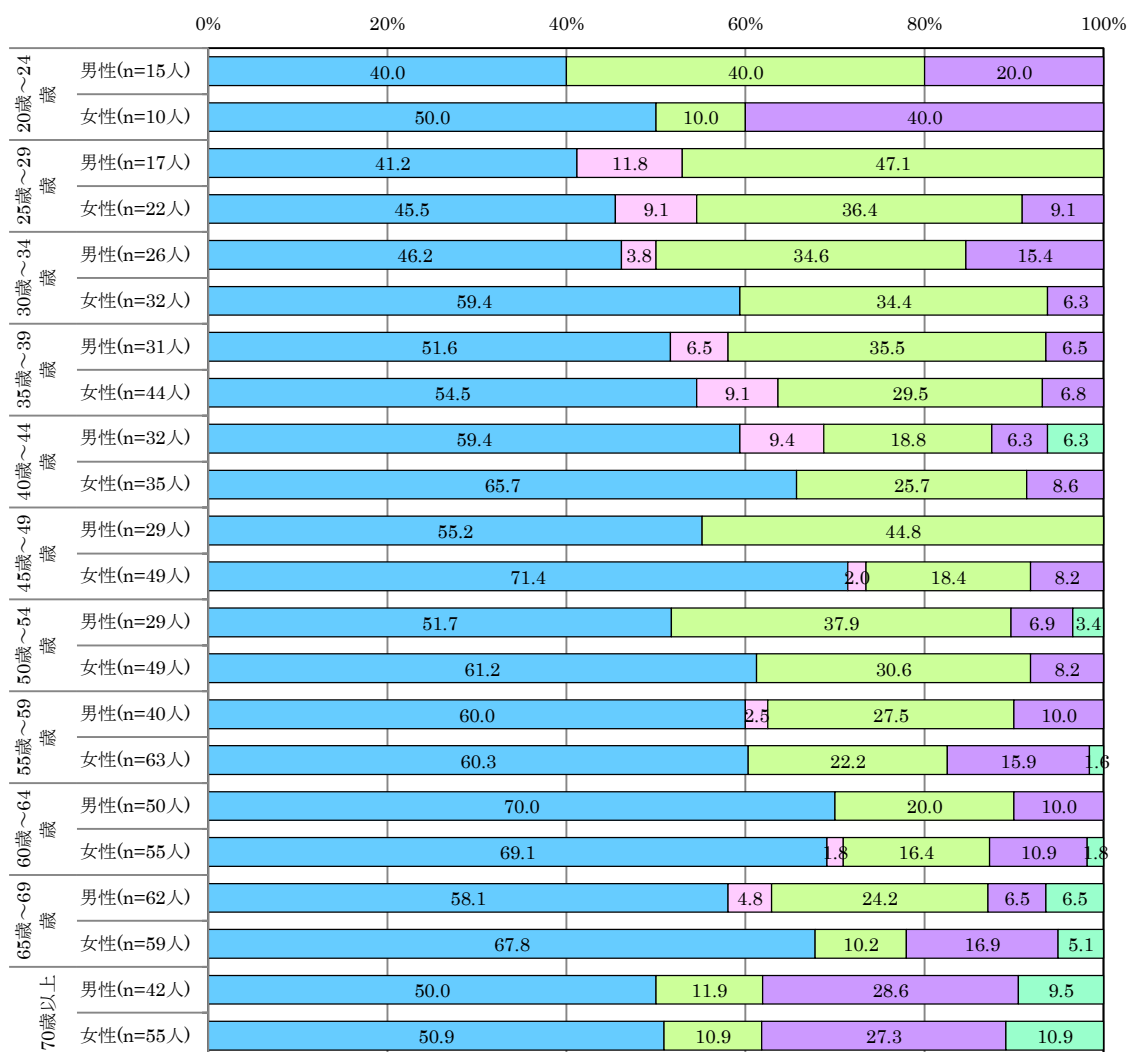


#### 4 職場では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性が約5割（55.5%）、女性が約6割（61.3%）となっている。「平等である」という回答は、男性の約3割（28.2%）に対し、女性は約2割（21.4%）となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性においては「平等である」という回答が最も多くなっている。20歳～24歳の男性においては「男性が優位」と「平等である」が同じ割合となっている。それ以外の世代では、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い。

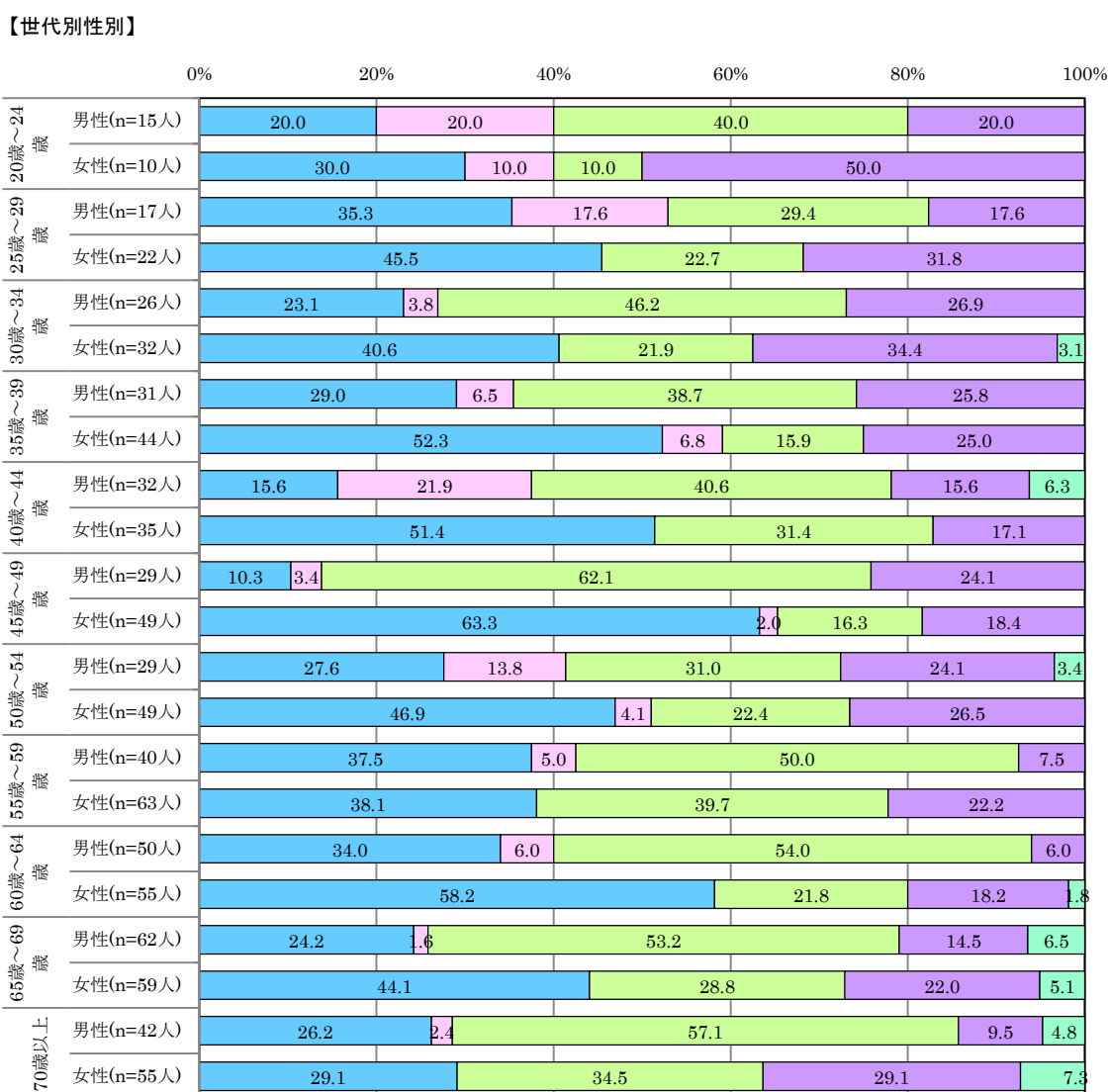
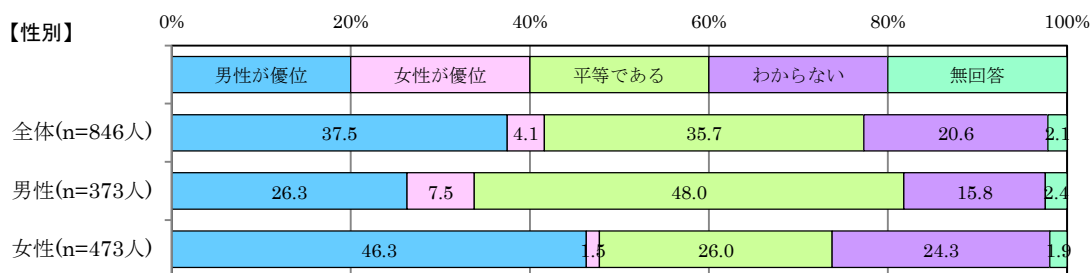


【世代別性別】



## 5 法律や制度の上では

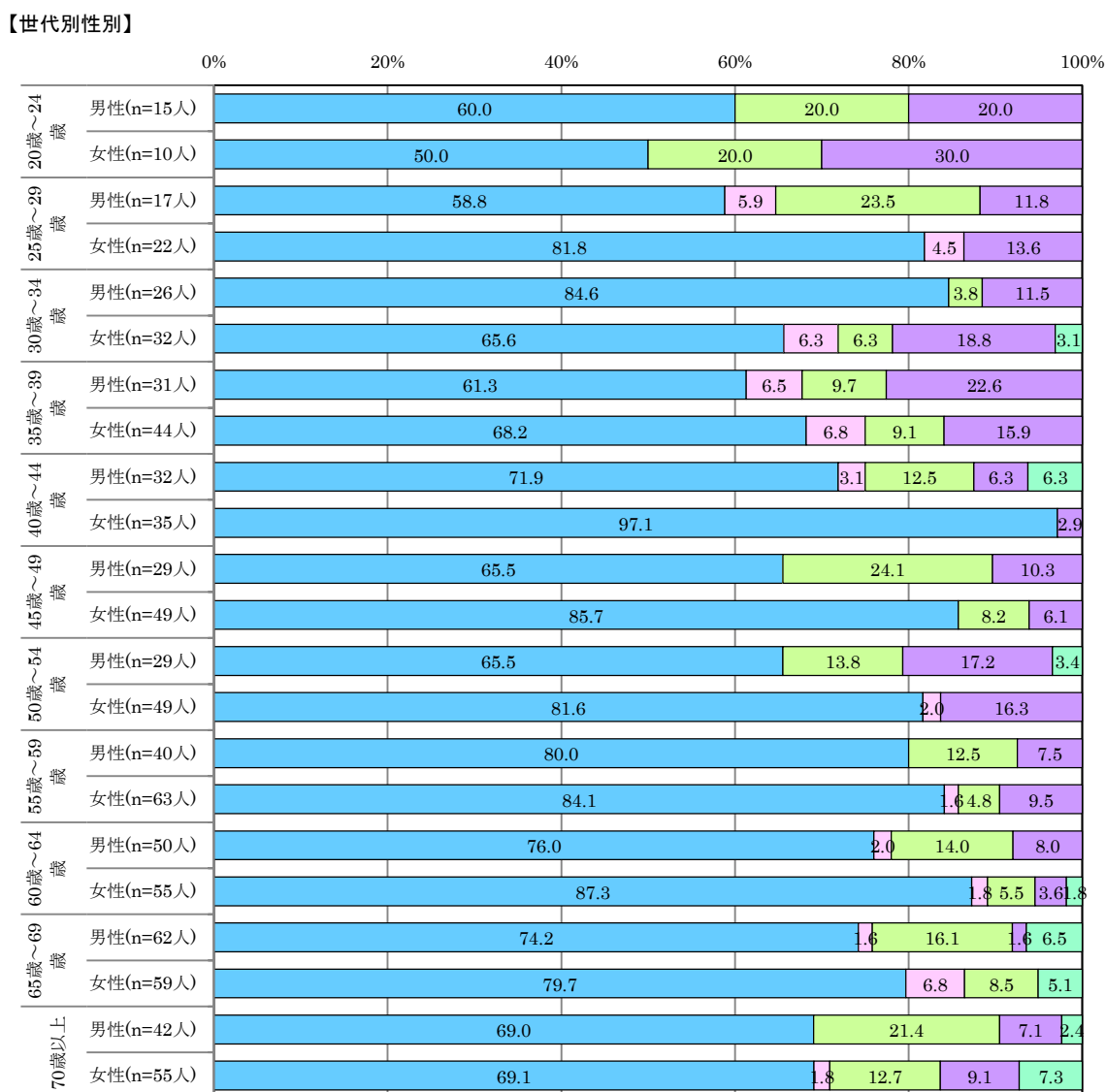
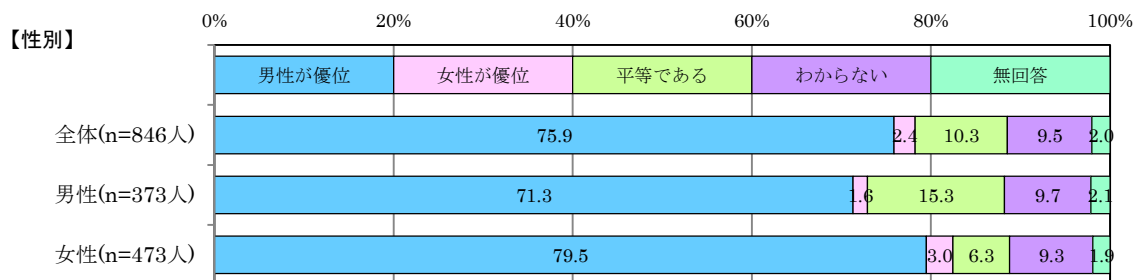
- ・性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（48.0%）となっている。一方、女性は「男性が優位」（46.3%）という回答が、「平等である」（26.0%）という回答を大きく上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別でみると、男性では、25歳～29歳以外の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・女性においては、45歳～49歳で、「男性が優位」という回答が6割（63.3%）を超えている。25歳～29歳、30歳～34歳、40歳～44歳、55歳～59歳、60歳代、70歳以上の世代で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。





## 6 慣習・しきたりでは

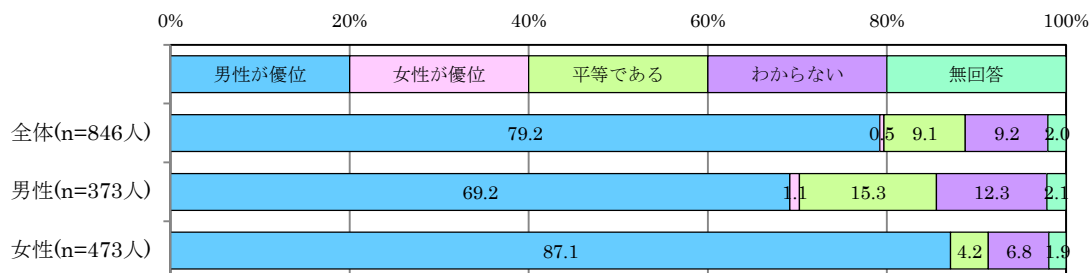
- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約7割（71.3%）、女性は約8割（79.5%）となっている。
- ・世代別性別でみると、女性では、20歳～24歳、30歳代、70歳以上を除き、「男性が優位」という回答がいずれも7割以上となっている。特に、40歳～44歳の女性においては97.1%と極めて高い。
- ・男性においては、55歳～59歳で「男性が優位」という回答が8割（80.0%）となっている。



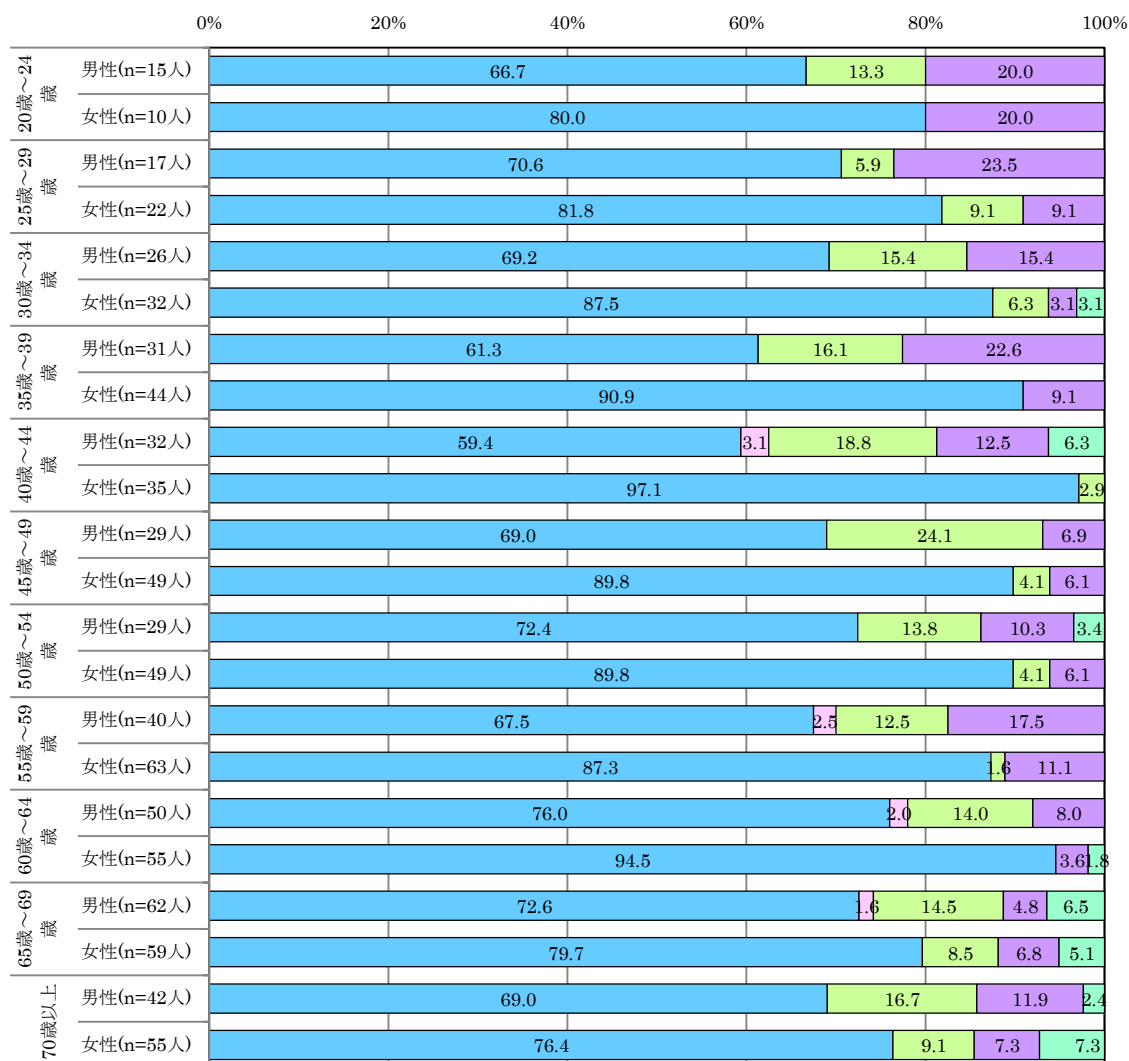
## 7 政治の場では

- ・性別でみると、男性は約7割（69.2%）、女性は約9割（87.1%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（15.3%）なのに対して、女性は1割未満（4.2%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

### 【性別】

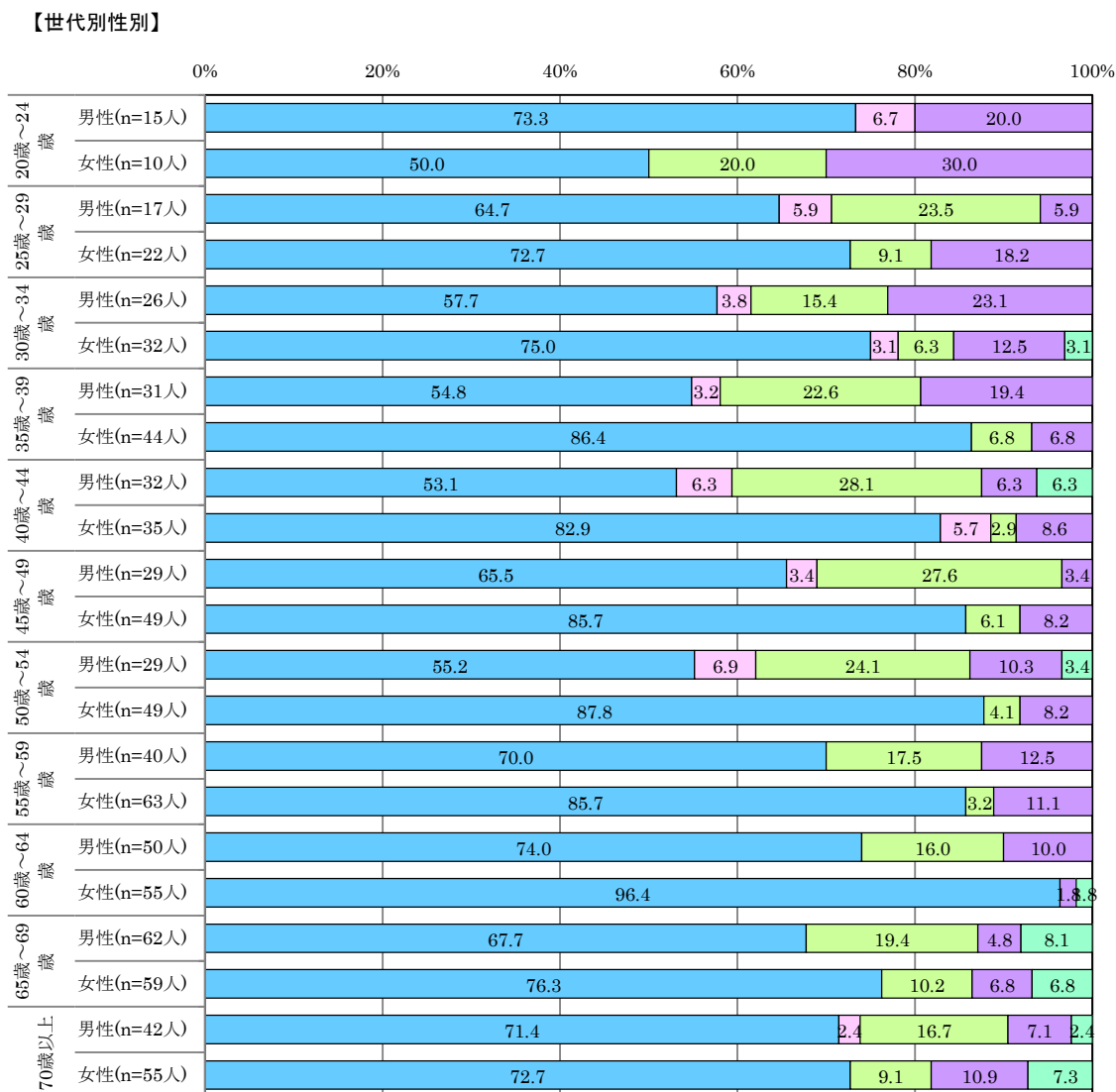
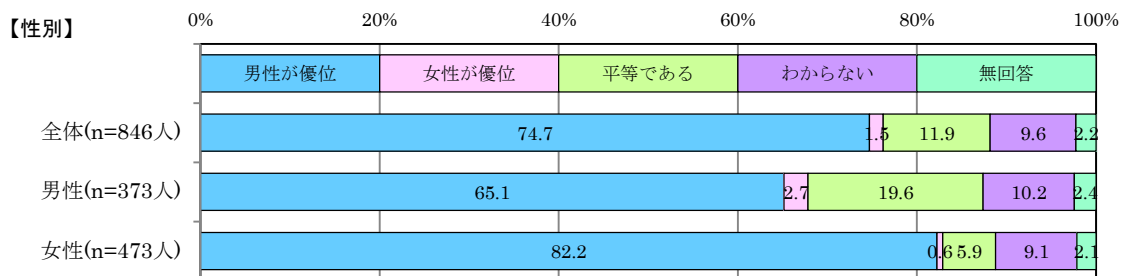


### 【世代別性別】



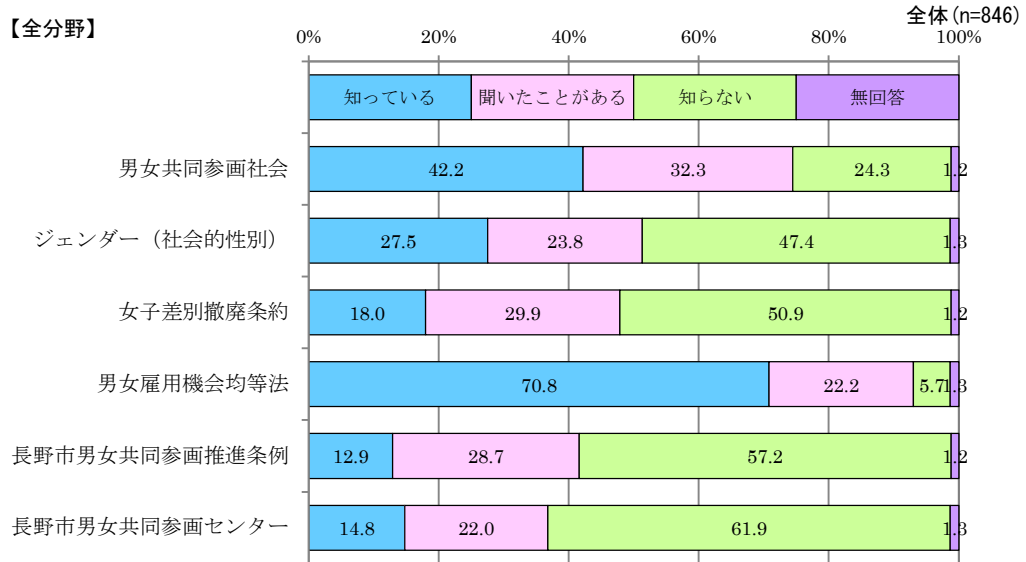
## 8 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、いずれも6割を超えている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（19.6%）、女性が約1割以下（5.9%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多い。



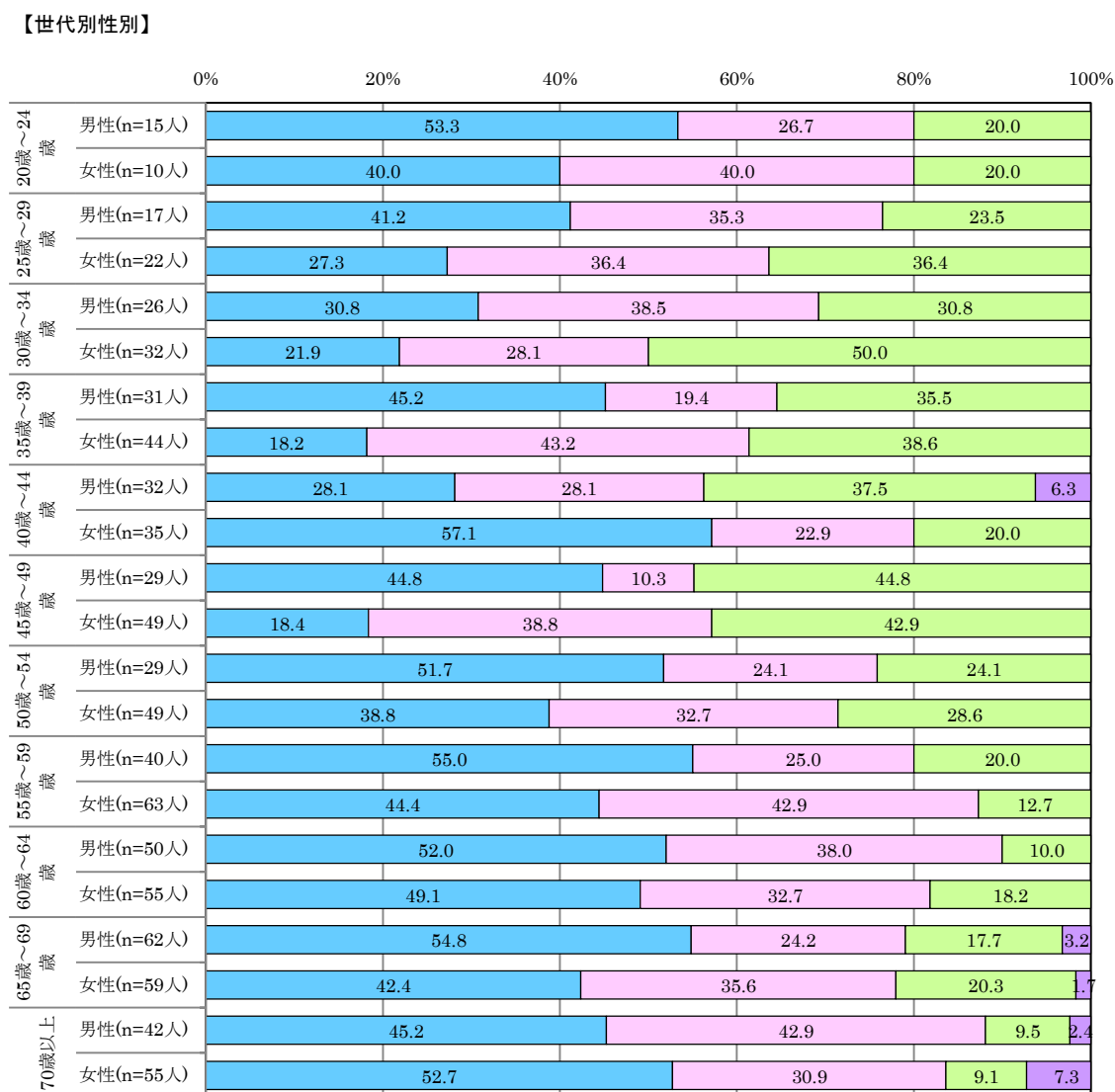
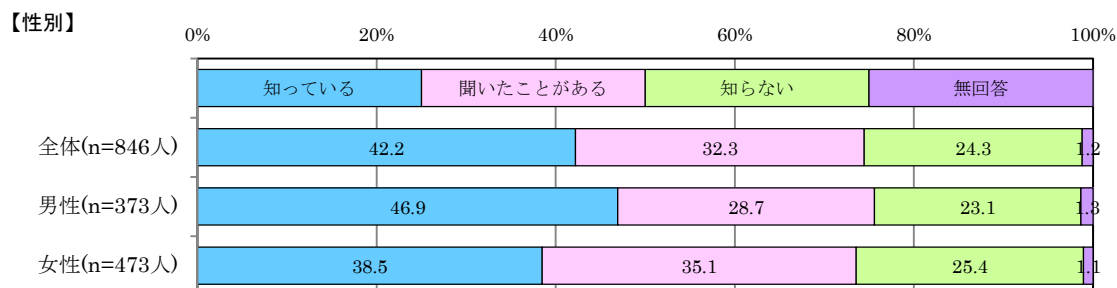
問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答を合計すると、「男女雇用機会均等法」は約9割（93.0%）となり、高い回答割合となっている。次いで、「男女共同参画社会」も約7割（74.5%）と認知度が高い。一方、「ジェンダー（社会的性別）」は約5割（51.3%）、「女子差別撤廃条約」が約5割（47.9%）、「長野市男女共同参画推進条例」（41.6%）と、「長野市男女共同参画センター」（36.8%）が約4割となっている。



# 1 男女共同参画社会

- ・性別では、「知っている」及び「聞いたことがある」の回答の合計は、男女とも7割を超えている。
- ・世代別性別でみると、男性は45歳～49歳で、「知らない」という回答が4割を超えている。一方、女性は30歳～34歳で「知らない」が最も多い回答で、5割となっている。



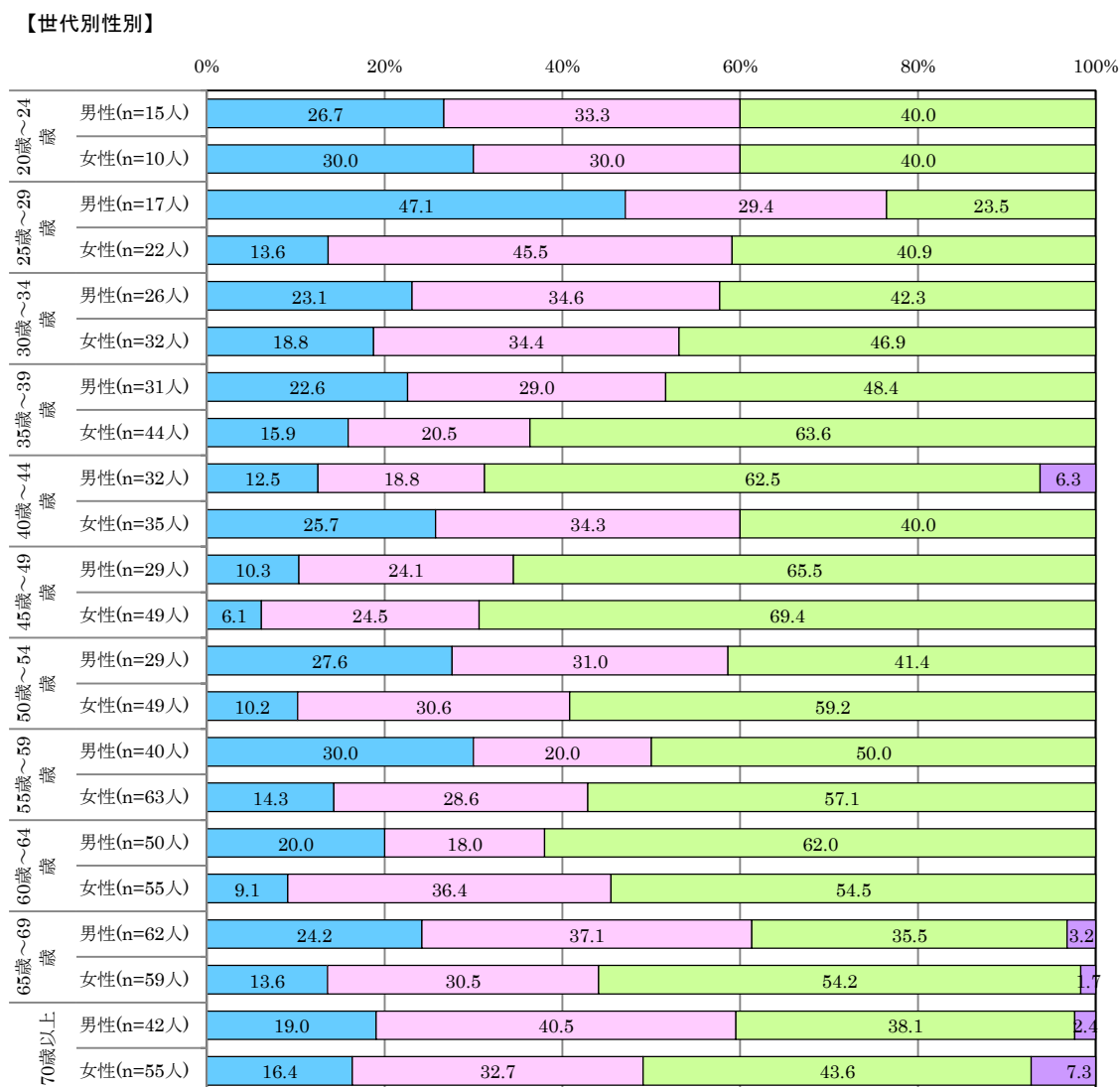
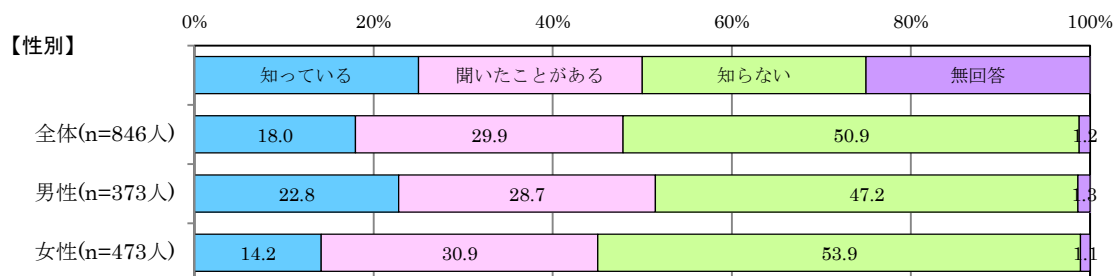
## 2 ジェンダー（社会的性別）

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多い回答となり、男性が49.3%、女性が45.9%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が49.3%、女性が52.9%となり、女性の方が男性よりやや回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、40歳～44歳の男性では、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が最も少ない結果となっている。



### 3 女子差別撤廃条約

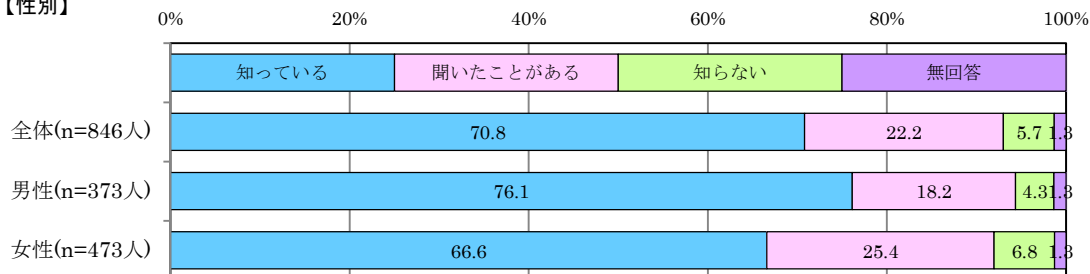
- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が47.2%、女性が53.9%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が51.5%、女性が45.1%で、やや男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性では25歳～29歳の年代で、女性では20歳～24歳、40歳～44歳の年代で最も多くなっている。
- ・25歳～29歳の男性では、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が7割を超えている。



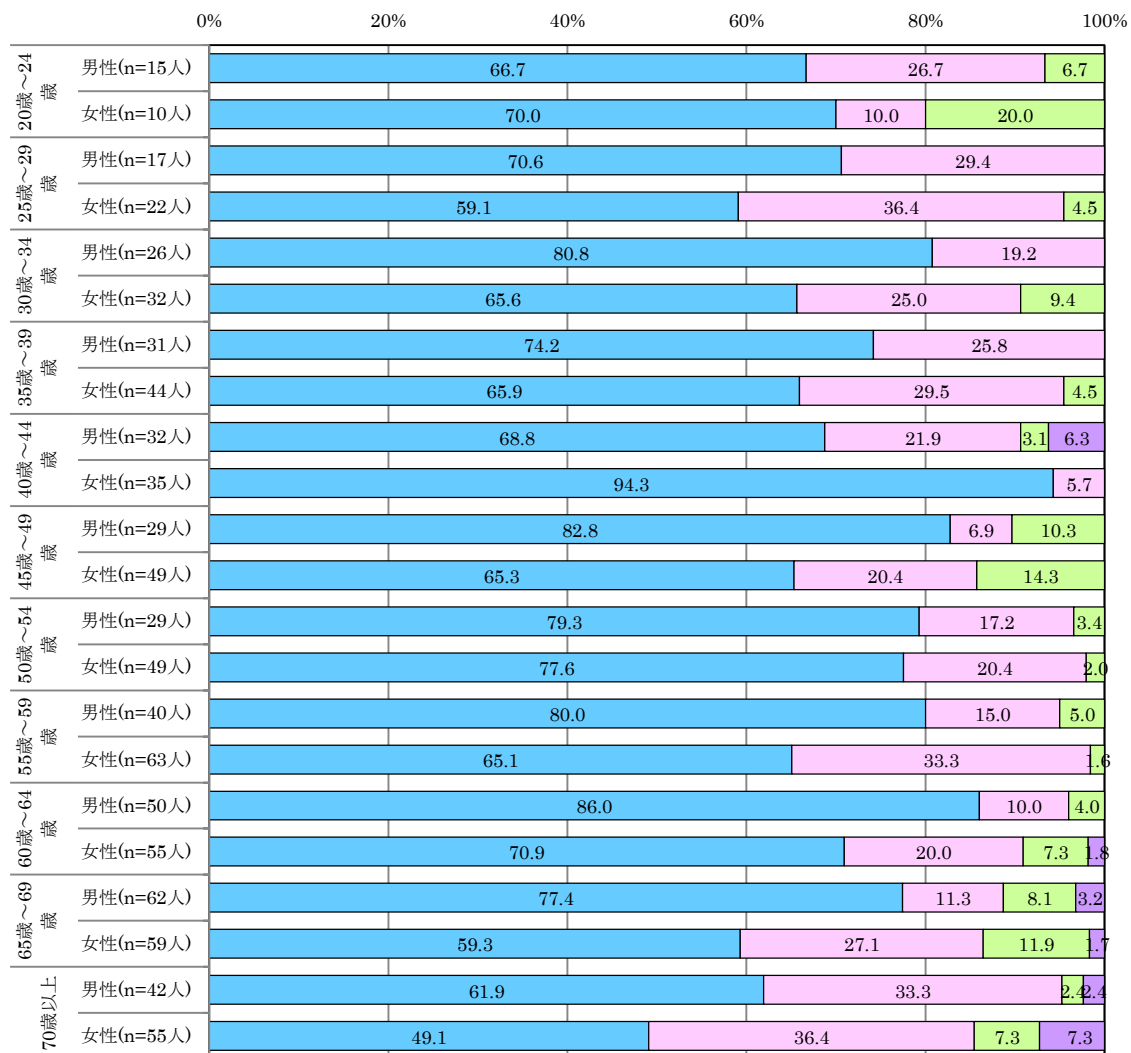
#### 4 男女雇用機会均等法

- ・性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が94.3%、女性が92.0%で、どちらも9割を超えている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳、30歳代の男性、40歳～44歳の女性では、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が100.0%になっている。

【性別】



【世代別性別】

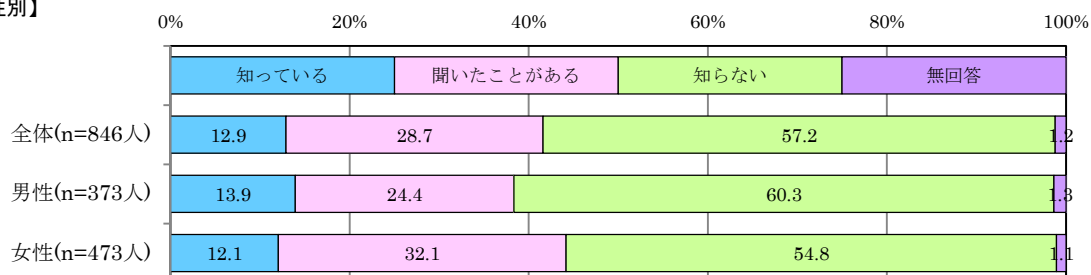




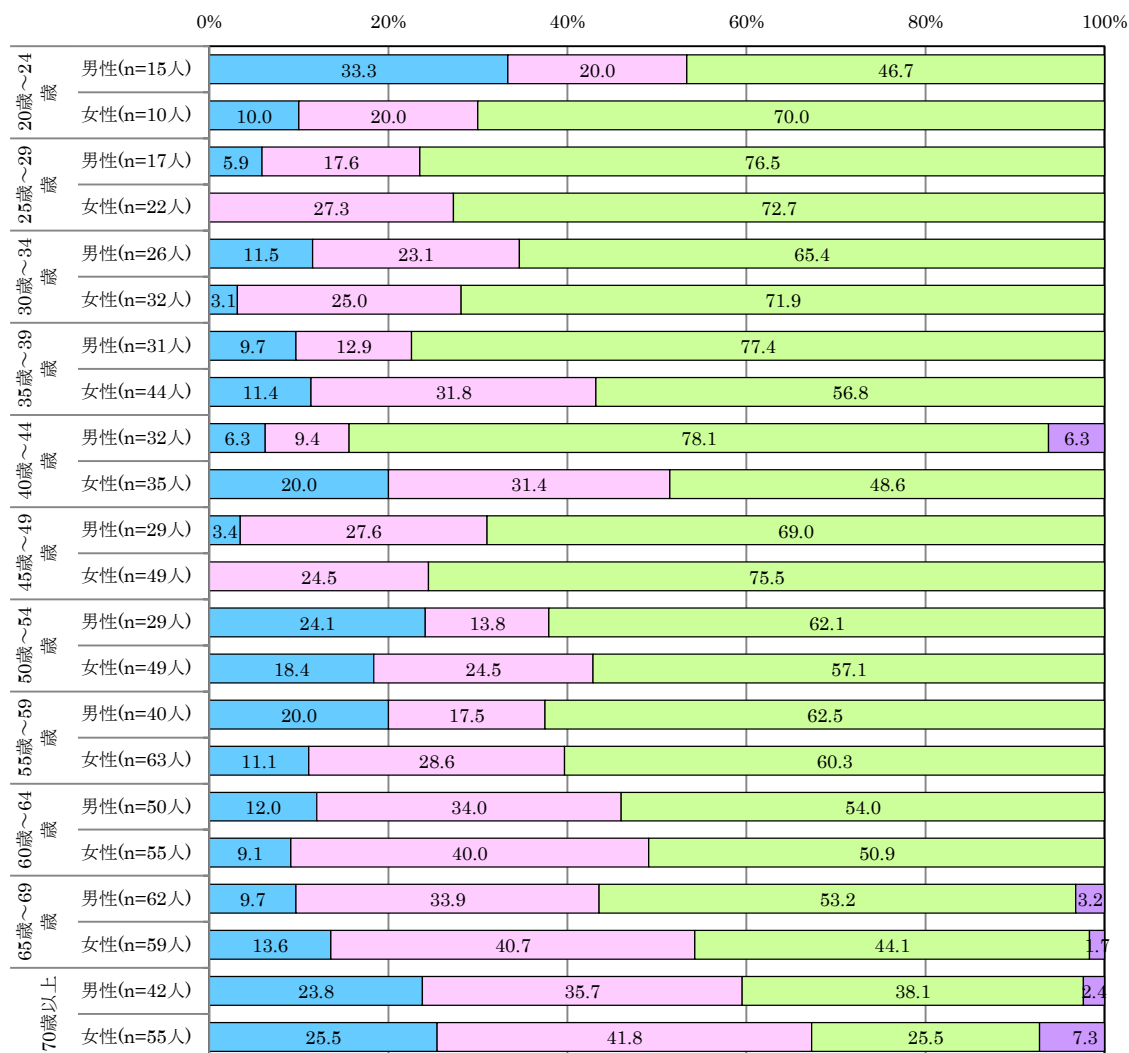
## 5 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性で約6割（60.3%）、女性は約5割（54.8%）となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が38.3%、女性が44.2%となっており、若干女性の方が多い。
- ・世代別性別でみると、40歳～44歳の男性では「知らない」という回答は約8割となっており。70歳以上の世代で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が約6割以上となっている。

### 【性別】

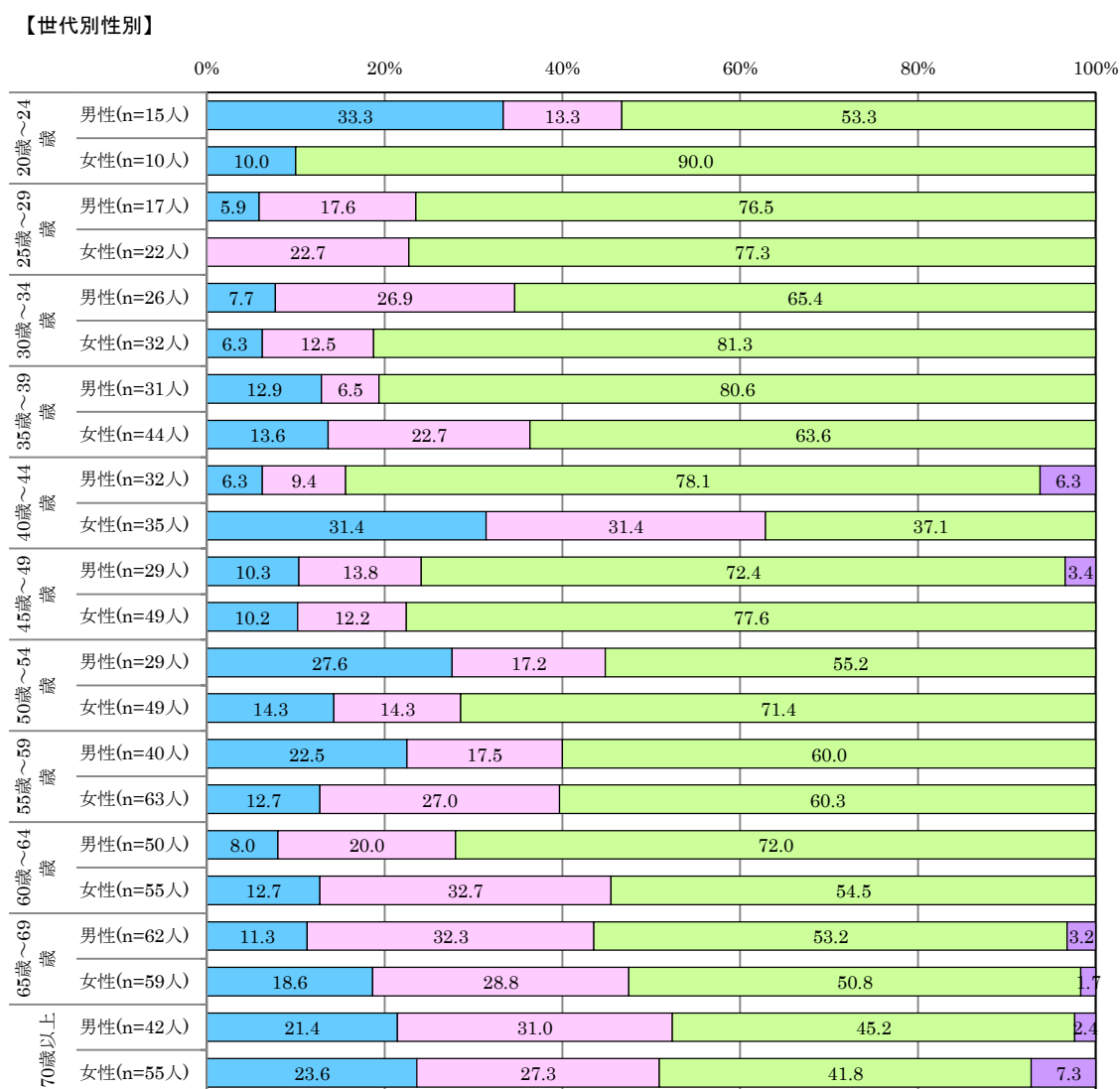
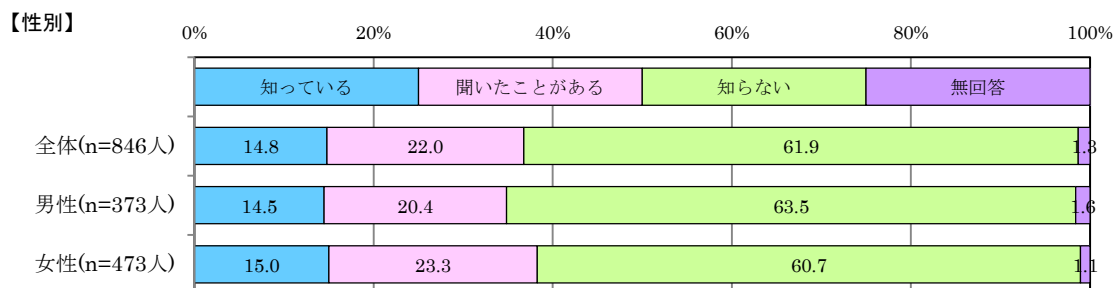


### 【世代別性別】



## 6 長野市男女共同参画センター

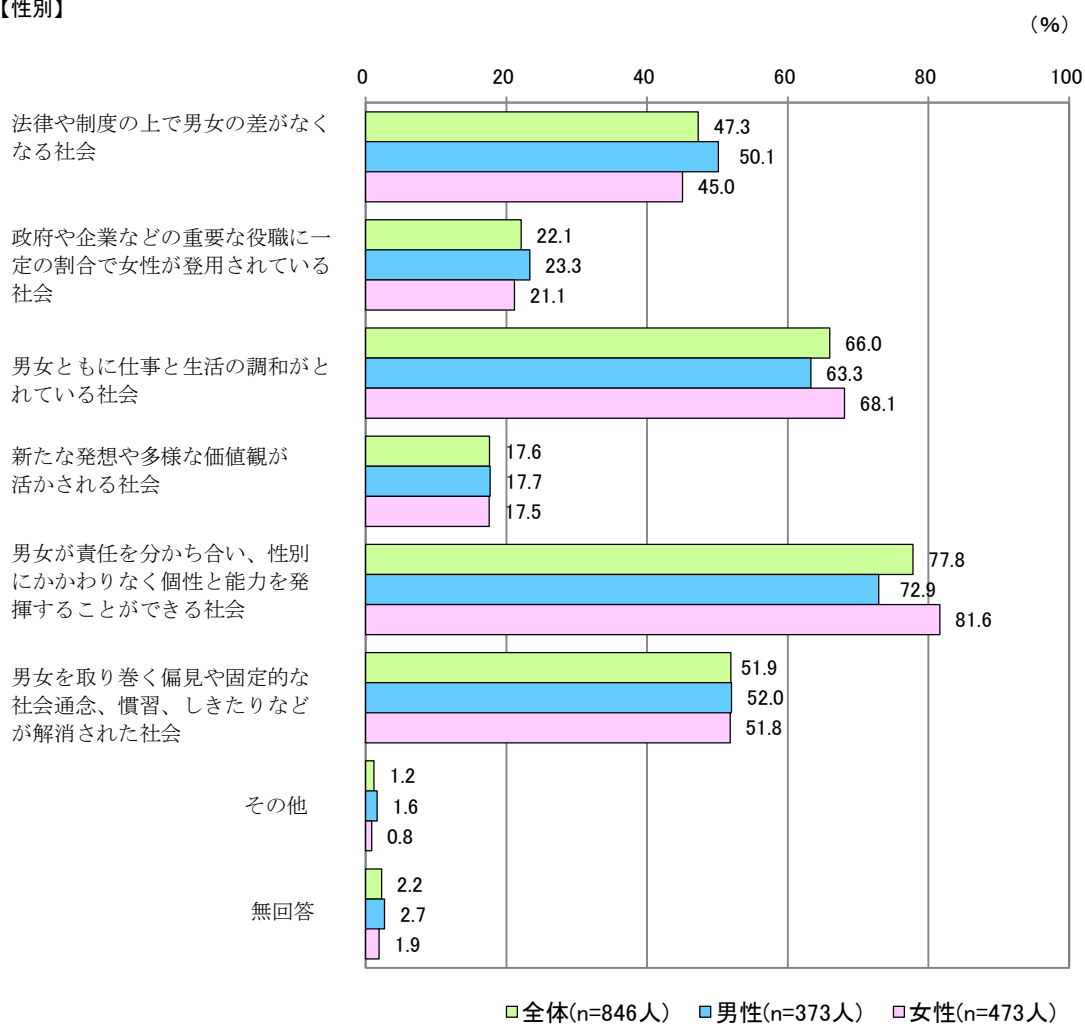
- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が63.5%、女性が60.7%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が34.9%、女性が38.3%となり、若干女性の方が多い。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性では9割が「知らない」という回答となっている。



問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

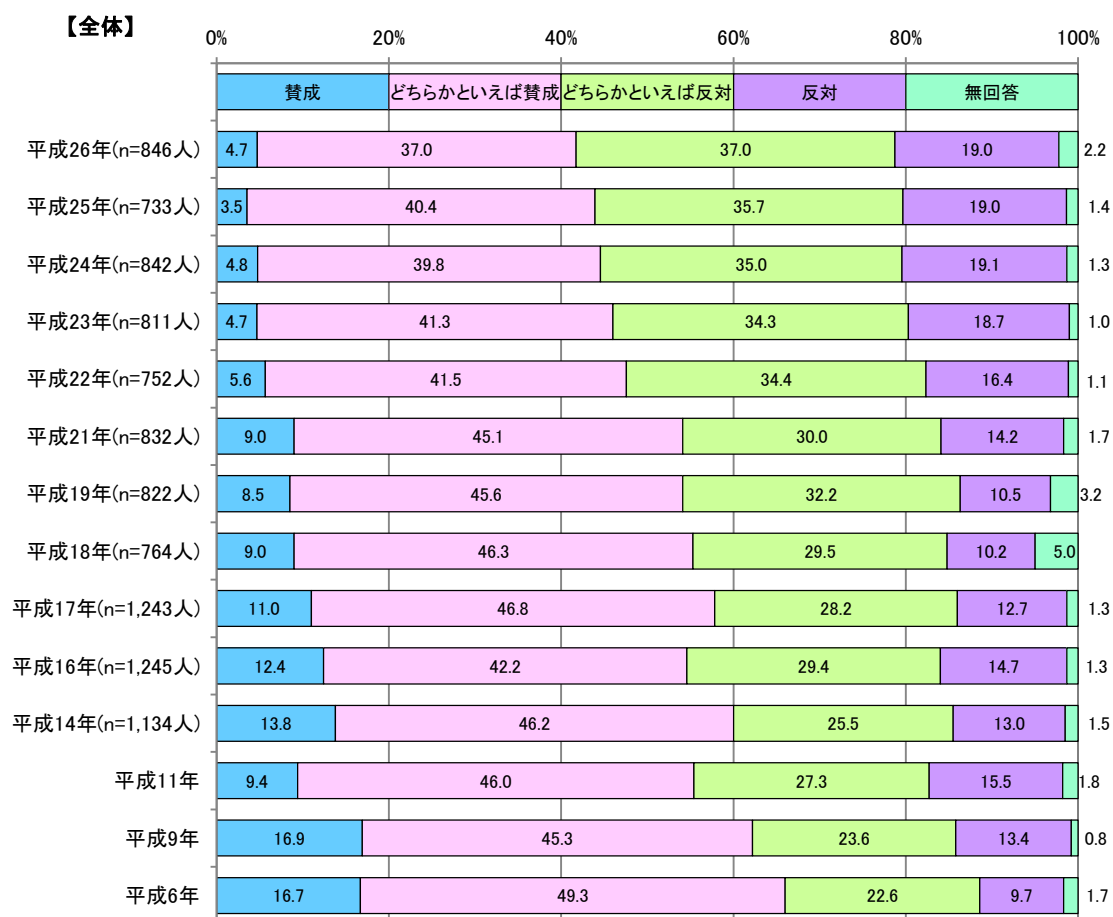
- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が約8割(77.8%)で最も多い。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」(66.0%)、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」(51.9%)、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」(47.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」という回答は、男性が72.9%で、女性が81.6%となっており、女性の回答割合が約1割ほど高くなっている。

【性別】

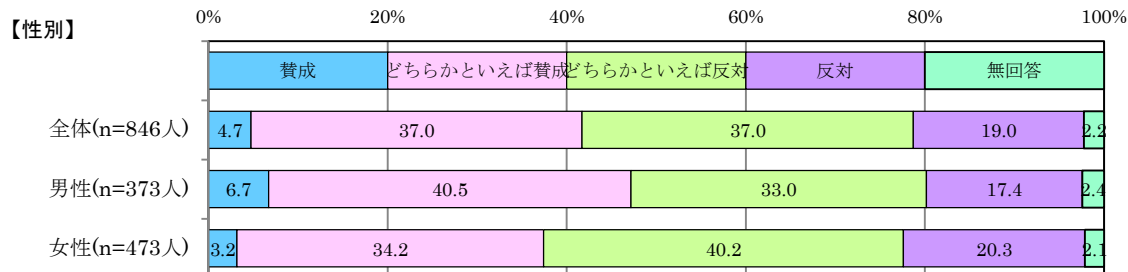


問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・平成26年の調査結果は、「賛成」が4.7%「どちらかといえば賛成」が37.0%、「どちらかといえば反対」が37.0%、「反対」が19.0%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成26年は平成25年と比べ、2.2ポイント減少となった。



- ・性別でみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答の合計は、男性が47.2%、女性が37.4%となっている。女性より男性の方が、性別によって役割を固定する考え方に肯定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は、20歳～24歳、30歳代の年代で「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答の合計が4割を下回っており、それ以外の年代より回答割合が低くなっている。

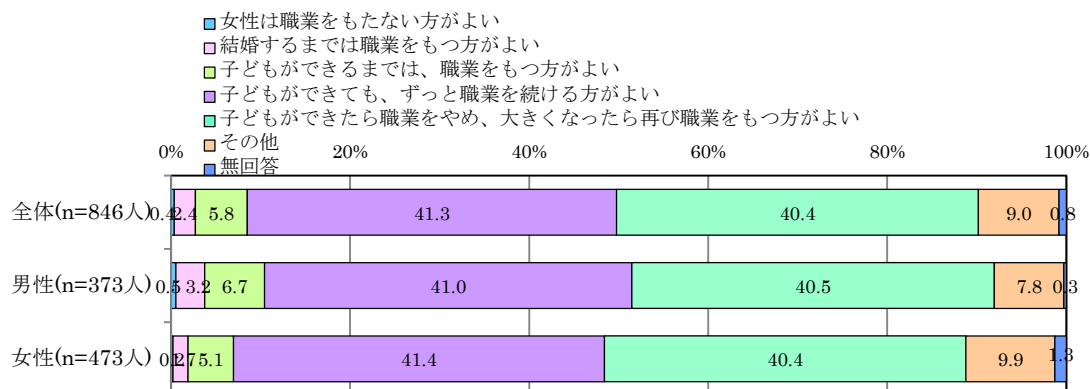


問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

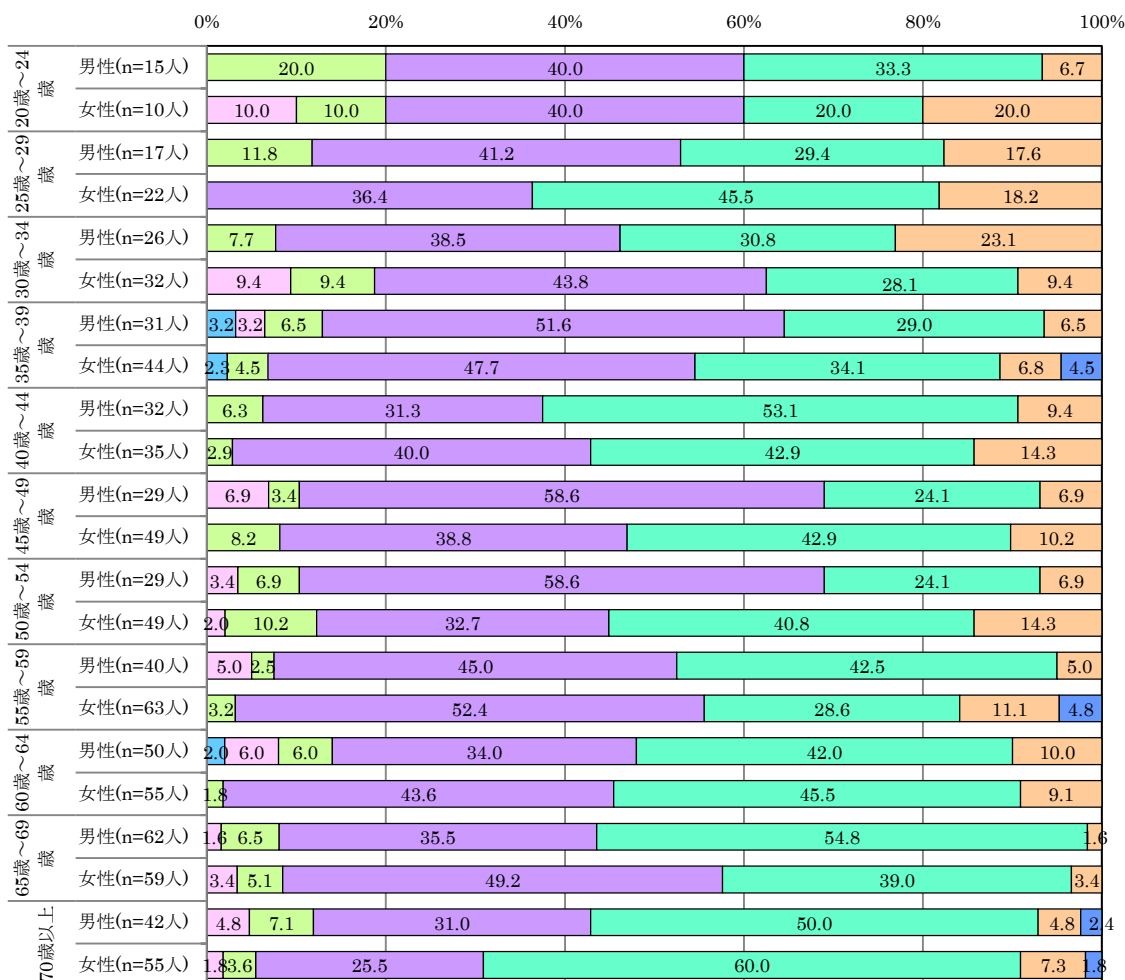
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性、女性ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別で見ると、男性は45歳～49歳及び50歳～54歳の年代では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が多くなっている。
- ・一方、女性は55歳～59歳の年代で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が多い。

【性別】



【世代別性別】



---

## 労働に関する問題

---

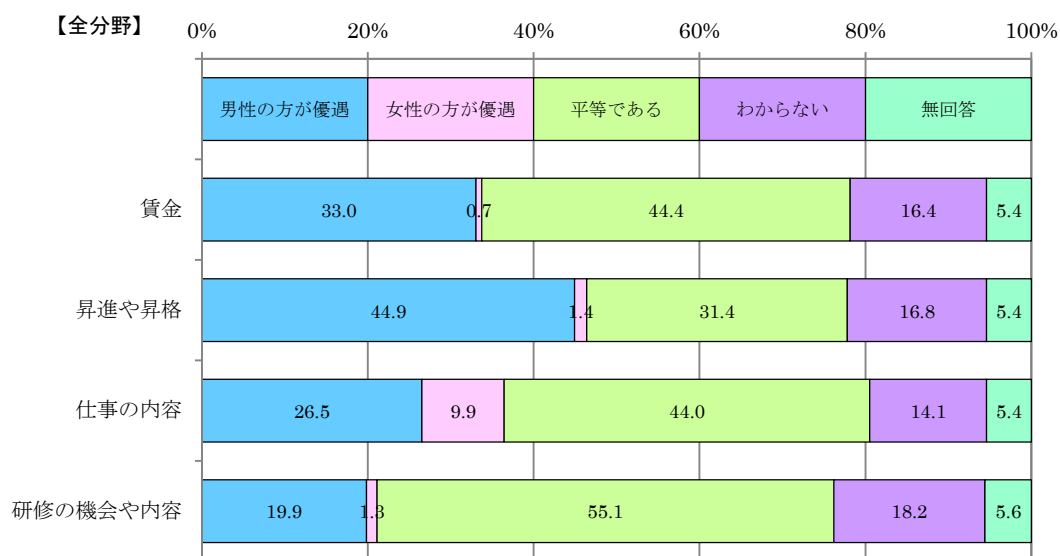




**問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか  
 (次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号を1つ  
 ずつお選びください。

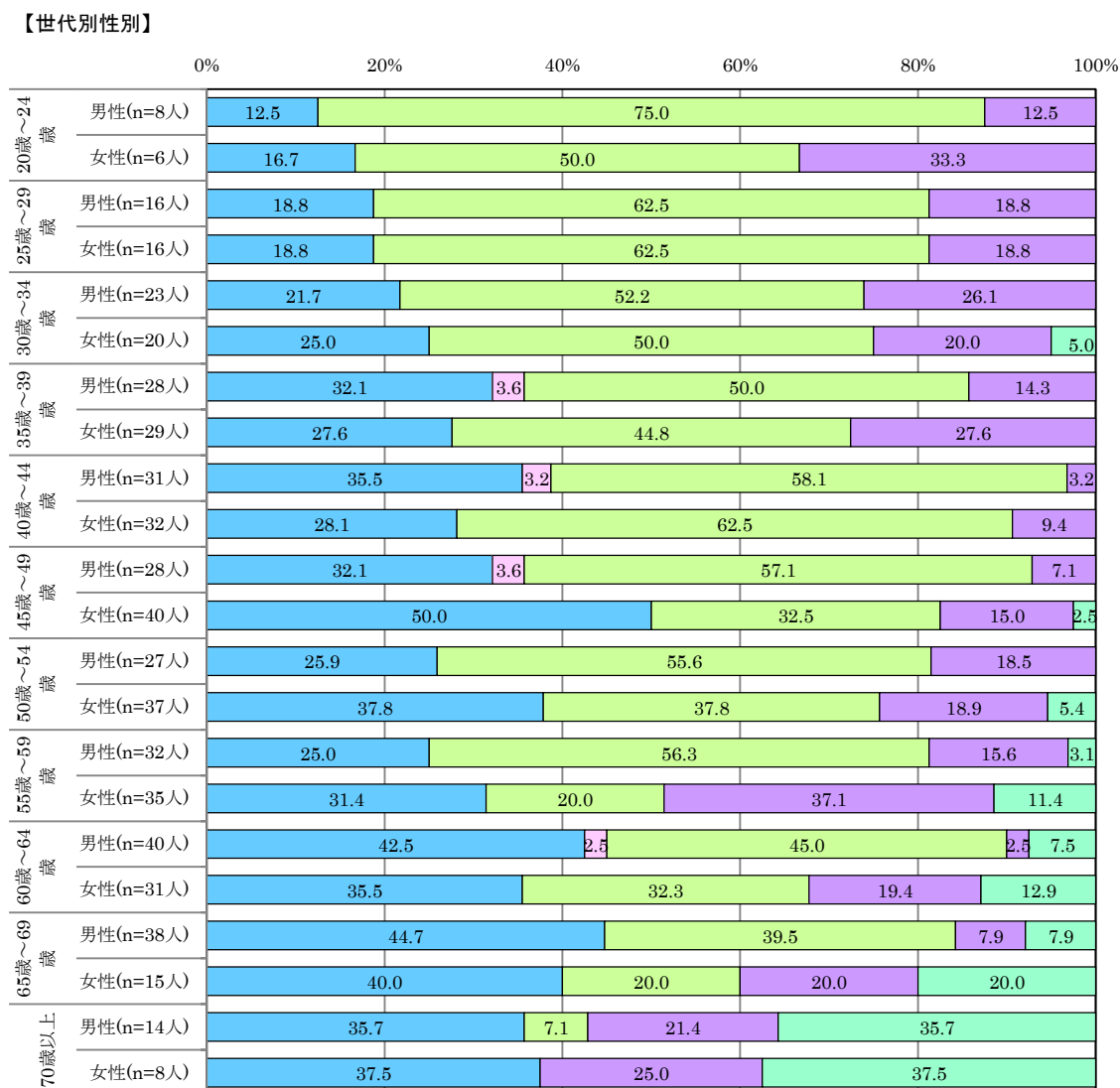
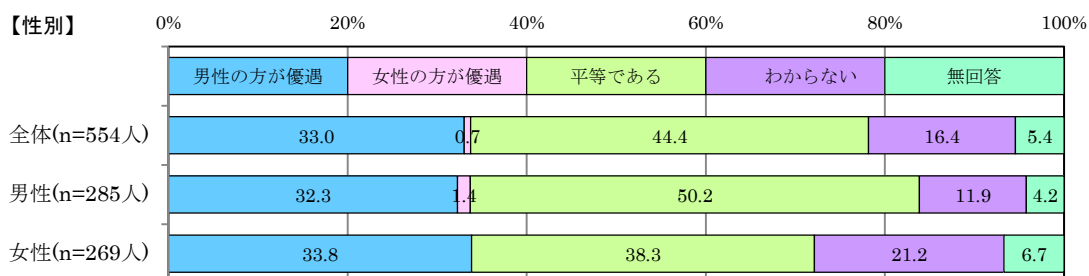
- ・「昇給や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割(44.9%)  
 で、最も多くなっている。次いで、「賃金」が約3割(33.0%)、「仕事の内容」(26.5%)、  
 「研修の機会や内容」(19.9%)の順に続いている。
- ・一方、「女性の方が優遇されている」という回答は、「仕事の内容」について約1割(9.9%)  
 の回答がある。それ以外の分野では、2%未満となっている。



(全体 n=554人)

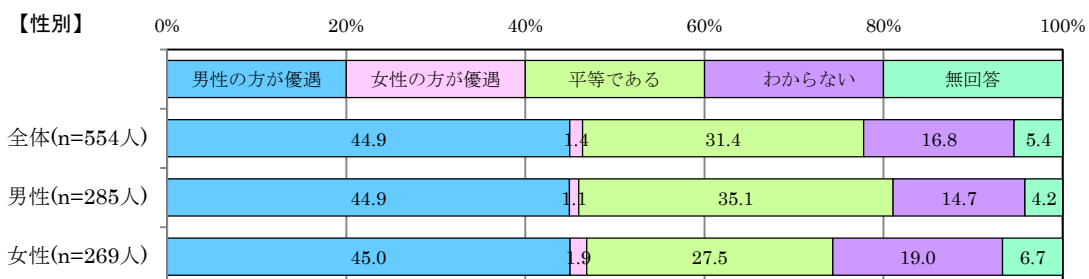
# 1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は50.2%で、女性は38.3%となっている。
- ・世代別性別でみると、「平等である」という回答は、20歳～24歳の男性で7割を超えている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答は、45歳～49歳の女性で5割と、ほかの年代に比べて高くなっている。

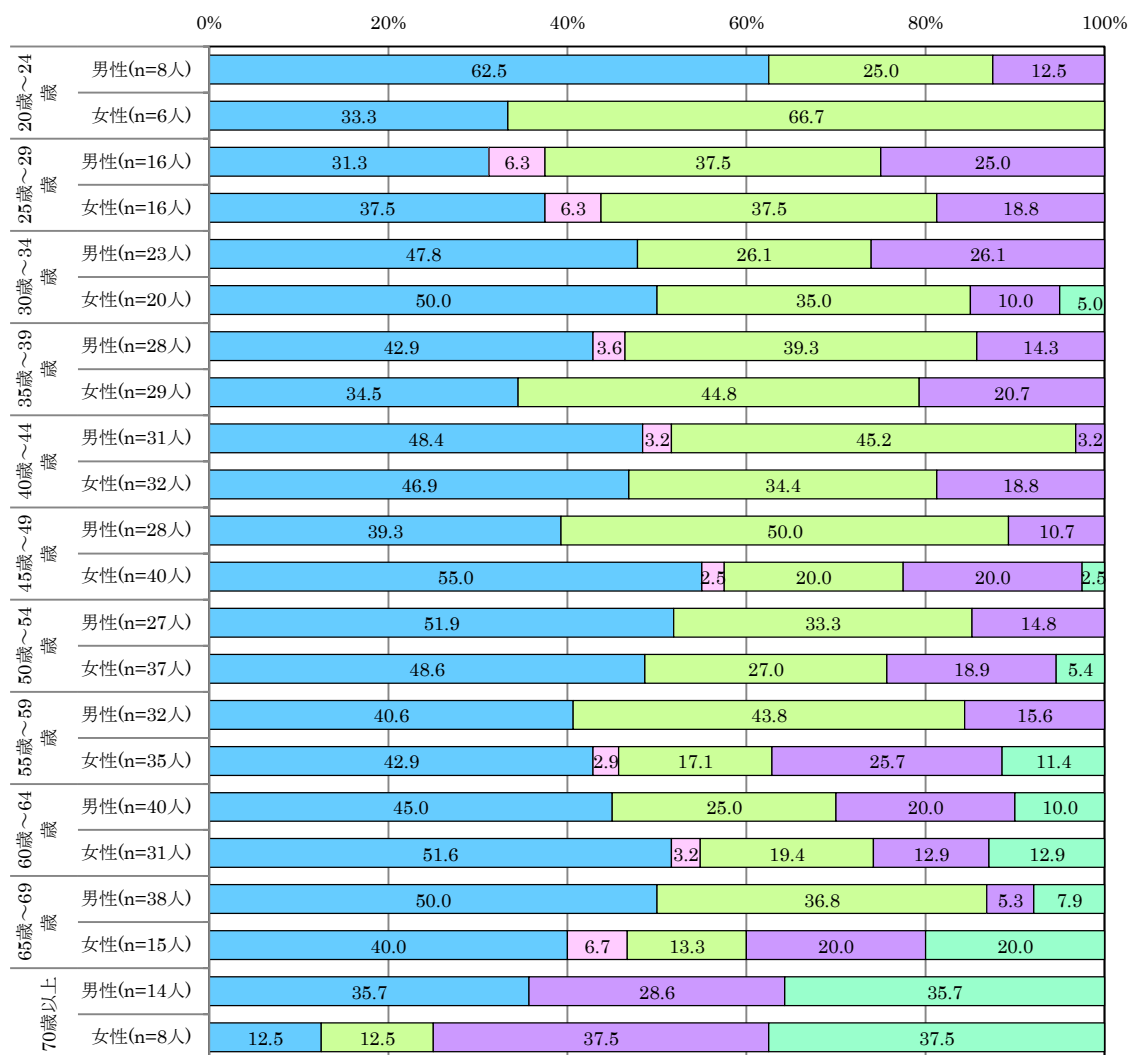


## 2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女とも「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、どちらも約4割の回答割合となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が35.1%、女性が27.5%となり、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。

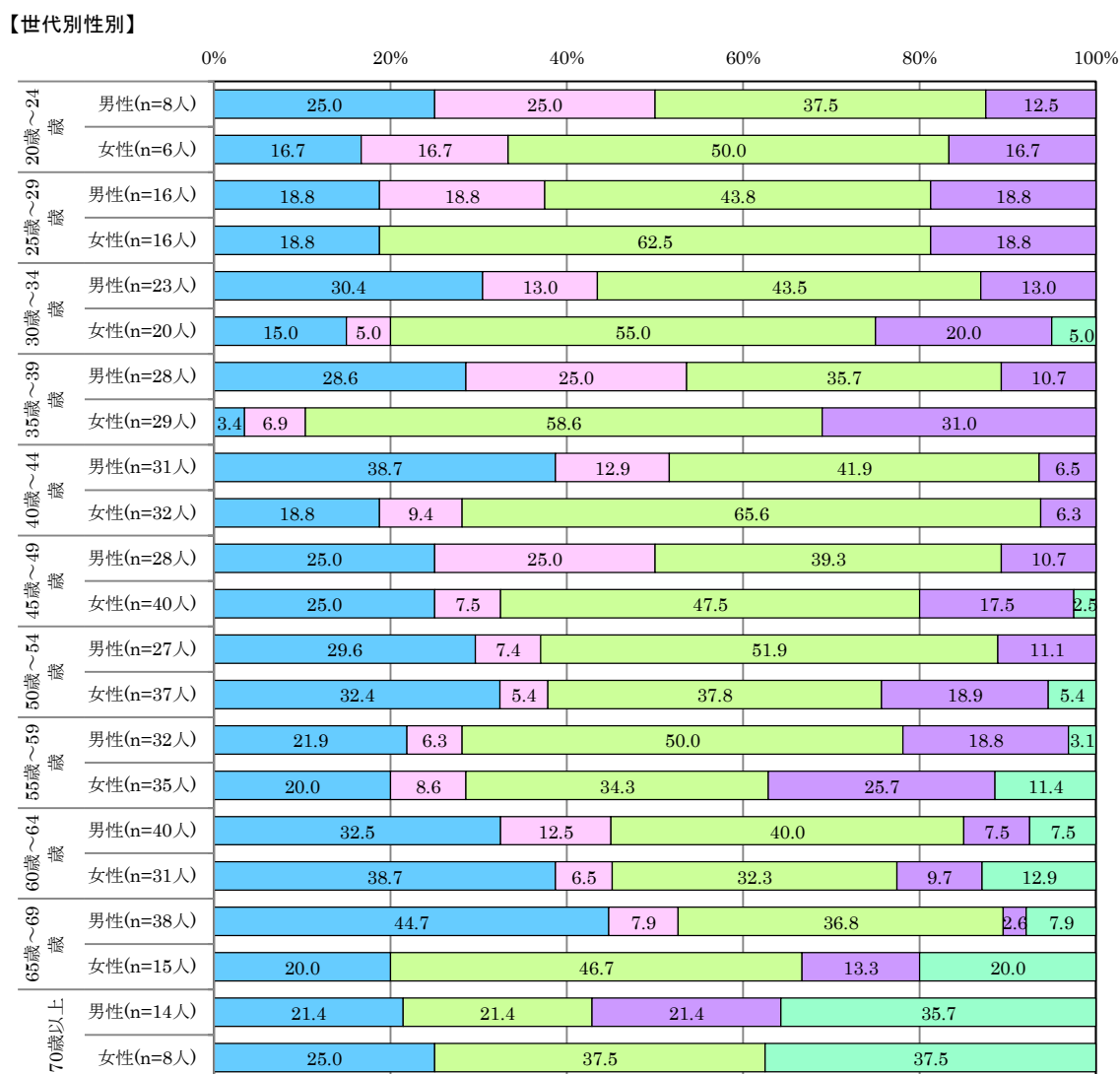
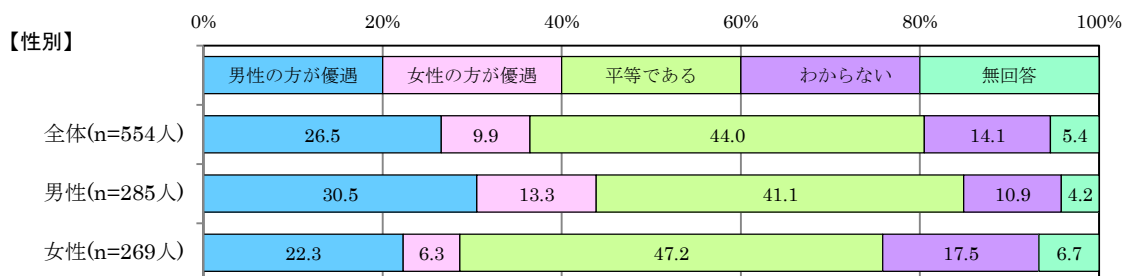


### 【世代別性別】



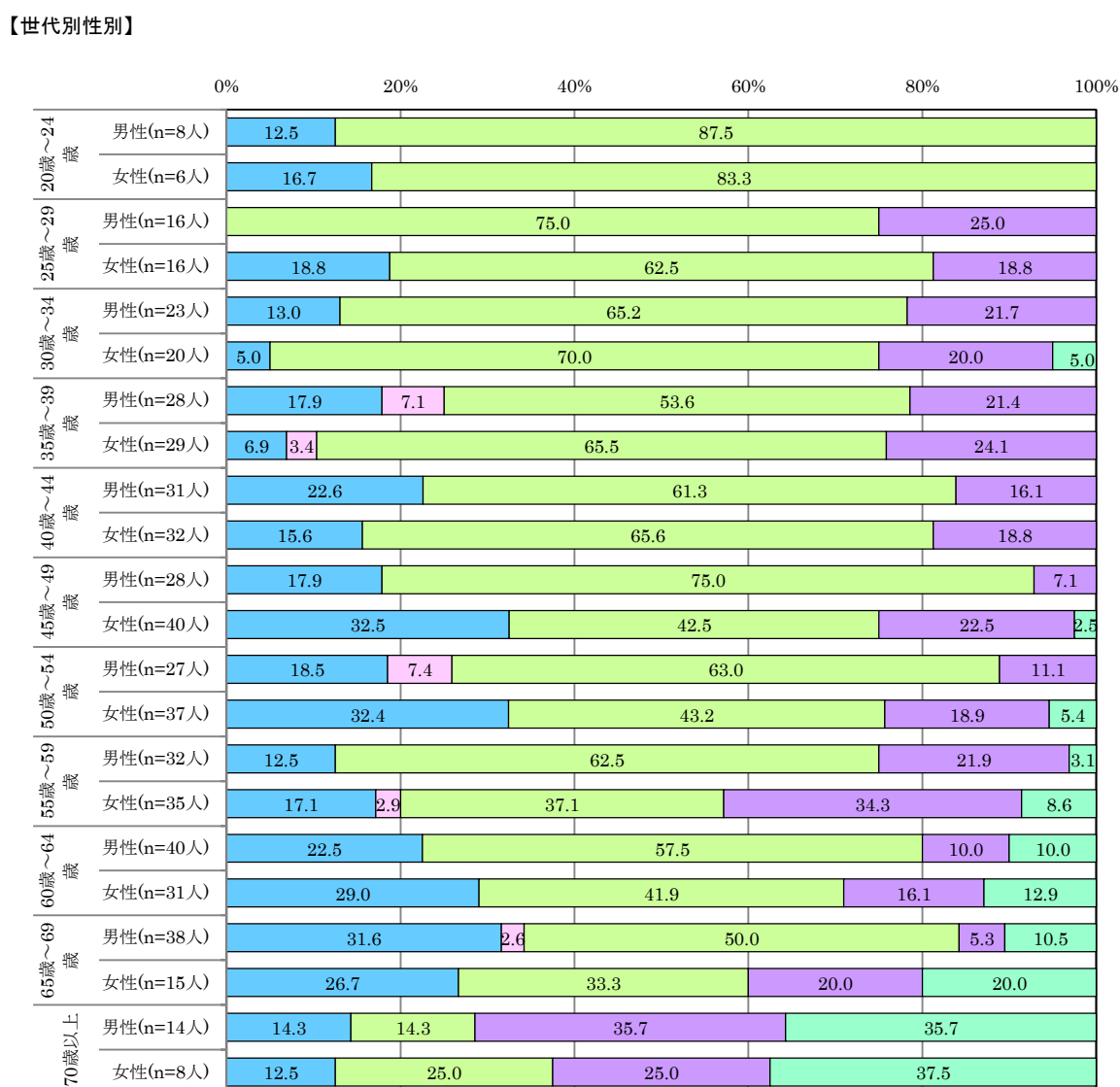
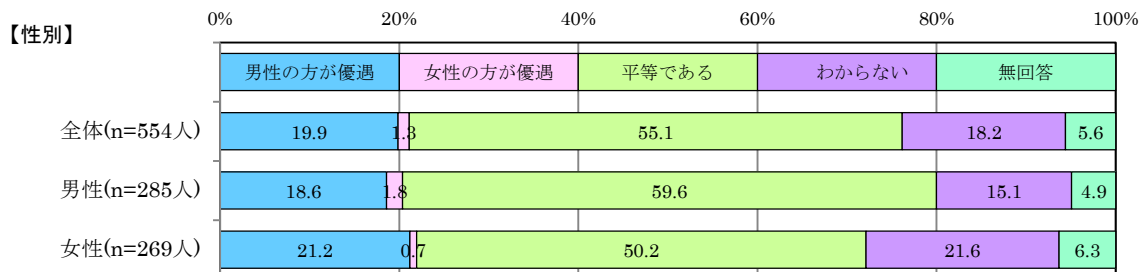
### 3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が41.1%、女性が47.2%となり、女性の回答割合が男性より高くなっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が13.3%、女性が6.3%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、男性の65歳～69歳、女性の60歳～64歳においては、「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。



#### 4 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が59.6%、女性が50.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の男女以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・70歳以上の男女で、「わからない」、「無回答」が多い傾向がみられる。





---

## 仕事と家庭生活の調和に関する問題

---

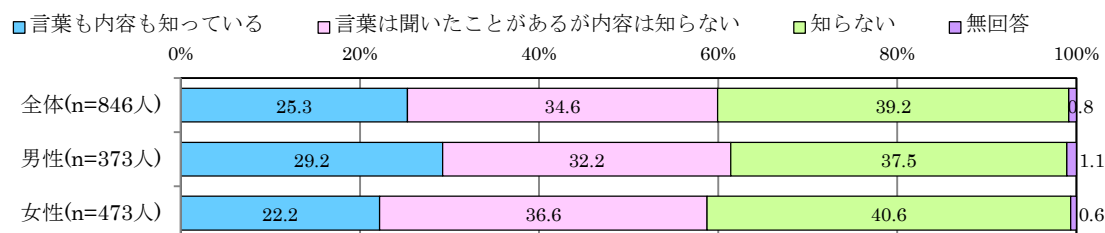




問7 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、どちらも約4割となっている。
- ・「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が29.2%、女性が22.2%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、男性では40歳～44歳、女性では30歳～34歳の世代の方が、「知らない」という回答割合が高くなっている。

【性別】



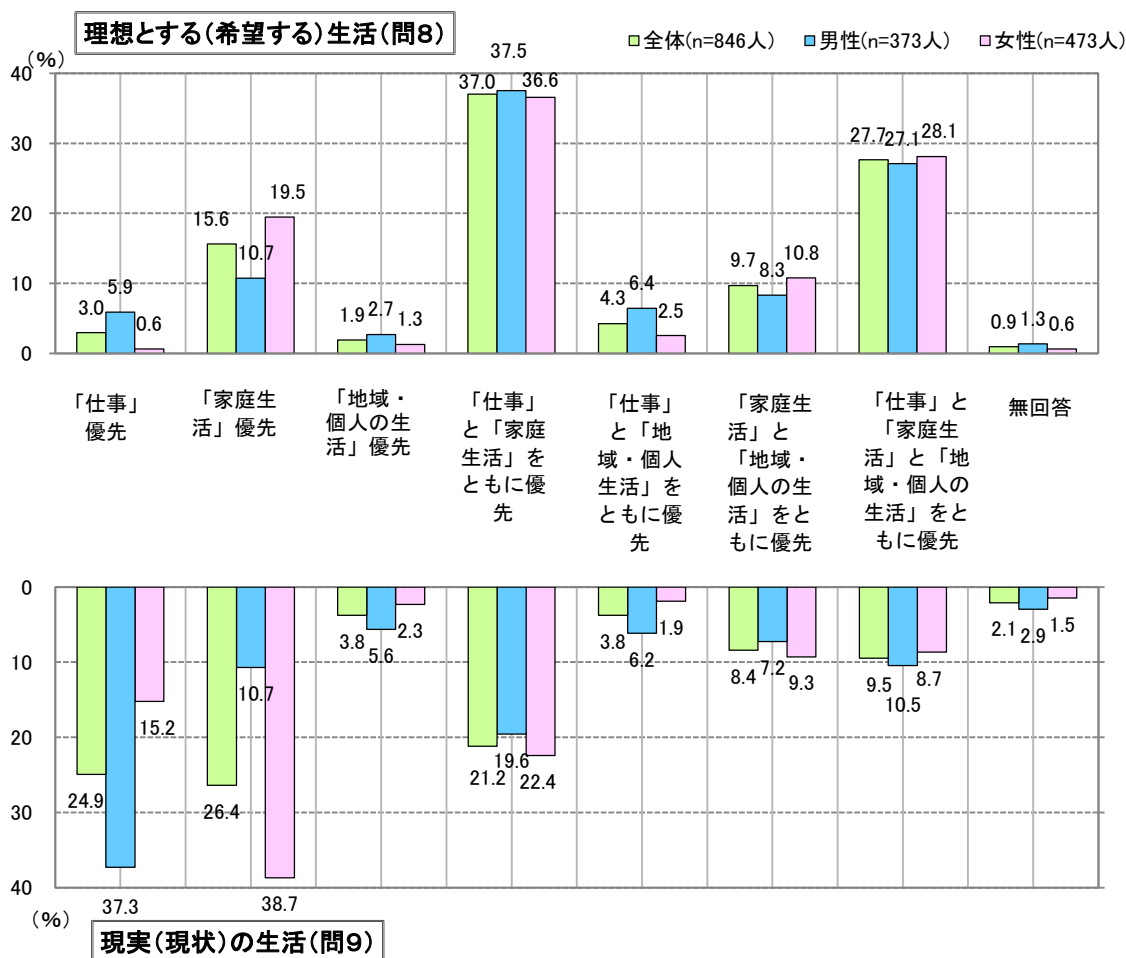
【世代別性別】



問 8 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問 9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

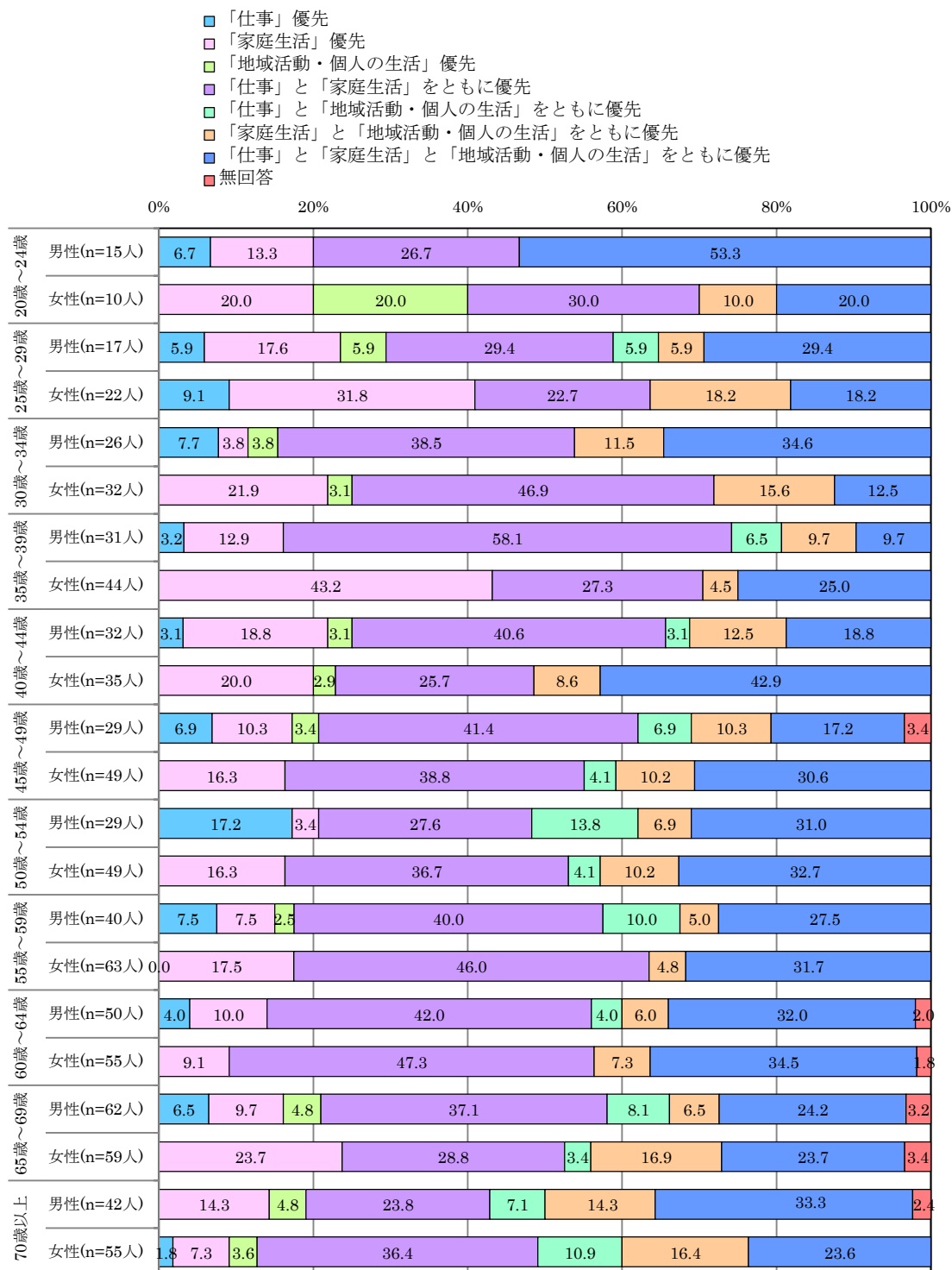
- ・全体で見ると、問8の理想とする生活については「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多く、約4割（37.0%）となっている。次に、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（27.7%）、「『家庭生活』優先」（15.6%）の順に続いている。
- ・一方、問9の現実の生活では、「『家庭生活』優先」という回答が最も多く、26.4%となっている。次いで、「『仕事』優先」（24.9%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（21.2%）、となっている。
- ・理想の生活では1番目であった「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が、現実の生活では3番目となっている。また、理想の生活で2番目に多かった「『仕事』と『家庭生活』、『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、現実の生活では、4番目となっている。
- ・性別で見ると、理想の生活においては男女の回答に大きな差は見られず、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。しかし、現実の生活においては、男性は「『仕事』優先」、女性は「『家庭生活』優先」が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。



## 問8 理想とする（希望する）生活 世代別性別

- ・世代別性別でみると、35歳～39歳の男性では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が多くなっている。
- ・「『家庭生活』優先」という回答は、35歳～39歳の女性で最も多い回答となっている。

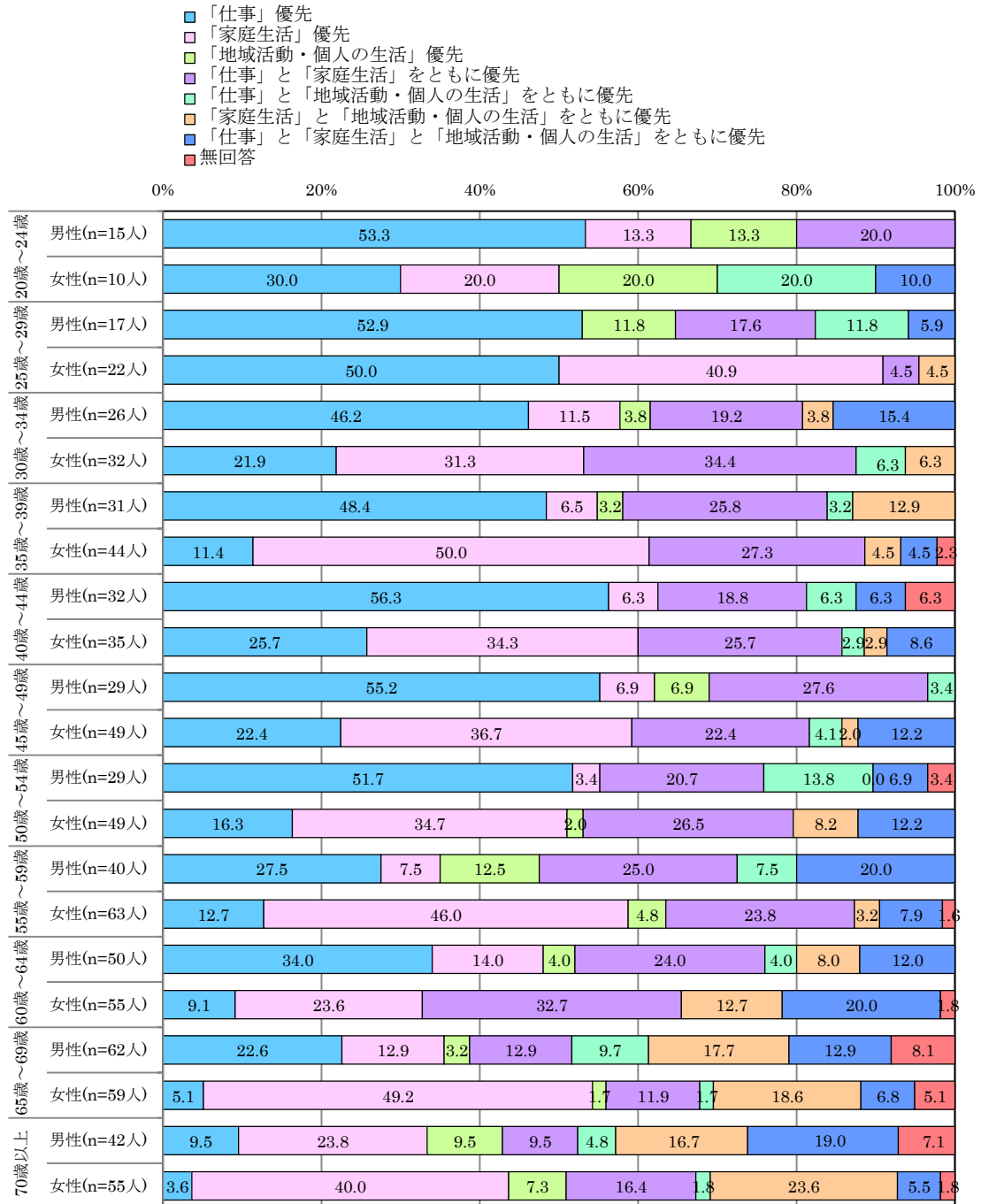
### 【世代別性別】



問9 現実（現状）の生活 世代別性別

- ・世代別性別でみると、男性は、20歳～54歳までの年代では、いずれも「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。一方女性も、20歳～24歳、25歳～29歳の年代では「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、65歳以上で増加している。

【世代別性別】

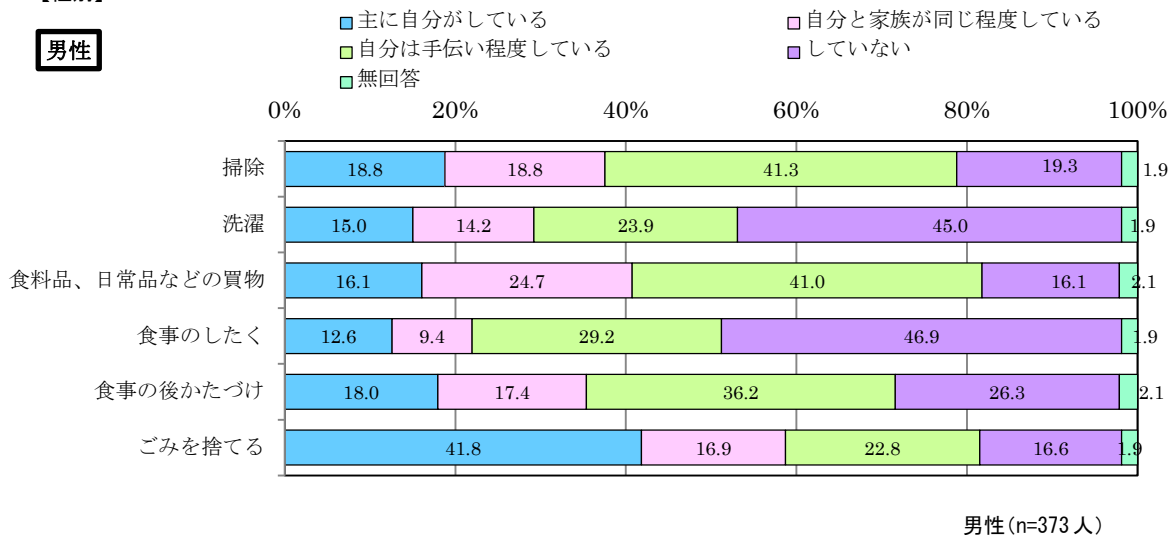


問 10 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

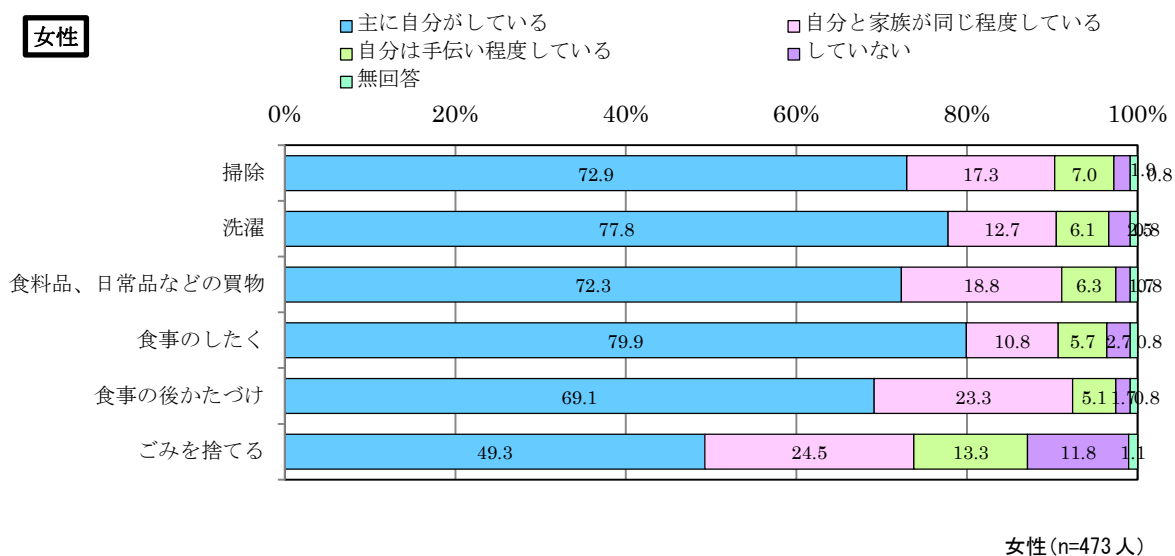
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみを捨てる」が最も多く、約4割（41.8%）となっている。次いで、「掃除」（18.8%）、「食事の後かたづけ」（18.0%）と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約8割（79.9%）となっている。次いで、「洗濯」（77.8%）、「掃除」（72.9%）となっている。

【性別】

**男性**



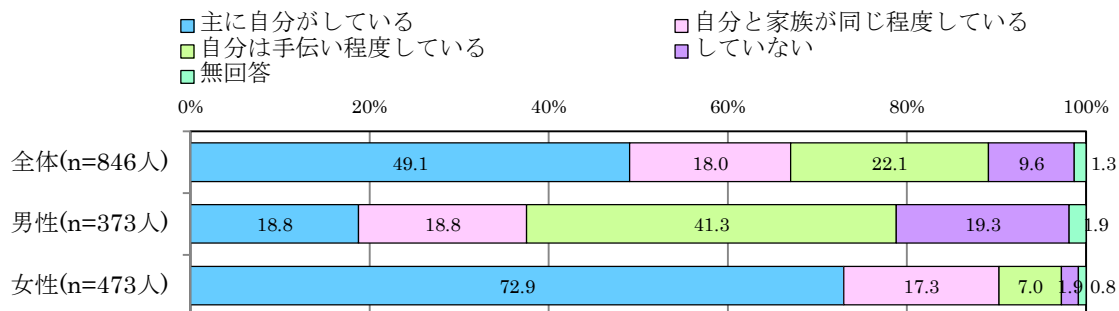
**女性**



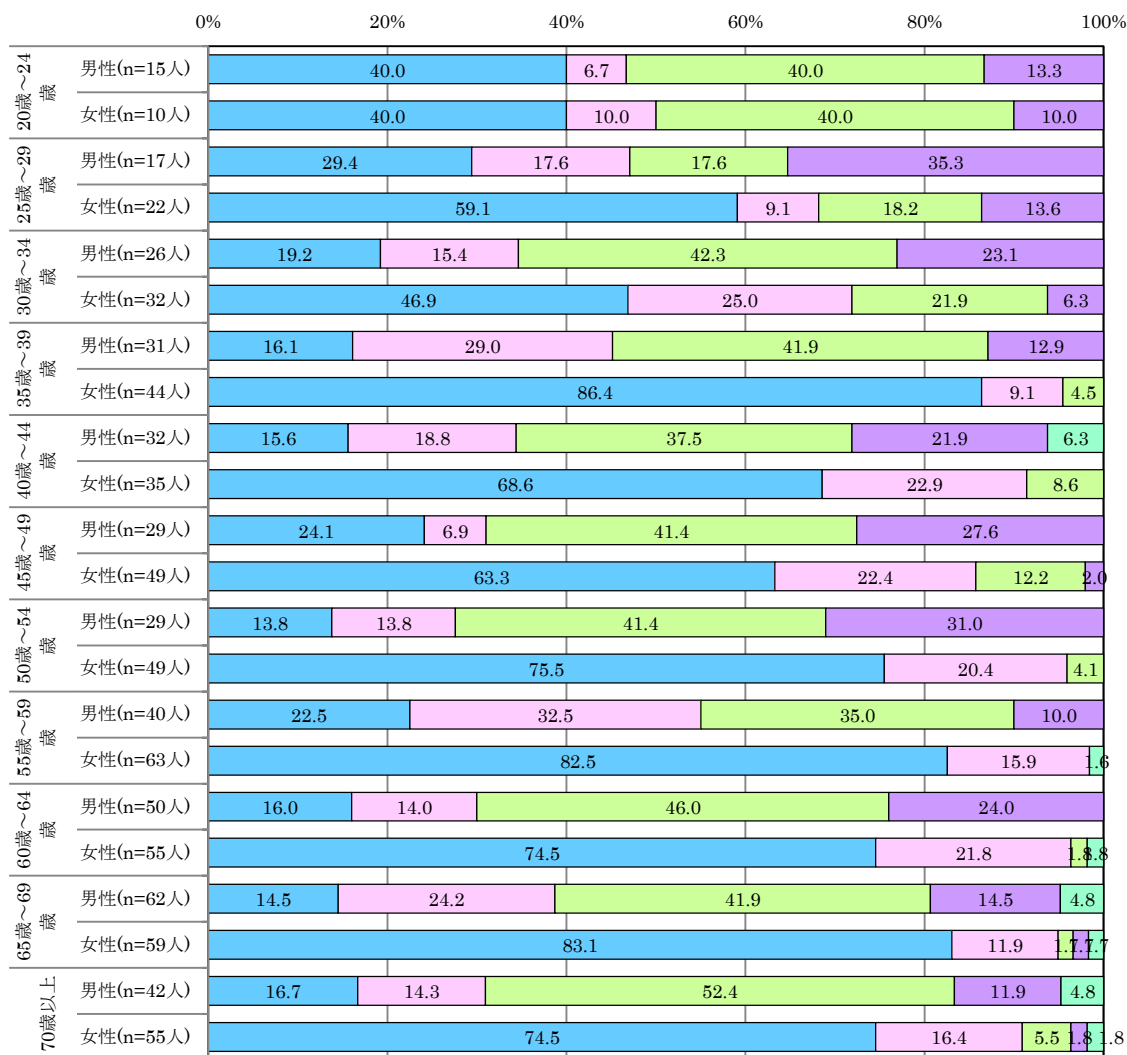
# 1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(72.9%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(41.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性、「していない」(35.3%)という回答が最も多くなっている。

【性別】

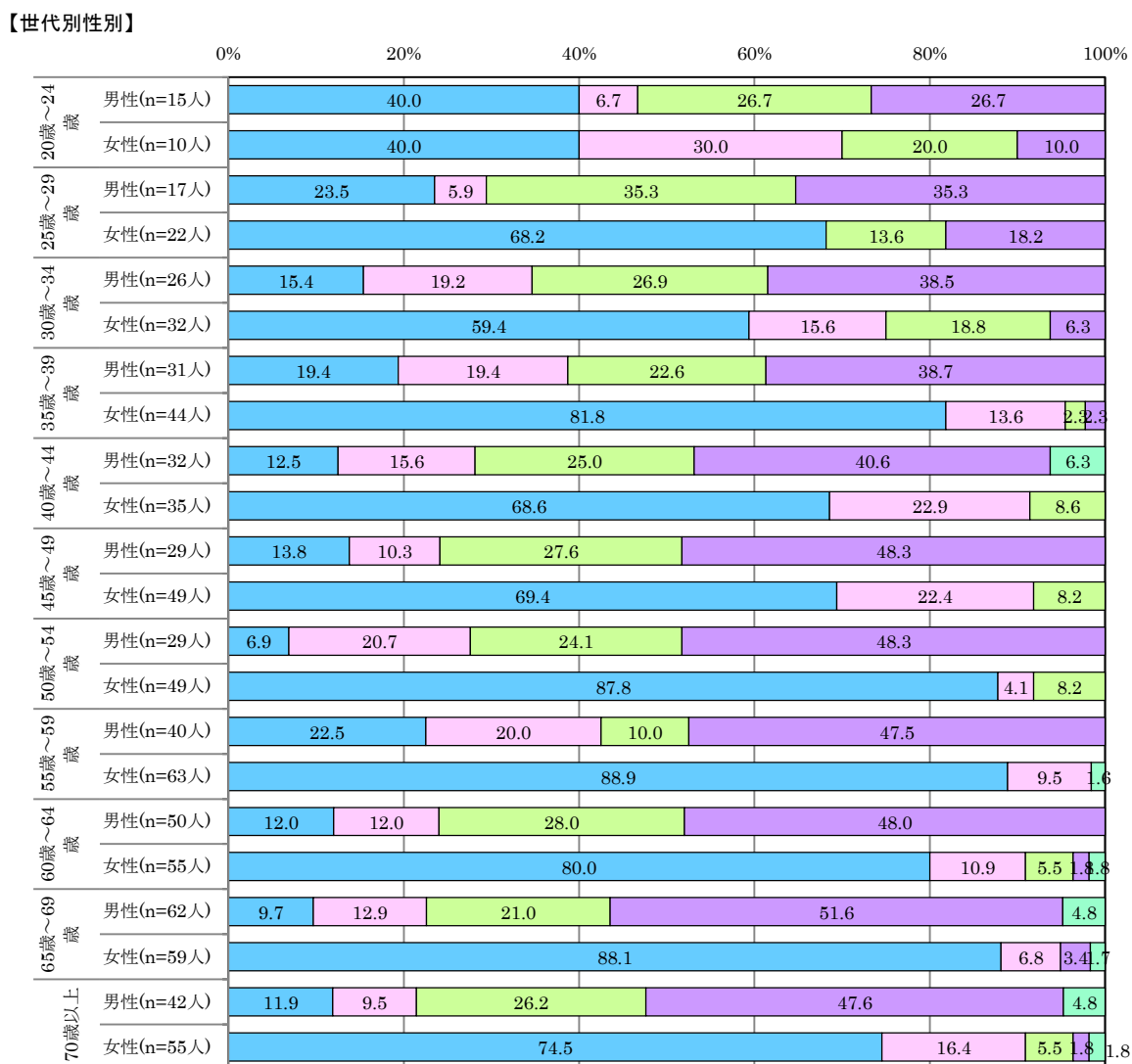
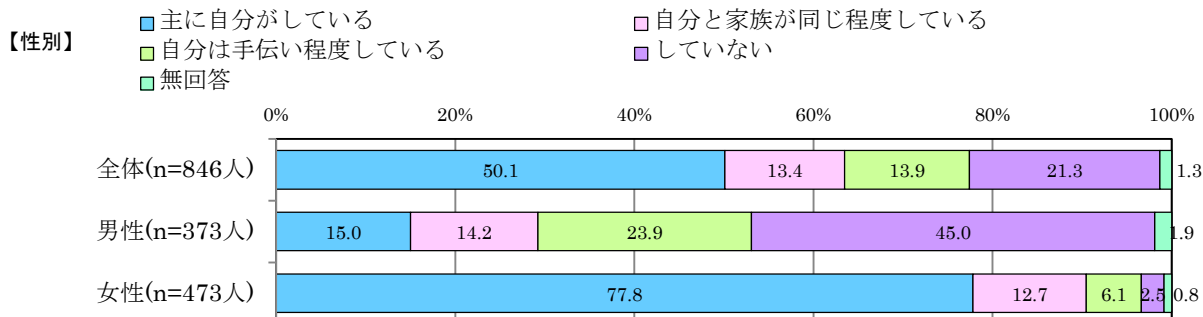


【世代別性別】



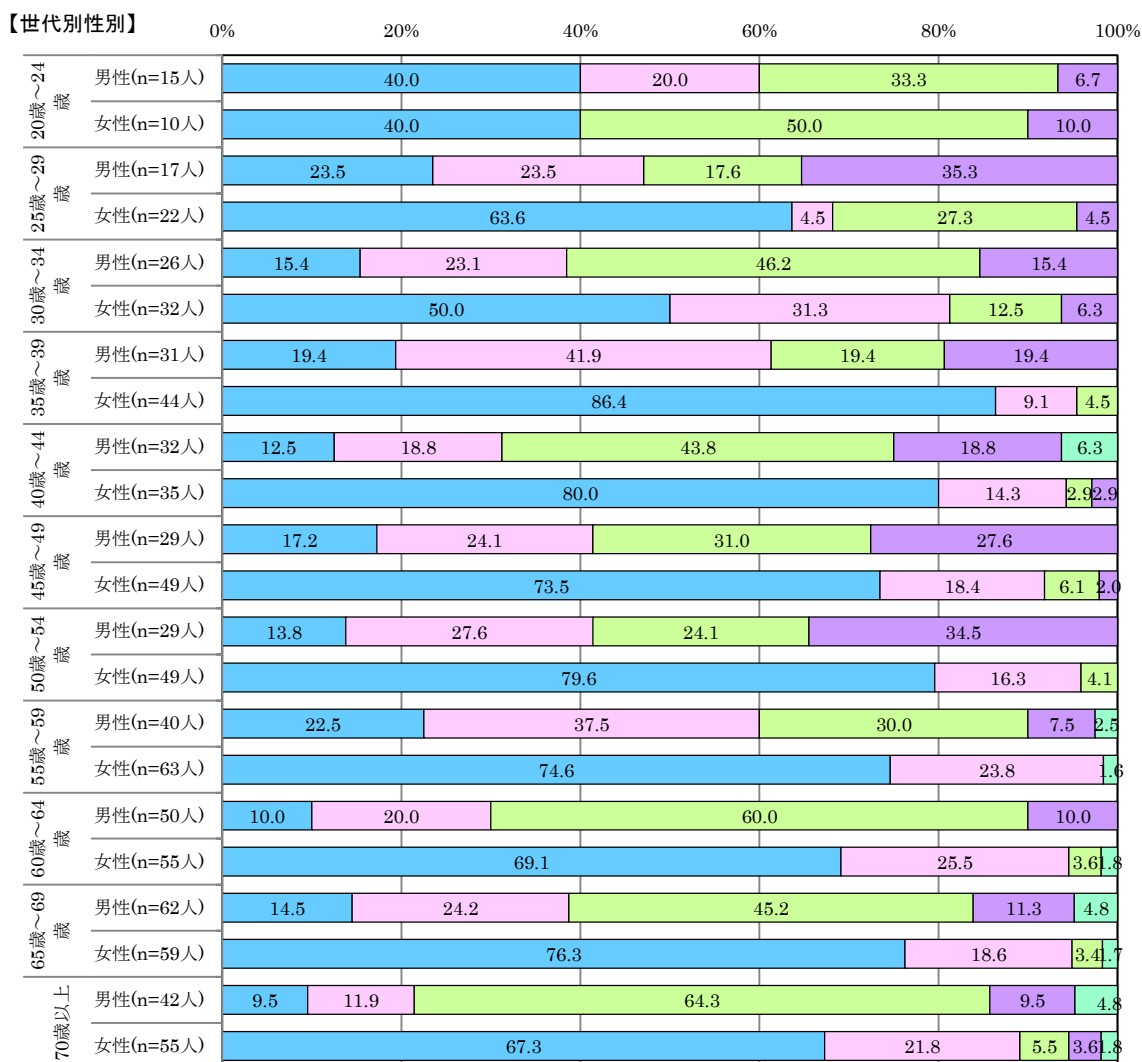
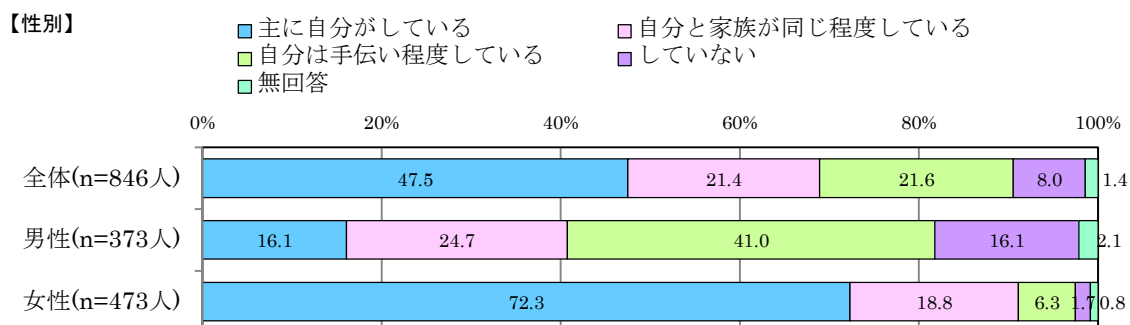
## 2 洗濯

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(77.8%)という回答が最も多く、男性は「していない」(45.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、65歳～69歳の男性は、5割の方が「していない」という回答割合になっている。



### 3 食料品、日用品などの買物

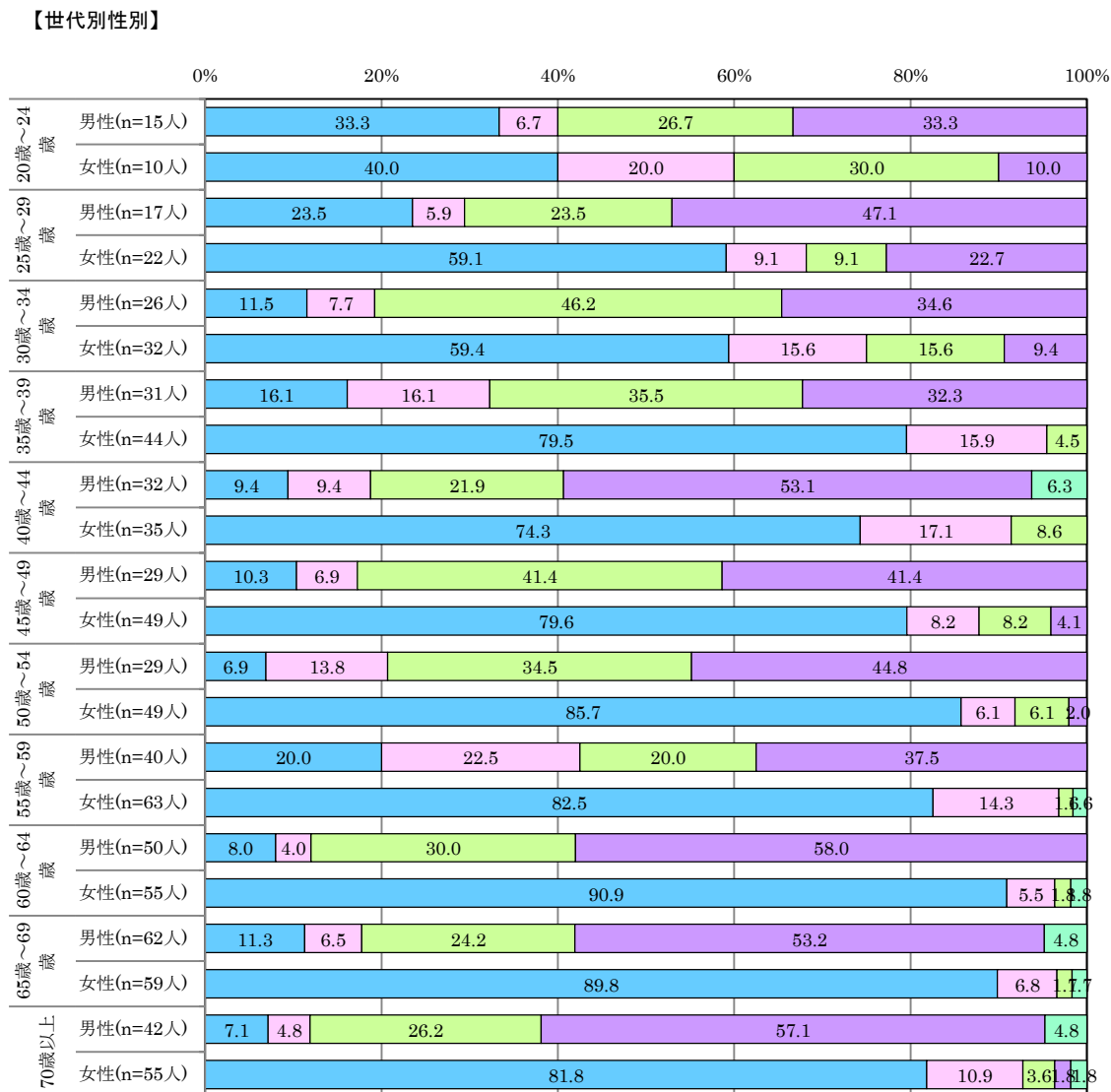
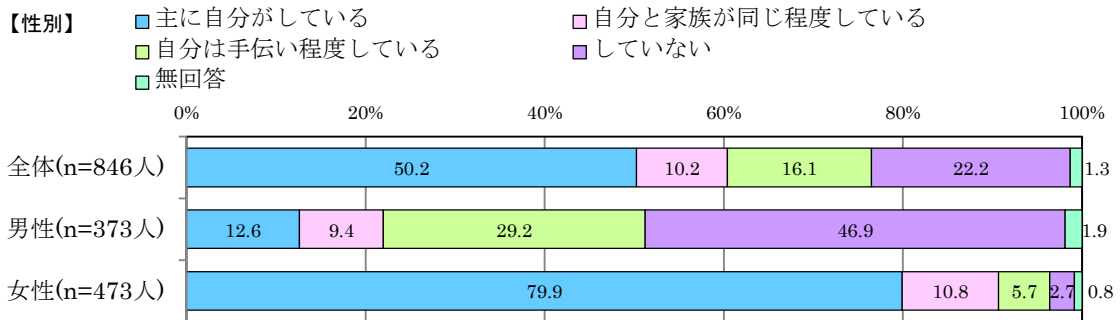
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(72.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(41.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性はいずれの年代でも、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方、女性は20歳～24歳で、「自分は手伝い程度している」という回答が5割を超えている。





#### 4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(79.9%)という回答が最も多く、男性は「していない」(46.9%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、55歳～59歳の男性を除いては、40歳以上の男性が4割以上「していない」という回答割合になっている。

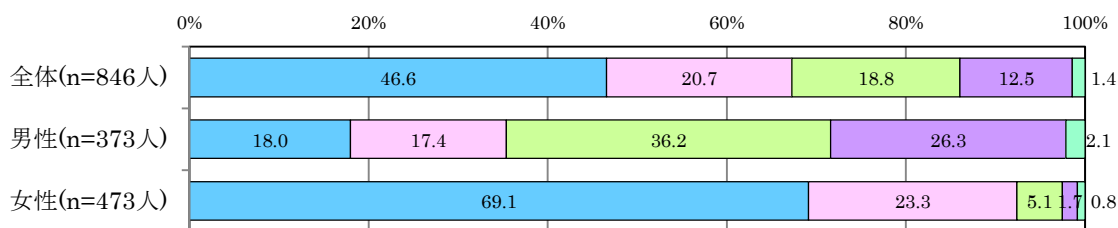


## 5 食事の後かたづけ

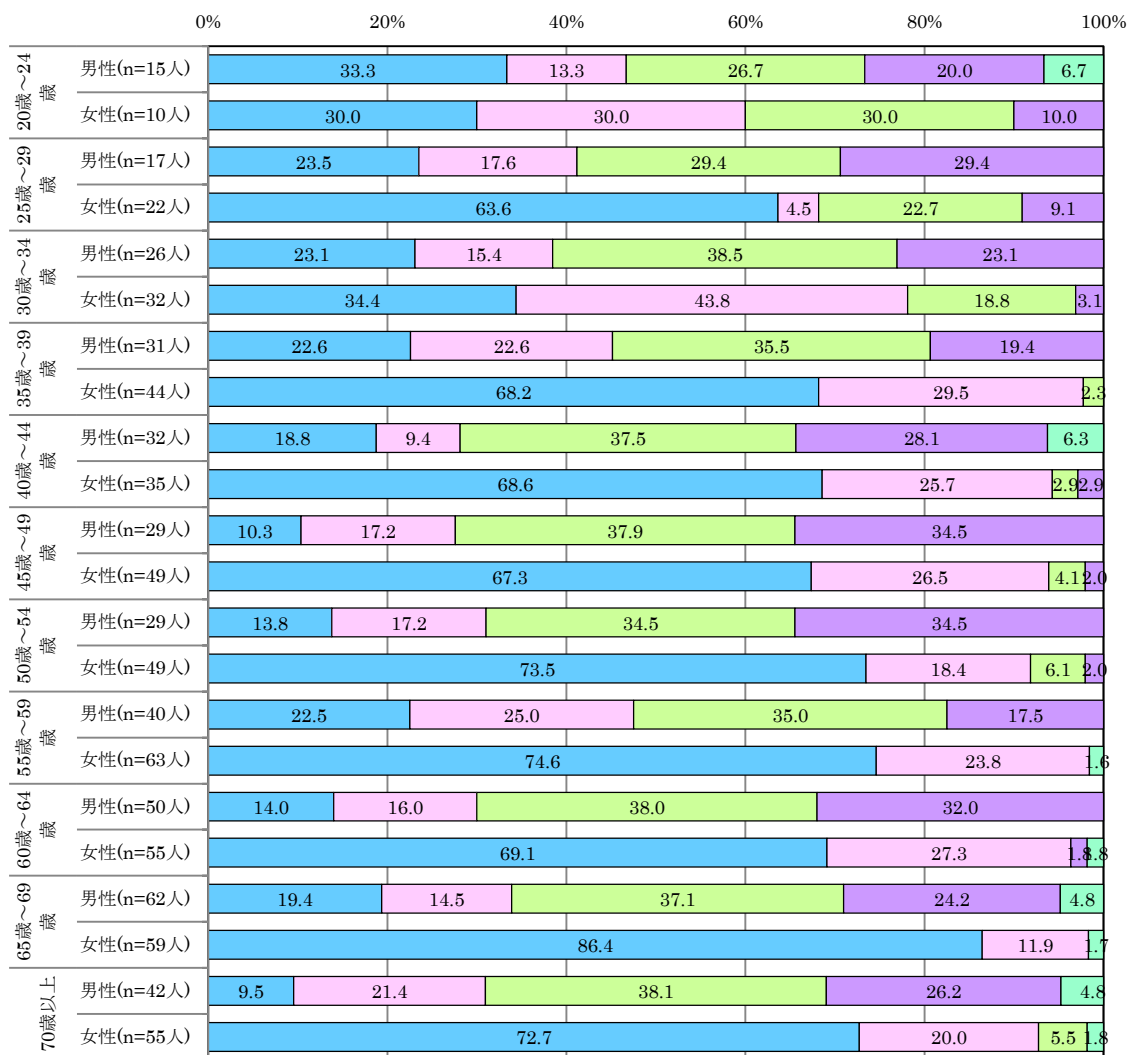
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(69.1%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(36.2%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、食事の後かたづけについても、男性の中では、20歳代で「主に自分がしている」という回答が最も多く、約3割(33.3%)となっている。

【性別】

■ 主に自分がしている      ■ 自分と家族が同じ程度している  
■ 自分は手伝い程度している      ■ していない  
■ 無回答



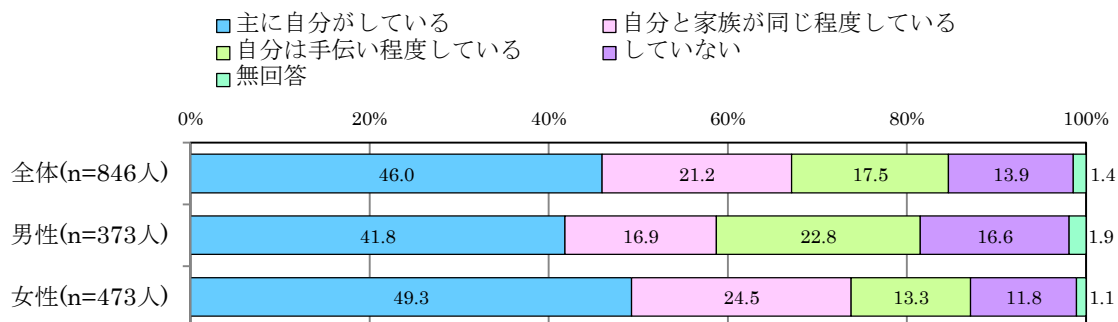
【世代別性別】



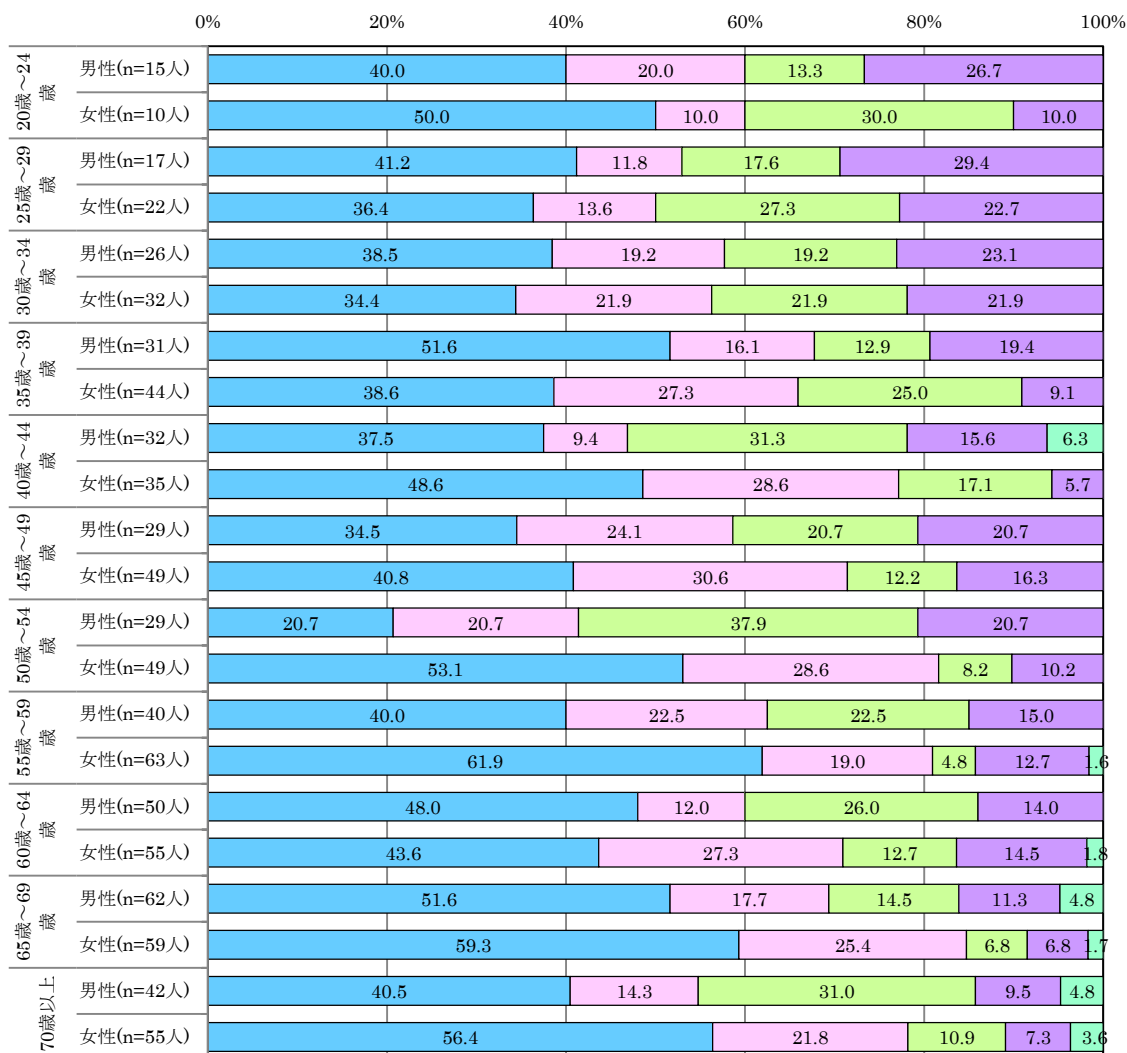
## 6 ごみを捨てる

- ・性別で見ると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は49.3%、男性は41.8%となっている。
- ・世代別性別で見ると、50歳～54歳の男性を除いては、「主に自分がしている」という回答が約4割～5割の回答となっている。

### 【性別】



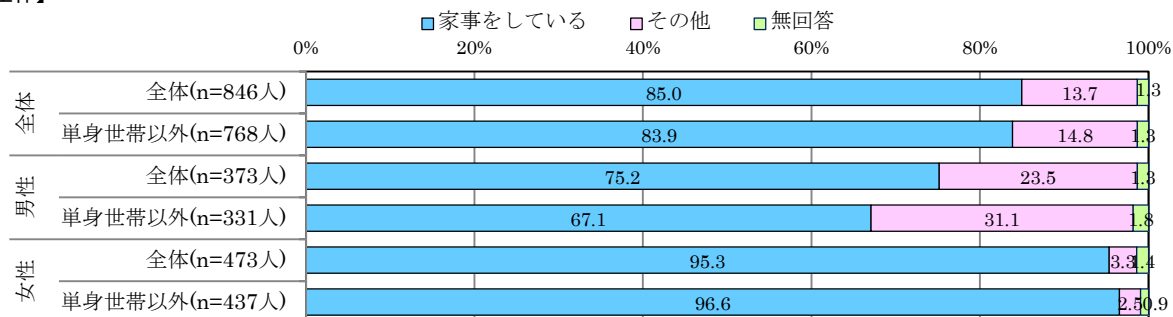
### 【世代別性別】



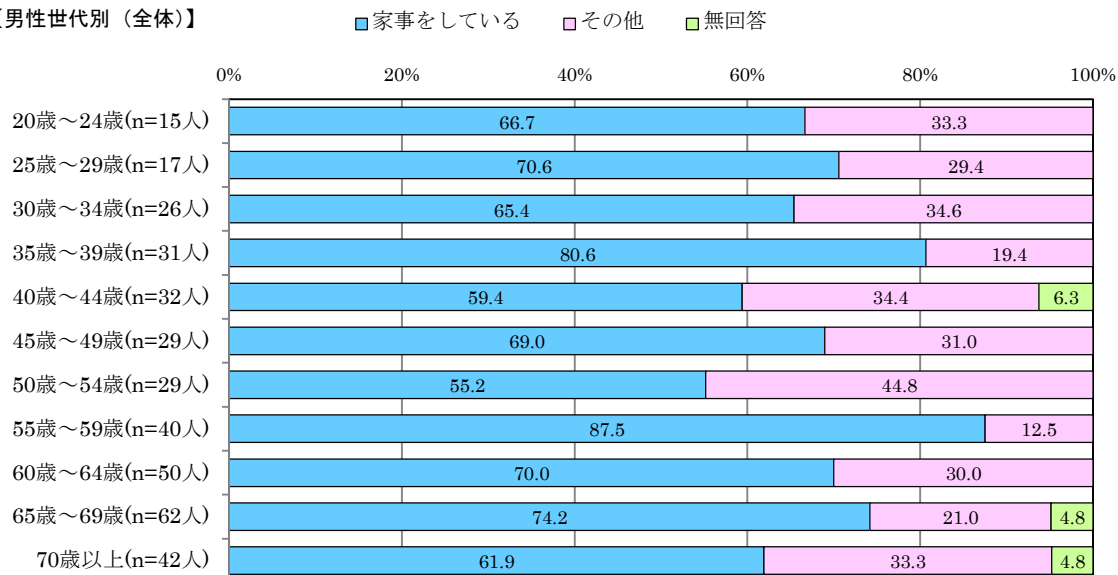
## <家事への参画度>

- ・問 11 の 1～6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 85.0%がいずれかの「家事をしている」となる。「単身世帯以外」でみても、83.9%がいずれかの「家事をしている」となっている。

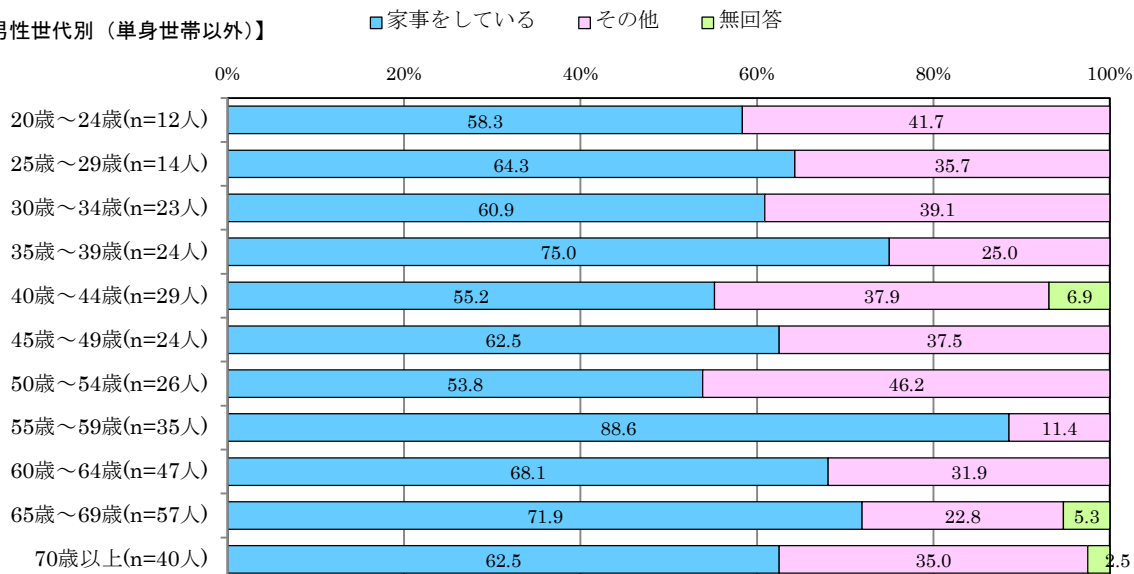
### 【全体】



### 【男性世代別（全体）】



### 【男性世代別（単身世帯以外）】



## <家事への参画度>

- ・性別でみると、男性では75.2%、女性は95.3%の方が「家事をしている」となっている。単身世帯以外でみると、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約3割低くなっている。

【女性世代別（全体）】



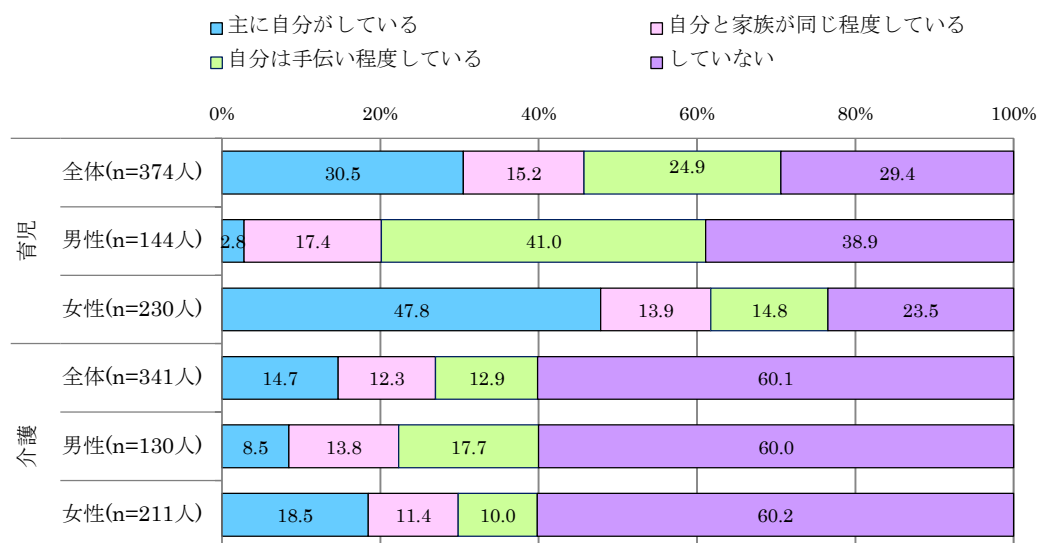
【女性世代別（単身世帯以外）】



問 11 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。  
 あなた育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選び  
 ください。

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が半数近くで、男性の回答 2.8%と比  
 べ大きな差がある。
  - ・介護では、男女とも4割の人が介護に関わっており、育児に比べ性別による差は大きくな  
 い。
- (※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している)。

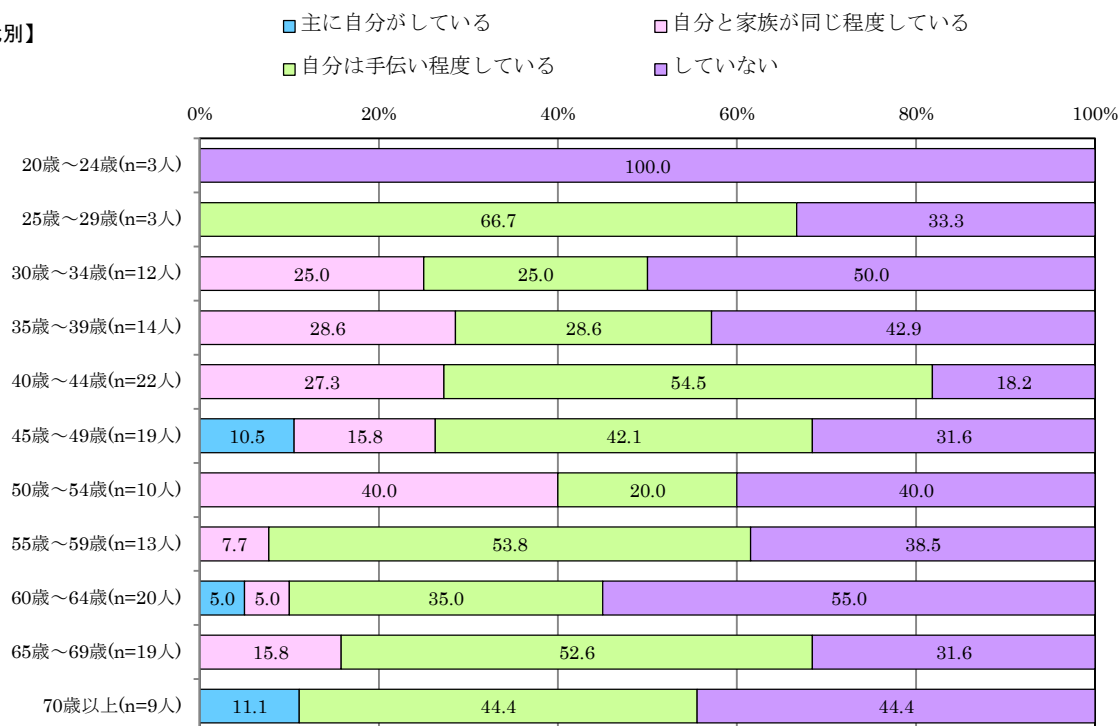
【全分野】



# 1 育児

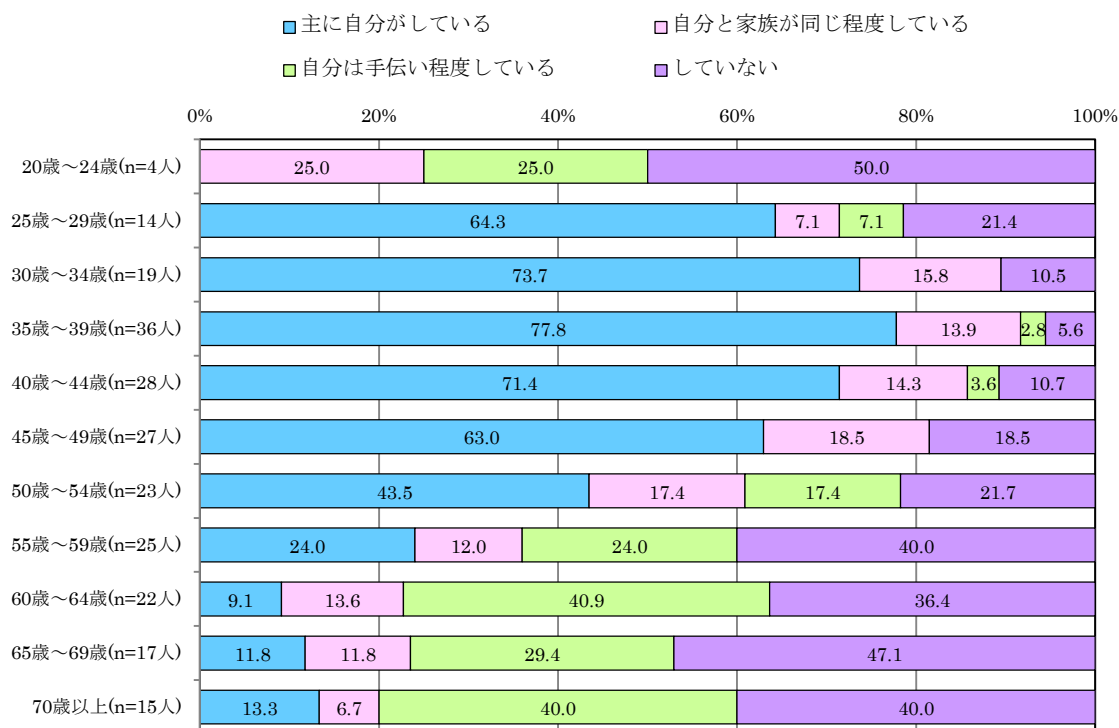
・25歳から49歳までの年代では、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した女性が7割から9割と多いのに比べ、男性の回答が3割未満となっている。

【男性世代別】



男性 (n=144人)

【女性世代別】

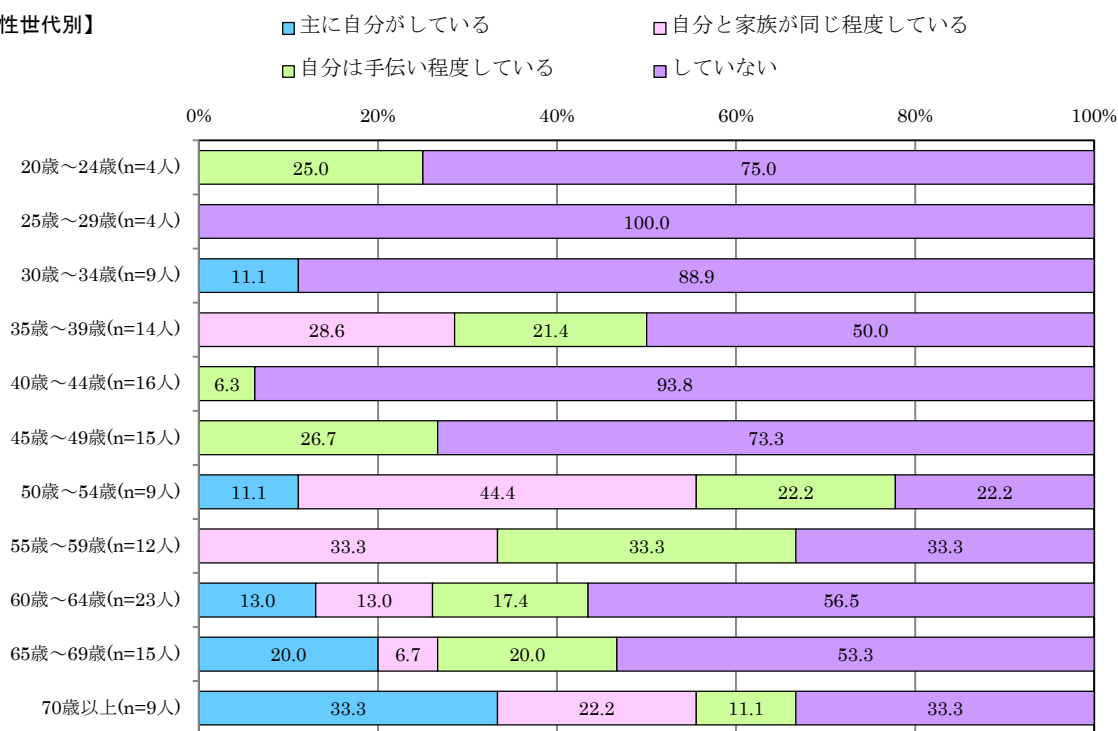


女性(n=230人)

## 2 介護

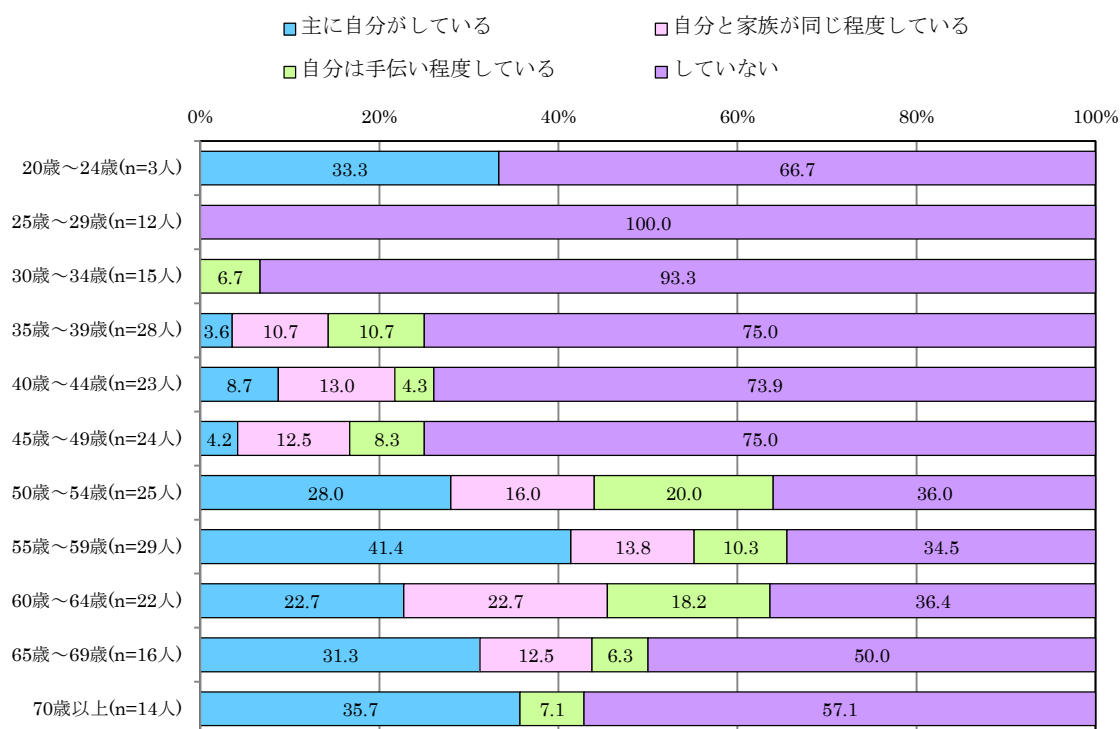
- ・ 50 歳を超える年代から男女とも介護に関わる人の割合が多くなっており、「主に自分がしている」という回答割合が男性に比べ女性の方が多くなっている。

### 【男性世代別】



男性 (n=130人)

### 【女性世代別】

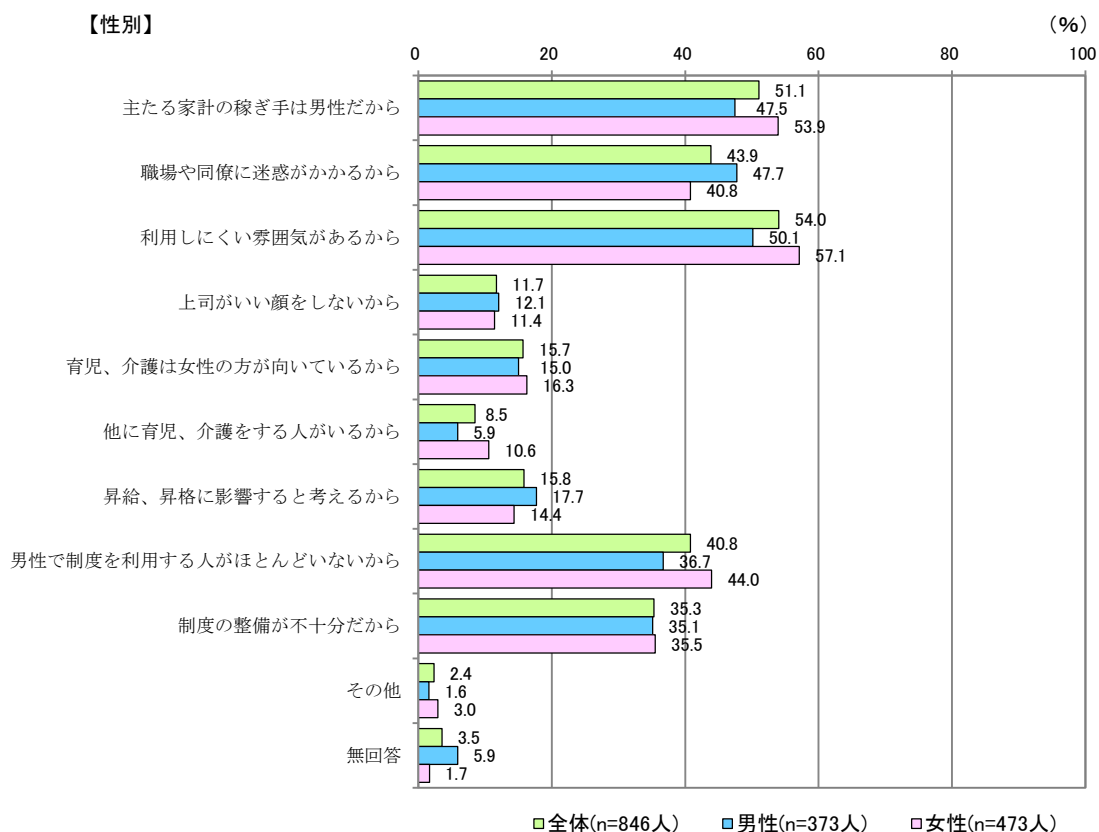


女性 (n=211人)



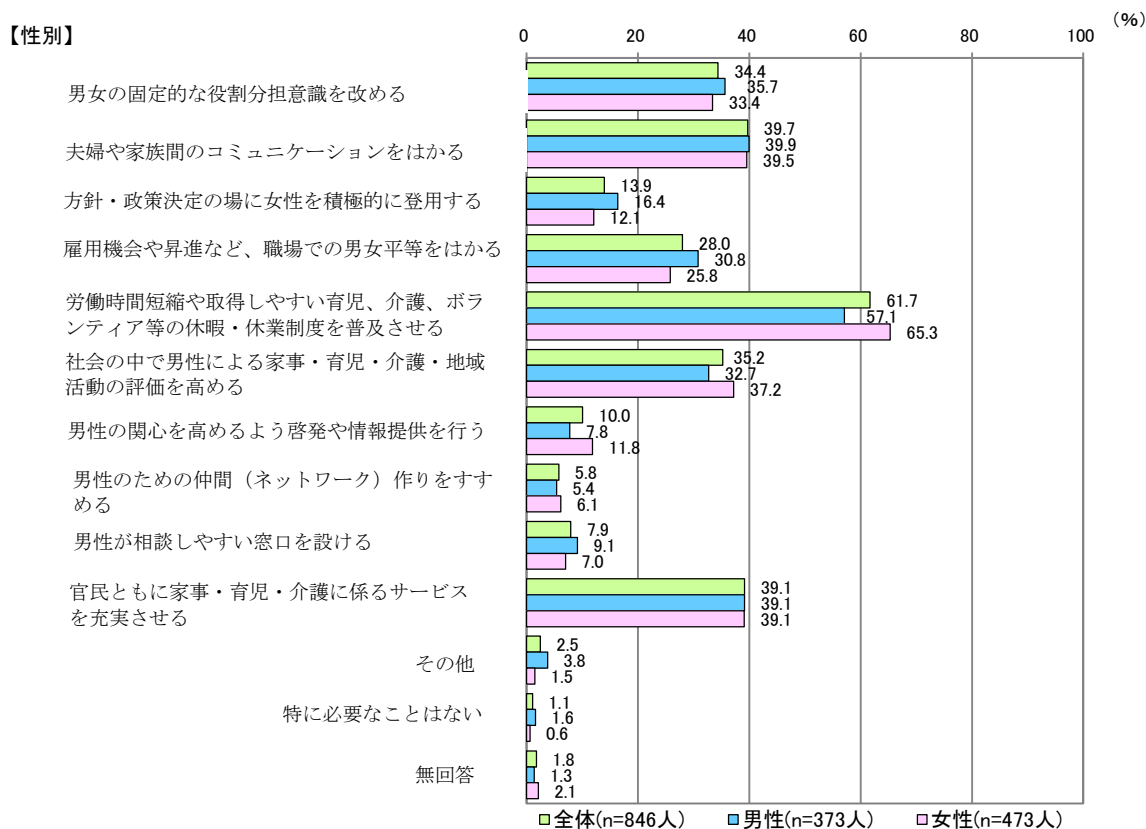
問 12 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- ・全体でみると、最も回答割合が多いのは、「利用しにくい雰囲気があるから」(54.0%)で、5割を超えている。次いで、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(51.1%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(43.9%)、「男性で制度を利用する人がほとんどいないから」(40.8%)、「制度の整備が不十分だから」(35.3%)の順となっている。
- ・性別でみると、男性では、「利用しにくい雰囲気があるから」(50.1%)と「職場や同僚に迷惑がかかるから」(47.7%)で多くなっている。次に、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(47.5%)がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・女性では、男性同様「利用しにくい雰囲気があるから」(57.1%)が最も多くなっている。次いで、2番目に「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(53.9%)、3番目に「職場や同僚に迷惑がかかるから」(40.8%)の順となる。



問 13 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- ・全体では、「労働時間短縮や、取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(61.7%)が最も多く、約6割となっている。次に、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(39.7%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(39.1%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(35.2%)の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(57.1%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(39.9%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(39.1%)「男女の固定的な役割分担意識を改める」(35.7%)の順となる。
- ・女性も、「労働時間短縮や、取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(65.3%)という回答が最も多い。次に、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(39.5%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(39.1%)の順となっている。



---

## 地域社会に関する問題

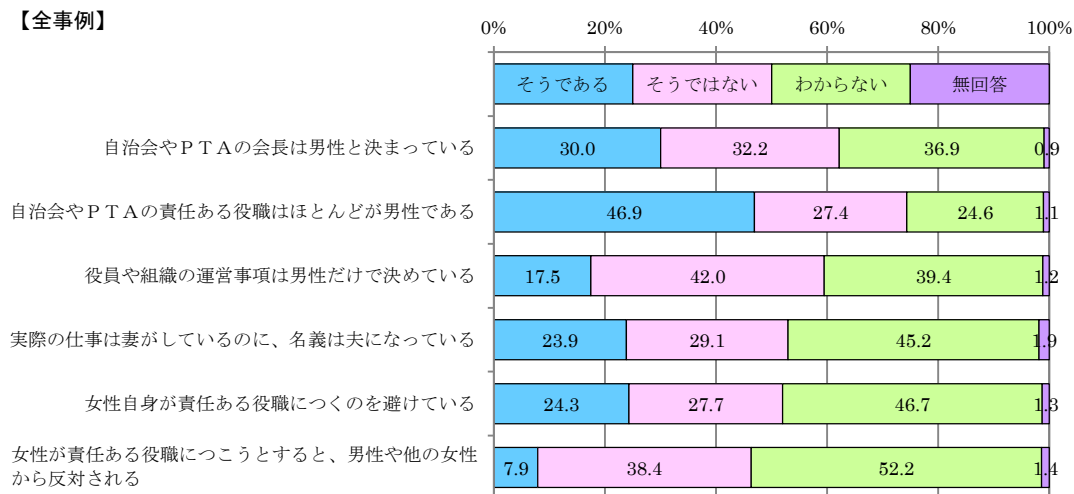
---



問 14 あなたが住んでいる地域では、自治会・P T A・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やP T Aの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（46.9%）となっている。次に、「自治会やP T Aの会長は男性と決まっている」（30.0%）、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（24.3%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（42.0%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（38.4%）、「自治会やP T Aの会長は男性と決まっている」（32.2%）と続いている。

【全事例】

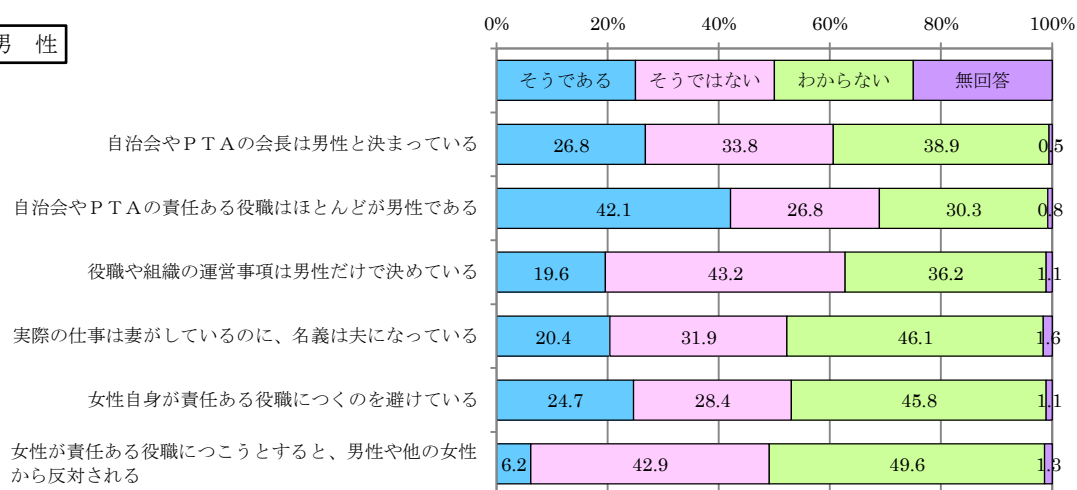


全体 (n=846 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

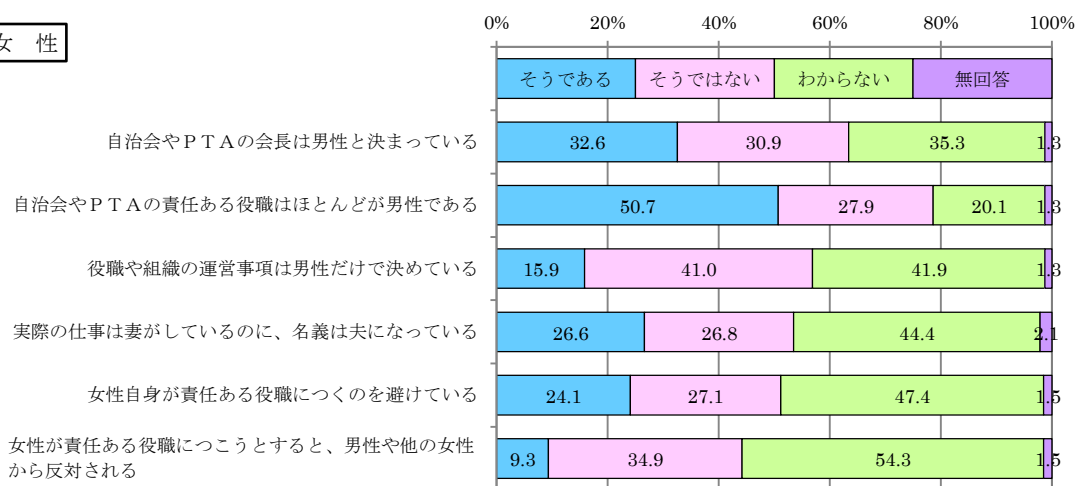
【性別】

男性



男性 (n=373 人)

女性



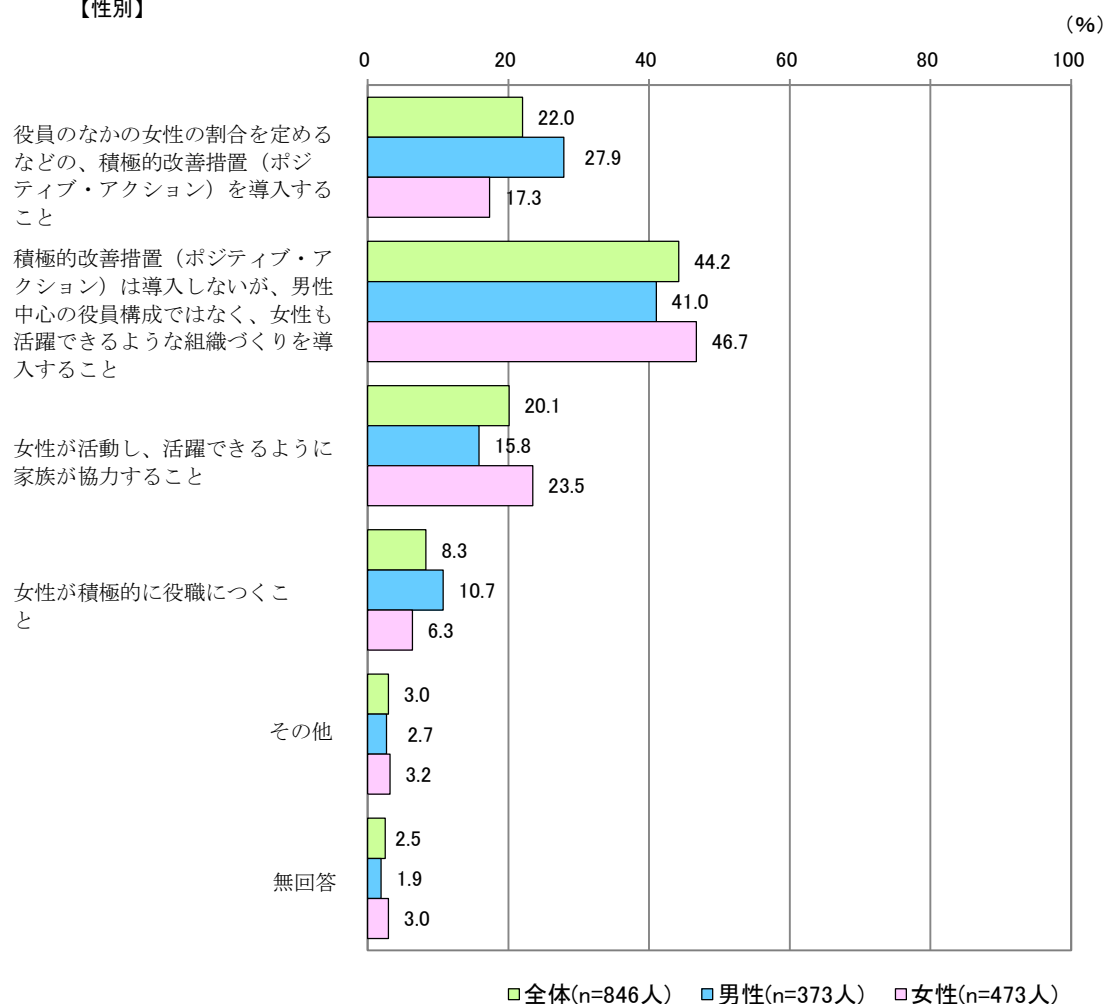
女性 (n=473 人)

問 15 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、4割（44.2%）を超えている。次に、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（22.0%）、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（20.1%）と続いている。
- ・性別でみると、男女どちらも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、約4割を超えている。次に、男性は、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」が続き、一方女性は、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」が2番目となる。

【性別】







---

## 男女の人権に関する問題

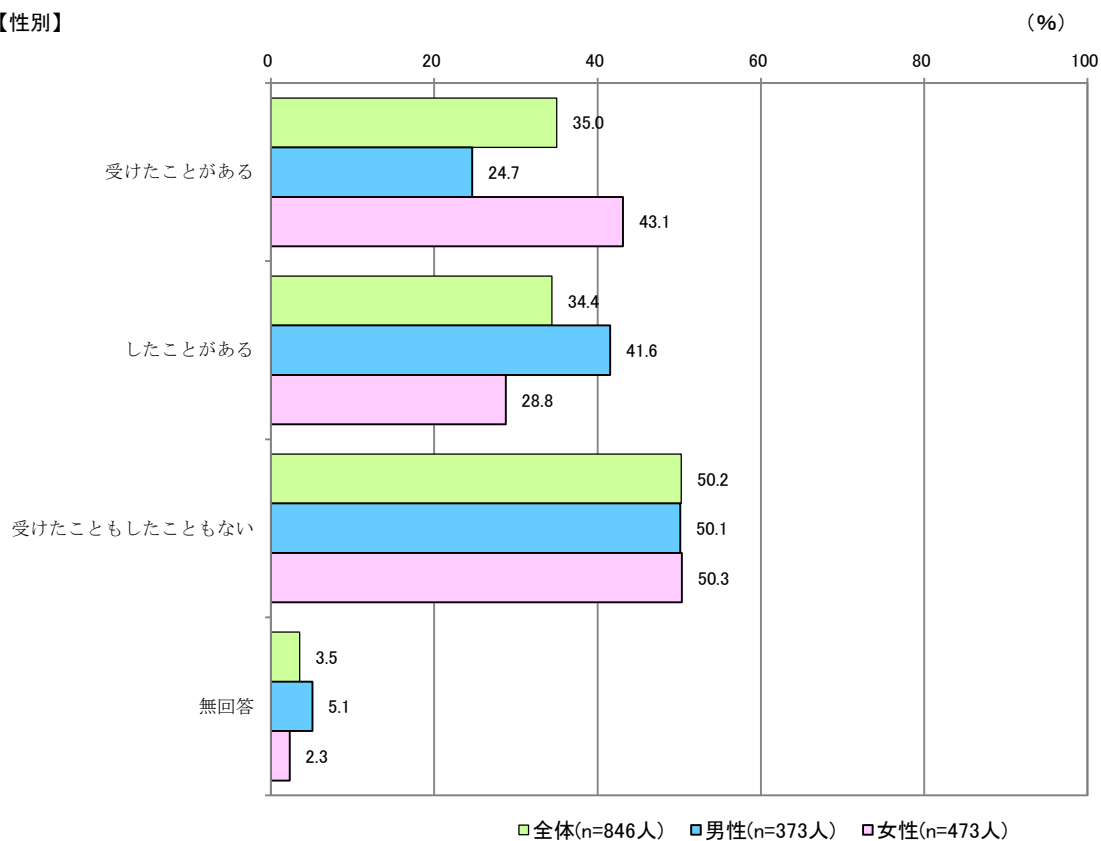
---



問 16 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

・性別では、男性で「したことがある」（41.6%）なのに対し、女性では「受けたことがある」（43.1%）となっている。

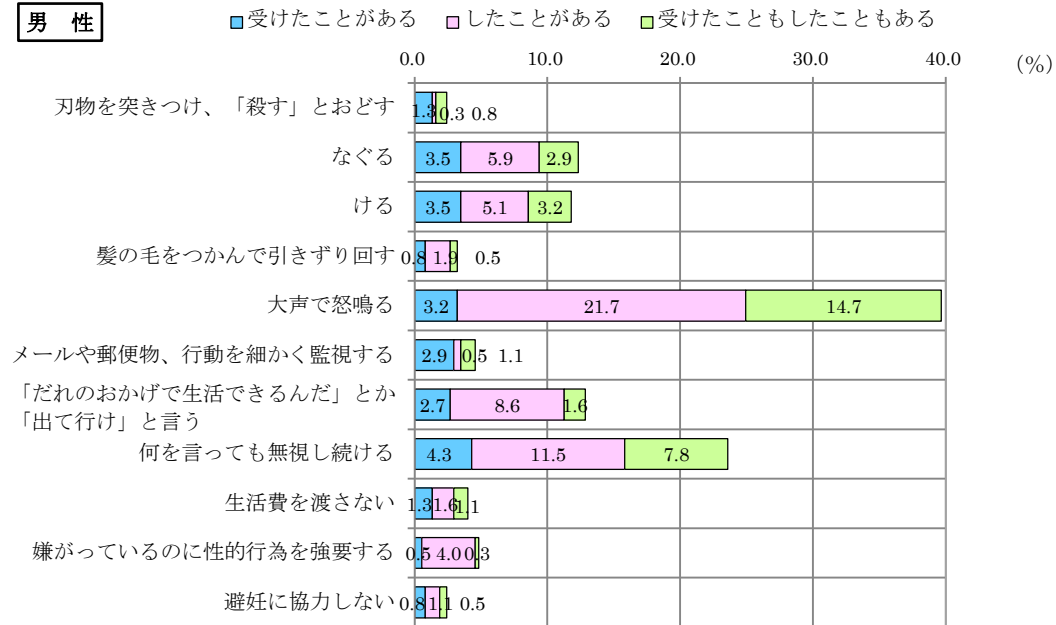
【性別】



- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がどの行為においても大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「大声で怒鳴る」、「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性、女性ともほぼ同じとなっている。

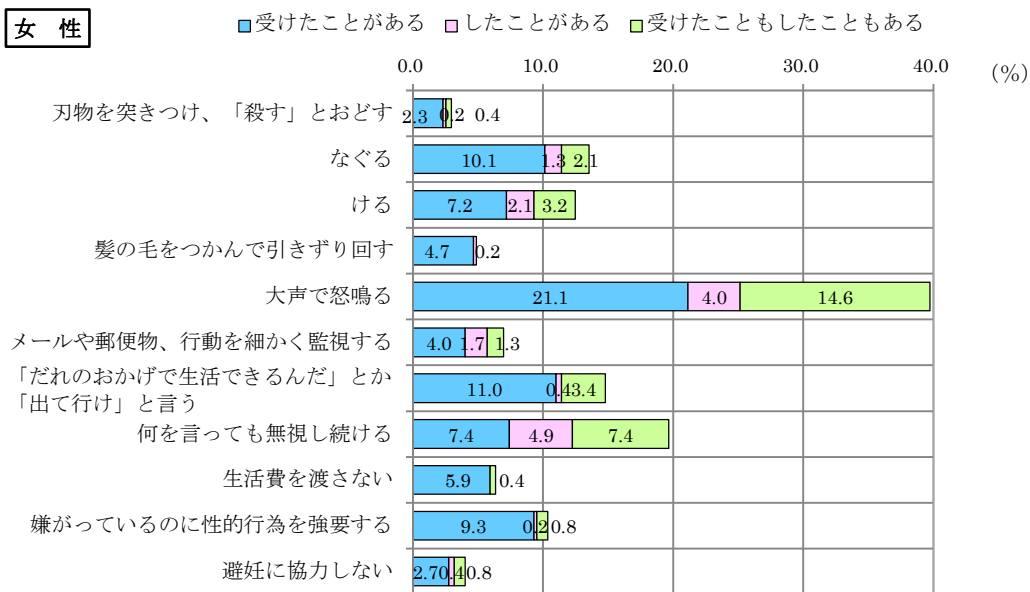
【性別】

**男性**



男性 (n=373 人)

**女性**



女性 (n=473 人)

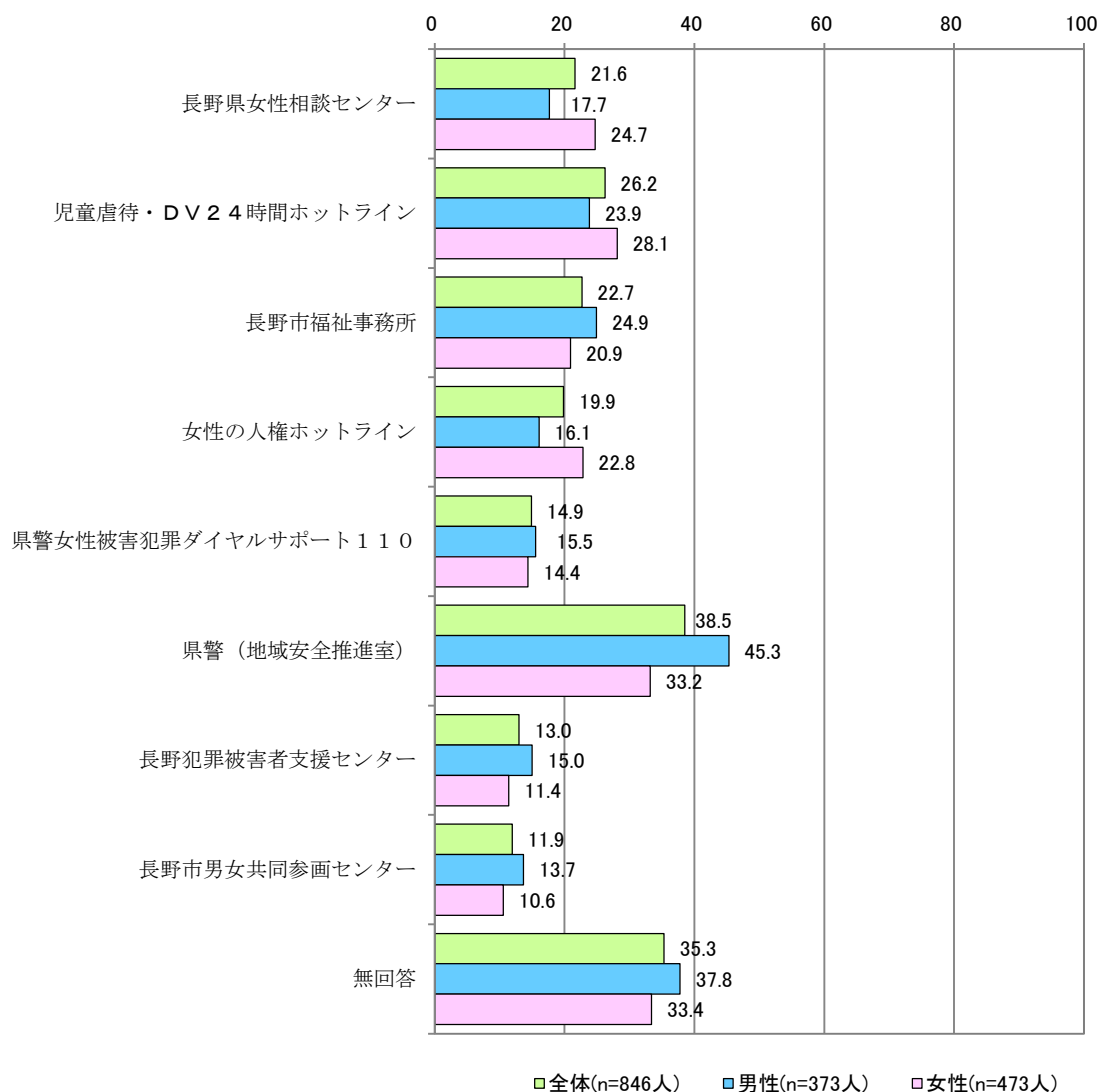
※無回答は男性で5.1%~7.0%、女性で2.3%~4.7%で、残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 17 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（地域安全推進室）」（38.5%）で、約4割となっている。次いで、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（26.2%）、「長野市福祉事務所」（22.7%）、「長野県女性相談センター」（21.6%）と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警（地域安全推進室）」（45.3%）が約5割で最も多くなっている。次に、「長野市福祉事務所」（24.9%）、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（23.9%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（地域安全推進室）」（33.2%）と「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（28.1%）と続いている。女性の3番目に多い回答は、「長野県女性相談センター」（24.7%）となっており、男性の回答とは認知度に差がある。

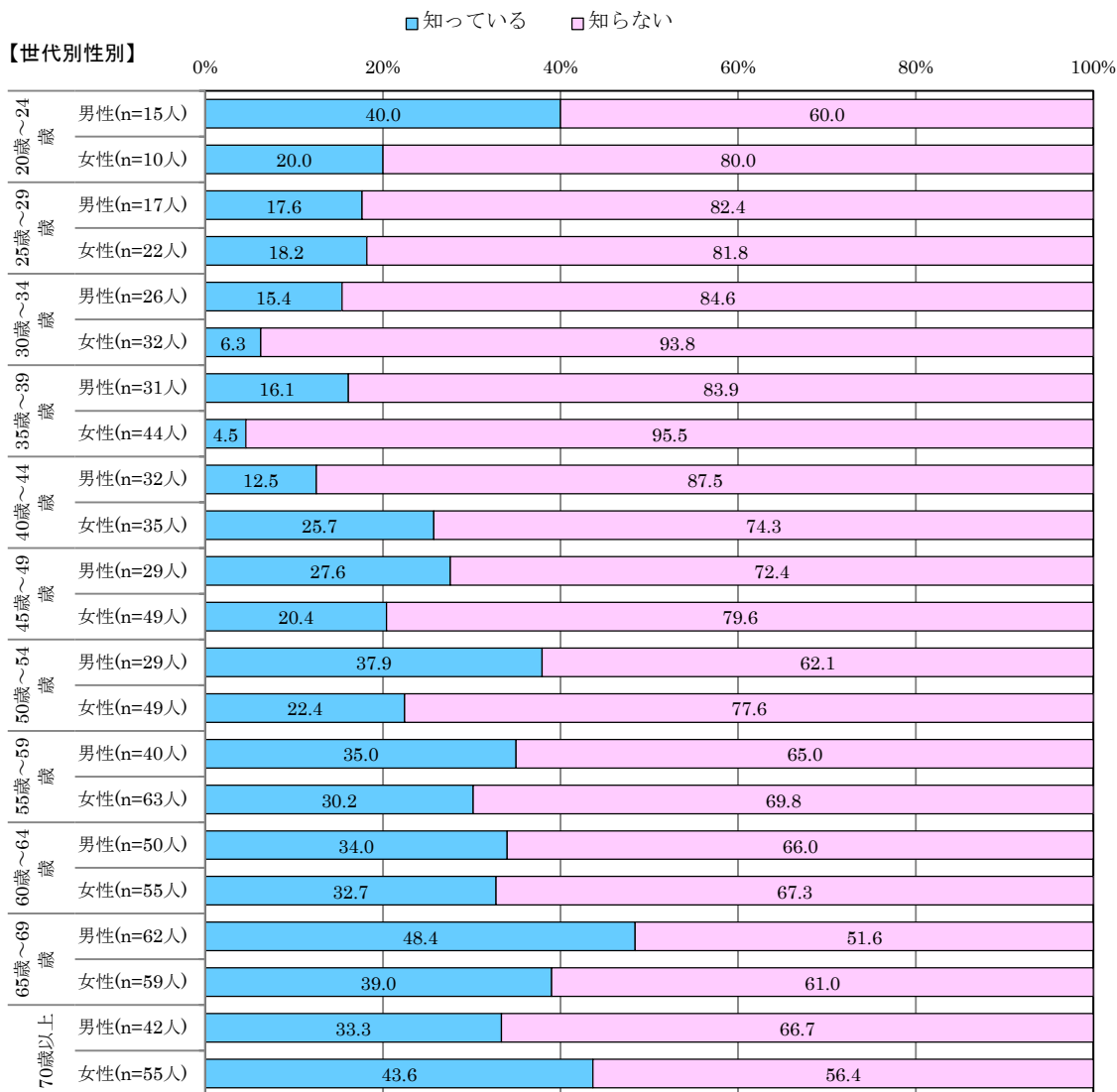
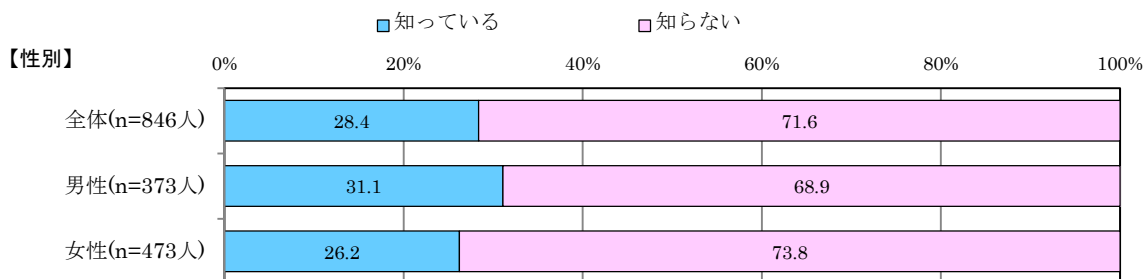
【性別】

(%)



## <DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

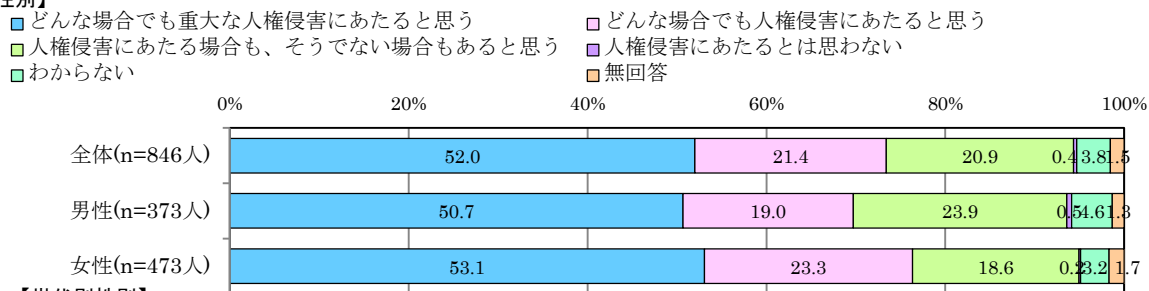
- ・問 17 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」割合は、約 3 割（28.4%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」割合は、「男性」の方が「女性」よりやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、20 歳～24 歳、65 歳～69 歳の年代において認知度が 4 割を超えている。20 歳～44 歳の年代で年齢が高くなるにつれ認知度も低くなっていく傾向があるといえる。一方、女性は 70 歳以上で最も認知度が高くなっている。20 歳代、30 歳代はやや低くなっているが、そこから年齢が高くなるにつれ徐々に認知度も上がっていく傾向があるといえる。



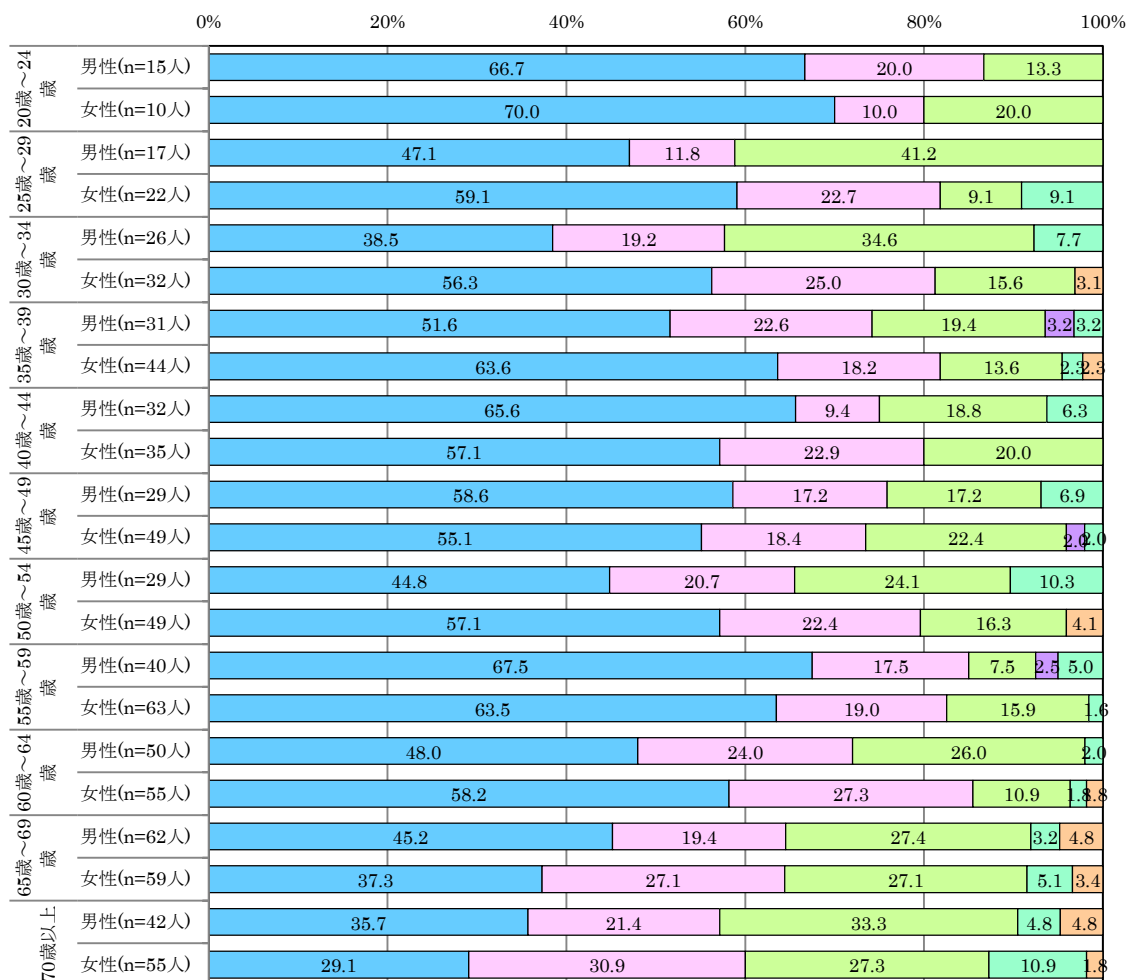
問 18 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えにもっとも近いのは  
 どれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（52.0%）が最も多い回答となっており、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（21.4%）と「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（20.9%）がほぼ同じ回答割合で続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」という回答で、次に男性では「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答となっているのに対し、女性では「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性、30歳～34歳の男性で、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答割合が多くなっている。

【性別】



【世代別性別】







---

## 男女共同参画施策に関する問題

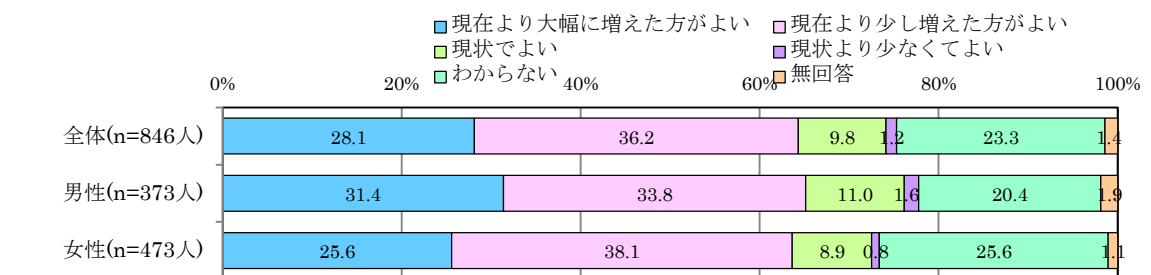
---



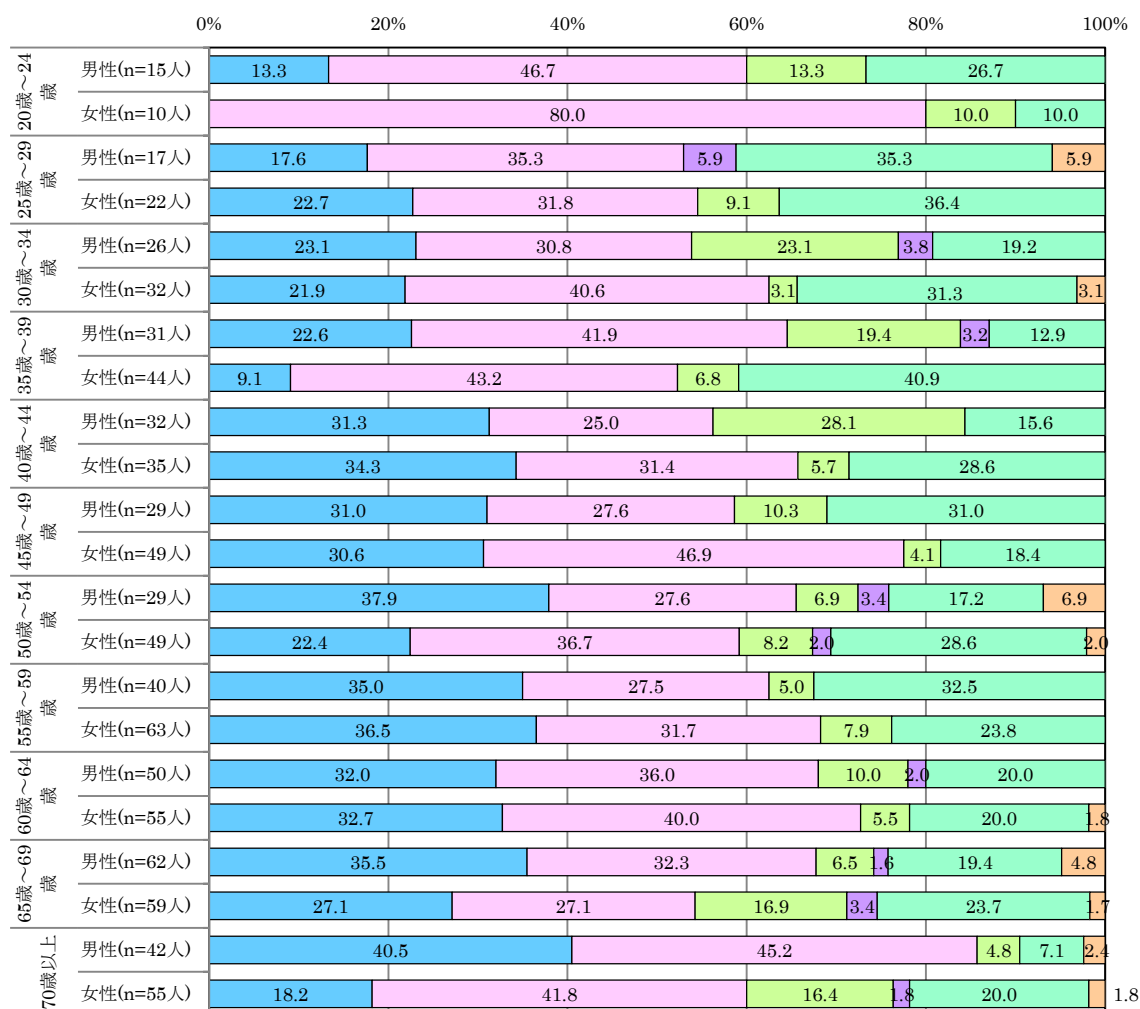
問 19 平成 26 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6 人(15.4%)、平成 26 年 7 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数と割合は 490 人(17.7%)となっています。

このことについて、あなたのお考えに最も近いものを 1 つお選びください。

- ・全体でみると、「現在より大幅に増えた方がよい」(28.1%)及び「現在より少し増えた方がよい」(36.2%)という回答の合計は、約 6 割(64.3%)となっている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答の合計は男性 65.2%、女性 63.7%で、男性の方がやや多い。
- ・世代別性別でみると、20 歳～24 歳の女性で「現在より少し増えた方がよい」という回答が 8 割(80.0%)となっている。



【世代別性別】

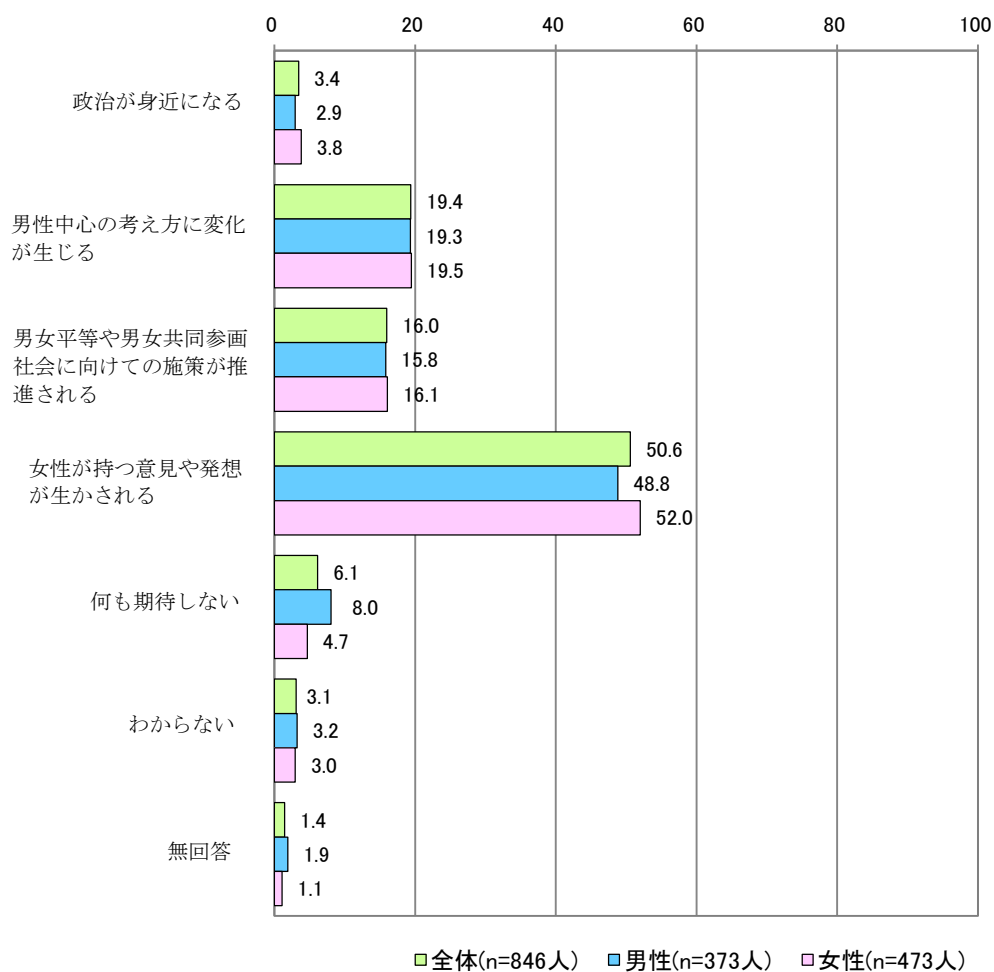


問 20 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。  
次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- 全体でみると、「女性が持つ意見や発想が活かされる」(50.6%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「男性中心の考え方に変化が生じる」(19.4%)、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」(16.0%)と続いている。
- 性別でみると、男女による大きな差は見られないが、「政治が身近になる」、「男性中心の考え方に変化が生じる」、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」、「女性が持つ意見や発想が活かされる」という回答では、女性の回答割合が、男性よりもやや高くなっている。

【性別】

(%)

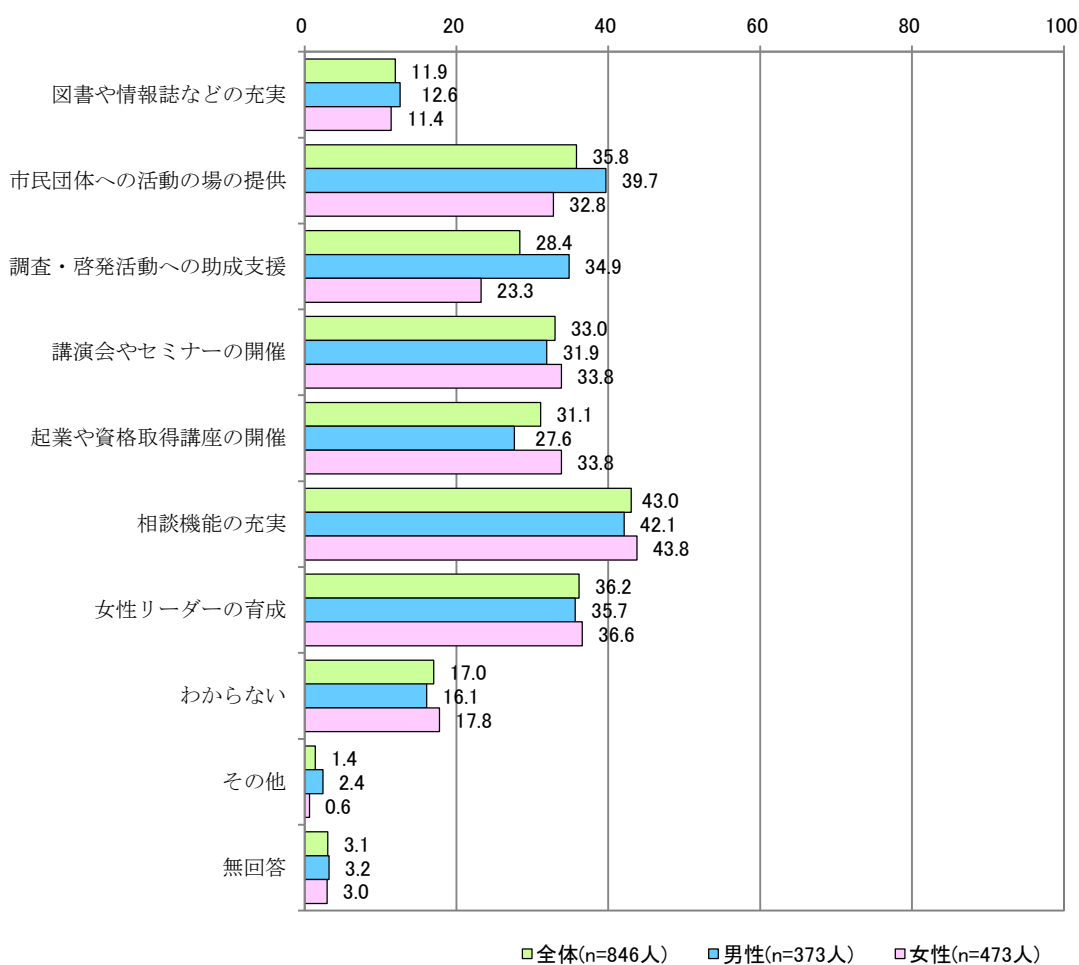


問 21 男女共同参画社会を実現するための拠点施設（長野市男女共同参画センター）の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「相談機能の充実」（43.0%）が最も多い回答となっている。次いで、「女性リーダーの育成」（36.2%）、「市民団体への活動の場の提供」（35.8%）の順が続いている。
- ・性別で見ると、男性は「相談機能の充実」（42.1%）、「市民団体への活動の場の提供」（39.7%）、「女性リーダーの育成」（35.7%）の順となっている。
- ・一方、女性は「相談機能の充実」（43.8%）、「女性リーダーの育成」（36.6%）、同じ割合で「講演会やセミナーの開催」、「起業や資格取得講座の開催」（33.8%）の順となる。「相談機能の充実」、「女性リーダーの育成」、「講演会やセミナーの開催」、「起業や資格取得講座の開催」については、男性より女性が多くなっている。

(%)

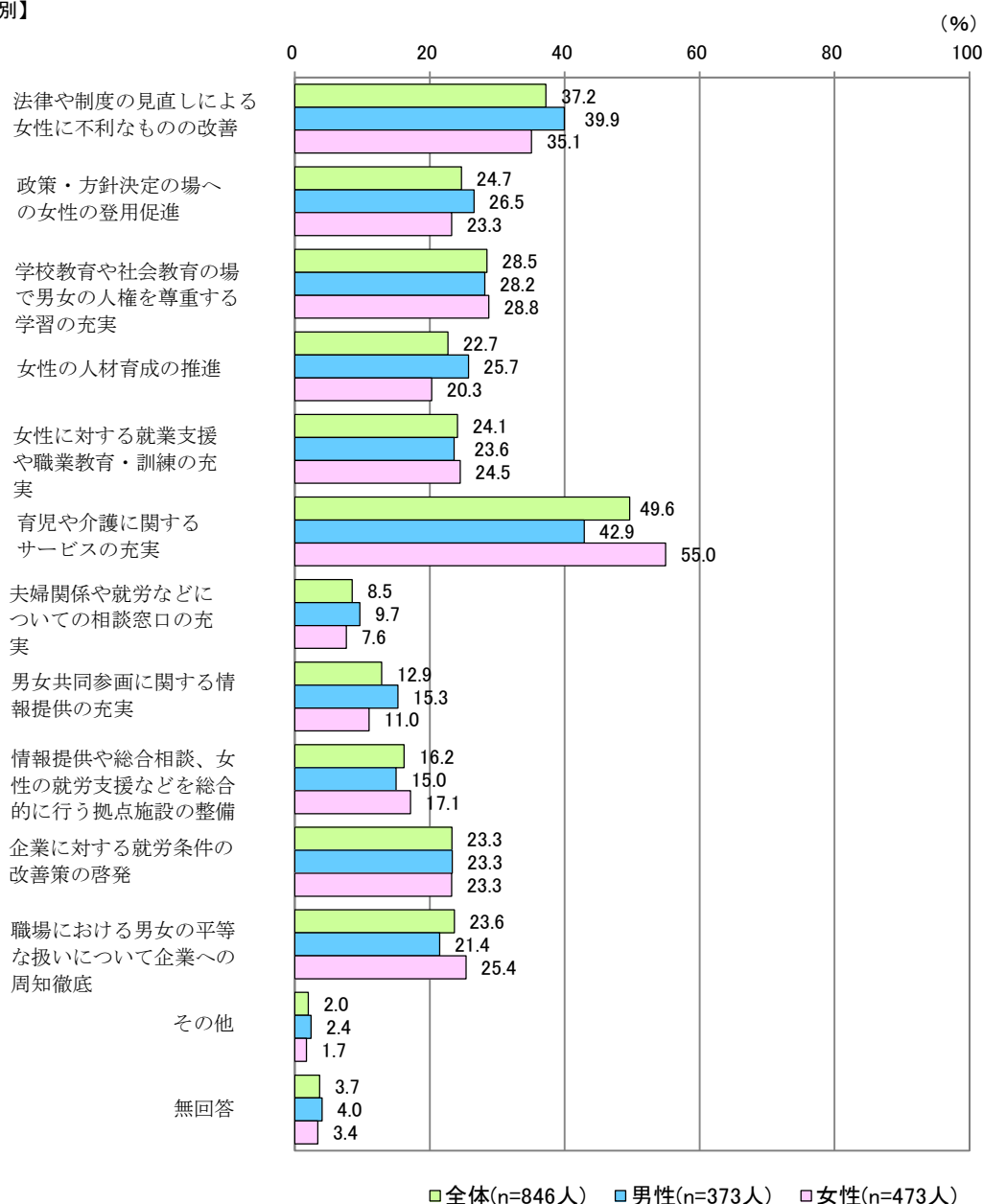
【性別】



問 22 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思えるものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(49.6%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(37.2%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(28.5%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(42.9%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(39.9%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(28.2%)となる。
- ・一方、女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(55.0%)が最も多くなっており、男性よりも回答割合が高くなっている。次に、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(35.1%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(28.8%)の順となる。

【性別】



---

## 資 料

---





---

## 単純集計

---



## 『男女共同参画に関する市民意識と実態調査』

### アンケート回答数

| 送付数   | 回答数 | 回収率   |
|-------|-----|-------|
| 2,000 | 846 | 42.3% |

### A あなたの性別を教えてください。

| 選択肢 | 回答数 | 回答割合   |
|-----|-----|--------|
| ①男性 | 373 | 44.1%  |
| ②女性 | 473 | 55.9%  |
| 合計  | 846 | 100.0% |

### B あなたの年齢について教えてください。

| 選択肢      | 回答数 | 回答割合   |
|----------|-----|--------|
| ①20歳～24歳 | 25  | 3.0%   |
| ②25歳～29歳 | 39  | 4.6%   |
| ③30歳～34歳 | 58  | 6.9%   |
| ④35歳～39歳 | 75  | 8.9%   |
| ⑤40歳～44歳 | 67  | 7.9%   |
| ⑥45歳～49歳 | 78  | 9.2%   |
| ⑦50歳～54歳 | 78  | 9.2%   |
| ⑧55歳～59歳 | 103 | 12.2%  |
| ⑨60歳～64歳 | 105 | 12.4%  |
| ⑩65歳～69歳 | 121 | 14.3%  |
| ⑪70歳以上   | 97  | 11.5%  |
| 合計       | 846 | 100.0% |

### C あなたの職業を教えてください。

| 選択肢                           | 回答数 | 回収率    |
|-------------------------------|-----|--------|
| ①農林漁業の自営業主・家族従業者              | 27  | 3.2%   |
| ②農林漁業以外の自営業主・家族従業者            | 33  | 3.9%   |
| ③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)   | 20  | 2.4%   |
| ④会社役員・経営者                     | 45  | 5.3%   |
| ⑤正社員・正職員などの正規雇用者              | 229 | 27.1%  |
| ⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者 | 200 | 23.6%  |
| ⑦家事専業者                        | 139 | 16.4%  |
| ⑧学生                           | 9   | 1.1%   |
| ⑨無職                           | 118 | 13.9%  |
| ⑩その他                          | 23  | 2.7%   |
| 無回答                           | 3   | 0.4%   |
| 合計                            | 846 | 100.0% |

### D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

| 選択肢           | 回答数 | 回答割合   |
|---------------|-----|--------|
| ①単身世帯(含単身赴任)  | 78  | 9.2%   |
| ②一世代世帯(夫婦のみ)  | 216 | 25.5%  |
| ③二世帯世帯(親と子)   | 419 | 49.5%  |
| ④三世帯世帯(親と子と孫) | 119 | 14.1%  |
| ⑤その他          | 14  | 1.7%   |
| 合計            | 846 | 100.0% |

E あなたは現在、結婚していますか。

| 選択肢               | 回答数 | 回答割合   |
|-------------------|-----|--------|
| ①結婚している           | 630 | 74.5%  |
| ②結婚していない          | 137 | 16.2%  |
| ③結婚していないがパートナーがいる | 16  | 1.9%   |
| ④配偶者と離・死別した       | 63  | 7.4%   |
| 合計                | 846 | 100.0% |

F Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。  
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

| 選択肢                           | 回答数 | 回答割合   |
|-------------------------------|-----|--------|
| ①農林漁業の自営業主・家族従業者              | 29  | 4.5%   |
| ②農林漁業以外の自営業主・家族従業者            | 31  | 4.8%   |
| ③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)   | 13  | 2.0%   |
| ④会社役員・経営者                     | 41  | 6.3%   |
| ⑤正社員・正職員などの正規雇用者              | 191 | 29.6%  |
| ⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者 | 131 | 20.3%  |
| ⑦家事専業者                        | 64  | 9.9%   |
| ⑧学生                           | 0   | 0.0%   |
| ⑨無職                           | 127 | 19.7%  |
| ⑩その他                          | 5   | 0.8%   |
| 無回答                           | 14  | 2.2%   |
| 合計                            | 646 | 100.0% |

G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

| 選択肢  | 回答数 | 回答割合   |
|------|-----|--------|
| ①いる  | 635 | 75.1%  |
| ②いない | 199 | 23.5%  |
| 無回答  | 12  | 1.4%   |
| 合計   | 846 | 100.0% |

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 316 | 37.4%  |
| ②女性が優位 | 103 | 12.2%  |
| ③平等である | 346 | 40.9%  |
| ④わからない | 65  | 7.7%   |
| 無回答    | 16  | 1.9%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

2 学校教育の場では

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 136 | 16.1%  |
| ②女性が優位 | 39  | 4.6%   |
| ③平等である | 438 | 51.8%  |
| ④わからない | 211 | 24.9%  |
| 無回答    | 22  | 2.6%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

3 地域社会では

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 546 | 64.5%  |
| ②女性が優位 | 17  | 2.0%   |
| ③平等である | 152 | 18.0%  |
| ④わからない | 114 | 13.5%  |
| 無回答    | 17  | 2.0%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

4 職場では

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 497 | 58.7%  |
| ②女性が優位 | 20  | 2.4%   |
| ③平等である | 206 | 24.3%  |
| ④わからない | 101 | 11.9%  |
| 無回答    | 22  | 2.6%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

5 法律や制度の上では

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 317 | 37.5%  |
| ②女性が優位 | 35  | 4.1%   |
| ③平等である | 302 | 35.7%  |
| ④わからない | 174 | 20.6%  |
| 無回答    | 18  | 2.1%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

6 慣習・しきたりでは

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 642 | 75.9%  |
| ②女性が優位 | 20  | 2.4%   |
| ③平等である | 87  | 10.3%  |
| ④わからない | 80  | 9.5%   |
| 無回答    | 17  | 2.0%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

7 政治の場では

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 670 | 79.2%  |
| ②女性が優位 | 4   | 0.5%   |
| ③平等である | 77  | 9.1%   |
| ④わからない | 78  | 9.2%   |
| 無回答    | 17  | 2.0%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

8 社会全体では

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| ①男性が優位 | 632 | 74.7%  |
| ②女性が優位 | 13  | 1.5%   |
| ③平等である | 101 | 11.9%  |
| ④わからない | 81  | 9.6%   |
| 無回答    | 19  | 2.2%   |
| 合計     | 846 | 100.0% |

問2 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

| 選択肢       | 回答数 | 回答割合   |
|-----------|-----|--------|
| ①知っている    | 357 | 42.2%  |
| ②聞いたことがある | 273 | 32.3%  |
| ③知らない     | 206 | 24.3%  |
| 無回答       | 10  | 1.2%   |
| 合計        | 846 | 100.0% |

2 ジェンダー(社会的性別)

| 選択肢       | 回答数 | 回答割合   |
|-----------|-----|--------|
| ①知っている    | 233 | 27.5%  |
| ②聞いたことがある | 201 | 23.8%  |
| ③知らない     | 401 | 47.4%  |
| 無回答       | 11  | 1.3%   |
| 合計        | 846 | 100.0% |

3 女子差別撤廃条約

| 選択肢       | 回答数 | 回答割合   |
|-----------|-----|--------|
| ①知っている    | 152 | 18.0%  |
| ②聞いたことがある | 253 | 29.9%  |
| ③知らない     | 431 | 50.9%  |
| 無回答       | 10  | 1.2%   |
| 合計        | 846 | 100.0% |

4 男女雇用機会均等法

| 選択肢       | 回答数 | 回答割合   |
|-----------|-----|--------|
| ①知っている    | 599 | 70.8%  |
| ②聞いたことがある | 188 | 22.2%  |
| ③知らない     | 48  | 5.7%   |
| 無回答       | 11  | 1.3%   |
| 合計        | 846 | 100.0% |

5 長野市男女共同参画推進条例

| 選択肢       | 回答数 | 回答割合   |
|-----------|-----|--------|
| ①知っている    | 109 | 12.9%  |
| ②聞いたことがある | 243 | 28.7%  |
| ③知らない     | 484 | 57.2%  |
| 無回答       | 10  | 1.2%   |
| 合計        | 846 | 100.0% |

6 長野市男女共同参画センター

| 選択肢       | 回答数 | 回答割合   |
|-----------|-----|--------|
| ①知っている    | 125 | 14.8%  |
| ②聞いたことがある | 186 | 22.0%  |
| ③知らない     | 524 | 61.9%  |
| 無回答       | 11  | 1.3%   |
| 合計        | 846 | 100.0% |

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

| 選択肢                                     | 回答数 | 回答割合  |
|---|-----|-------|
| ①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会                    | 400 | 47.3% |
| ②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会       | 187 | 22.1% |
| ③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会                  | 558 | 66.0% |
| ④新たな発想や多様な価値観が活かされる社会                   | 149 | 17.6% |
| ⑤男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会 | 658 | 77.8% |
| ⑥男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会   | 439 | 51.9% |
| ⑦その他                                    | 10  | 1.2%  |
| 無回答                                     | 19  | 2.2%  |
| 対象数                                     | 846 | -     |

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。  
次の中から1つお選びください。

| 選択肢         | 回答数 | 回答割合   |
|-------------|-----|--------|
| ①賛成         | 40  | 4.7%   |
| ②どちらかといえば賛成 | 313 | 37.0%  |
| ③どちらかといえば反対 | 313 | 37.0%  |
| ④反対         | 161 | 19.0%  |
| 無回答         | 19  | 2.2%   |
| 合計          | 846 | 100.0% |

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。  
次の中から1つお選びください。

| 選択肢                                | 回答数 | 回答割合   |
|------------------------------------|-----|--------|
| ①女性は職業をもたない方がよい                    | 3   | 0.4%   |
| ②結婚するまでは職業をもつ方がよい                  | 20  | 2.4%   |
| ③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい              | 49  | 5.8%   |
| ④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい             | 349 | 41.3%  |
| ⑤子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい | 342 | 40.4%  |
| ⑥その他                               | 76  | 9.0%   |
| 無回答                                | 7   | 0.8%   |
| 合計                                 | 846 | 100.0% |

### 「労働」に関することでおたずねします。

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか  
(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号を1つずつお選びください。

#### 1 賃金

| 選択肢          | 回答数 | 回答割合   |
|--------------|-----|--------|
| 男性の方が優遇されている | 183 | 33.0%  |
| 女性の方が優遇されている | 4   | 0.7%   |
| 平等である        | 246 | 44.4%  |
| わからない        | 91  | 16.4%  |
| 無回答          | 30  | 5.4%   |
| 合計           | 554 | 100.0% |

## 2 昇進や昇格

| 選択肢          | 回答数 | 回答割合   |
|--------------|-----|--------|
| 男性の方が優遇されている | 249 | 44.9%  |
| 女性の方が優遇されている | 8   | 1.4%   |
| 平等である        | 174 | 31.4%  |
| わからない        | 93  | 16.8%  |
| 無回答          | 30  | 5.4%   |
| 合計           | 554 | 100.0% |

## 3 仕事の内容

| 選択肢          | 回答数 | 回答割合   |
|--------------|-----|--------|
| 男性の方が優遇されている | 147 | 26.5%  |
| 女性の方が優遇されている | 55  | 9.9%   |
| 平等である        | 244 | 44.0%  |
| わからない        | 78  | 14.1%  |
| 無回答          | 30  | 5.4%   |
| 合計           | 554 | 100.0% |

## 4 研修の機会や内容

| 選択肢          | 回答数 | 回答割合   |
|--------------|-----|--------|
| 男性の方が優遇されている | 110 | 19.9%  |
| 女性の方が優遇されている | 7   | 1.3%   |
| 平等である        | 305 | 55.1%  |
| わからない        | 101 | 18.2%  |
| 無回答          | 31  | 5.6%   |
| 合計           | 554 | 100.0% |

### 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問7 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。  
次の中から1つお選びください。

| 選択肢                  | 回答数 | 回答割合   |
|----------------------|-----|--------|
| ①言葉も内容も知っている         | 214 | 25.3%  |
| ②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない | 293 | 34.6%  |
| ③知らない                | 332 | 39.2%  |
| 無回答                  | 7   | 0.8%   |
| 合計                   | 846 | 100.0% |

問8 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、  
あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

| 選択肢                             | 回答数 | 回答割合   |
|---------------------------------|-----|--------|
| ①「仕事」優先                         | 25  | 3.0%   |
| ②「家庭生活」優先                       | 132 | 15.6%  |
| ③「地域活動・個人の生活」優先                 | 16  | 1.9%   |
| ④「仕事」と「家庭生活」をともに優先              | 313 | 37.0%  |
| ⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先        | 36  | 4.3%   |
| ⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先      | 82  | 9.7%   |
| ⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先 | 234 | 27.7%  |
| 無回答                             | 8   | 0.9%   |
| 合計                              | 846 | 100.0% |



問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

| 選択肢                             | 回答数 | 回答割合   |
|---------------------------------|-----|--------|
| ①「仕事」優先                         | 211 | 24.9%  |
| ②「家庭生活」優先                       | 223 | 26.4%  |
| ③「地域活動・個人の生活」優先                 | 32  | 3.8%   |
| ④「仕事」と「家庭生活」をともに優先              | 179 | 21.2%  |
| ⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先        | 32  | 3.8%   |
| ⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先      | 71  | 8.4%   |
| ⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先 | 80  | 9.5%   |
| 無回答                             | 18  | 2.1%   |
| 合計                              | 846 | 100.0% |

問10 あなたは次にあげる家事をしていますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 掃除

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 415 | 49.1%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 152 | 18.0%  |
| 自分は手伝い程度している   | 187 | 22.1%  |
| していない          | 81  | 9.6%   |
| 無回答            | 11  | 1.3%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

2 洗濯

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 424 | 50.1%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 113 | 13.4%  |
| 自分は手伝い程度している   | 118 | 13.9%  |
| していない          | 180 | 21.3%  |
| 無回答            | 11  | 1.3%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

3 食料品、日用品などの買物

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 402 | 47.5%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 181 | 21.4%  |
| 自分は手伝い程度している   | 183 | 21.6%  |
| していない          | 68  | 8.0%   |
| 無回答            | 12  | 1.4%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

4 食事のしたく

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 425 | 50.2%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 86  | 10.2%  |
| 自分は手伝い程度している   | 136 | 16.1%  |
| していない          | 188 | 22.2%  |
| 無回答            | 11  | 1.3%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

5 食事の後かたづけ

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 394 | 46.6%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 175 | 20.7%  |
| 自分は手伝い程度している   | 159 | 18.8%  |
| していない          | 106 | 12.5%  |
| 無回答            | 12  | 1.4%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

6 ごみを捨てる

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 389 | 46.0%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 179 | 21.2%  |
| 自分は手伝い程度している   | 148 | 17.5%  |
| していない          | 118 | 13.9%  |
| 無回答            | 12  | 1.4%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

問11 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 114 | 30.5%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 57  | 15.2%  |
| 自分は手伝い程度している   | 93  | 24.9%  |
| していない          | 110 | 29.4%  |
| 合計             | 374 | 100.0% |

2 介護

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| 主に自分がしている      | 50  | 14.7%  |
| 自分と家族が同じ程度している | 42  | 12.3%  |
| 自分は手伝い程度している   | 44  | 12.9%  |
| していない          | 205 | 60.1%  |
| 合計             | 341 | 100.0% |

問12 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。

主な理由を次の中から3つまでお選びください。

| 選択肢                    | 回答数 | 回答割合  |
|------------------------|-----|-------|
| ①主たる家計の稼ぎ手は男性だから       | 432 | 51.1% |
| ②職場や同僚に迷惑がかかるから        | 371 | 43.9% |
| ③利用しにくい雰囲気があるから        | 457 | 54.0% |
| ④上司がいい顔をしないから          | 99  | 11.7% |
| ⑤育児、介護は女性の方が向いているから    | 133 | 15.7% |
| ⑥他に育児、介護をする人がいるから      | 72  | 8.5%  |
| ⑦昇給、昇格に影響すると考えるから      | 134 | 15.8% |
| ⑧男性で制度を利用する人がほとんどいないから | 345 | 40.8% |
| ⑨制度の整備が不十分だから          | 299 | 35.3% |
| ⑩その他                   | 20  | 2.4%  |
| 無回答                    | 30  | 3.5%  |
| 対象数                    | 846 | -     |

問13 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

| 選択肢                                       | 回答数 | 回答割合  |
|---|-----|-------|
| ①男女の固定的な役割分担意識を改める                        | 291 | 34.4% |
| ②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる                     | 336 | 39.7% |
| ③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する                    | 118 | 13.9% |
| ④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる                   | 237 | 28.0% |
| ⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる | 522 | 61.7% |
| ⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める           | 298 | 35.2% |
| ⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う                    | 85  | 10.0% |
| ⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる                  | 49  | 5.8%  |
| ⑨男性が相談しやすい窓口を設ける                          | 67  | 7.9%  |
| ⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる               | 331 | 39.1% |
| ⑪その他                                      | 21  | 2.5%  |
| ⑫特に必要なことはない                               | 9   | 1.1%  |
| 無回答                                       | 15  | 1.8%  |
| 対象数                                       | 846 | -     |

**地域社会に関することでおたずねします。**

問14 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

| 選択肢     | 回答数 | 回答割合   |
|---------|-----|--------|
| ①そうである  | 254 | 30.0%  |
| ②そうではない | 272 | 32.2%  |
| ③わからない  | 312 | 36.9%  |
| 無回答     | 8   | 0.9%   |
| 合計      | 846 | 100.0% |

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

| 選択肢     | 回答数 | 回答割合   |
|---------|-----|--------|
| ①そうである  | 397 | 46.9%  |
| ②そうではない | 232 | 27.4%  |
| ③わからない  | 208 | 24.6%  |
| 無回答     | 9   | 1.1%   |
| 合計      | 846 | 100.0% |

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

| 選択肢     | 回答数 | 回答割合   |
|---------|-----|--------|
| ①そうである  | 148 | 17.5%  |
| ②そうではない | 355 | 42.0%  |
| ③わからない  | 333 | 39.4%  |
| 無回答     | 10  | 1.2%   |
| 合計      | 846 | 100.0% |

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

| 選択肢     | 回答数 | 回答割合   |
|---------|-----|--------|
| ①そうである  | 202 | 23.9%  |
| ②そうではない | 246 | 29.1%  |
| ③わからない  | 382 | 45.2%  |
| 無回答     | 16  | 1.9%   |
| 合計      | 846 | 100.0% |

5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている

| 選択肢     | 回答数 | 回答割合   |
|---------|-----|--------|
| ①そうである  | 206 | 24.3%  |
| ②そうではない | 234 | 27.7%  |
| ③わからない  | 395 | 46.7%  |
| 無回答     | 11  | 1.3%   |
| 合計      | 846 | 100.0% |

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

| 選択肢     | 回答数 | 回答割合   |
|---------|-----|--------|
| ①そうである  | 67  | 7.9%   |
| ②そうではない | 325 | 38.4%  |
| ③わからない  | 442 | 52.2%  |
| 無回答     | 12  | 1.4%   |
| 合計      | 846 | 100.0% |

問15 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。  
あなたはどうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

| 選択肢  | 回答数 | 回答割合   |
|--|-----|--------|
| ①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること                    | 186 | 22.0%  |
| ②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること | 374 | 44.2%  |
| ③女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること  | 170 | 20.1%  |
| ④女性が積極的に役職につくこと  | 70  | 8.3%   |
| ⑤その他   | 25  | 3.0%   |
| 無回答  | 21  | 2.5%   |
| 合計   | 846 | 100.0% |

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問16 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。  
次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 16  | 1.9%   |
| ②したことがある       | 2   | 0.2%   |
| ③受けたこともしたこともある | 5   | 0.6%   |
| ④受けたこともしたこともない | 793 | 93.7%  |
| 無回答            | 30  | 3.5%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

2 なぐる

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 61  | 7.2%   |
| ②したことがある       | 28  | 3.3%   |
| ③受けたこともしたこともある | 21  | 2.5%   |
| ④受けたこともしたこともない | 706 | 83.5%  |
| 無回答            | 30  | 3.5%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

3 ける

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 47  | 5.6%   |
| ②したことがある       | 29  | 3.4%   |
| ③受けたこともしたこともある | 27  | 3.2%   |
| ④受けたこともしたこともない | 713 | 84.3%  |
| 無回答            | 30  | 3.5%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 25  | 3.0%   |
| ②したことがある       | 8   | 0.9%   |
| ③受けたこともしたこともある | 2   | 0.2%   |
| ④受けたこともしたこともない | 781 | 92.3%  |
| 無回答            | 30  | 3.5%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

5 大声で怒鳴る

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 112 | 13.2%  |
| ②したことがある       | 100 | 11.8%  |
| ③受けたこともしたこともある | 124 | 14.7%  |
| ④受けたこともしたこともない | 477 | 56.4%  |
| 無回答            | 33  | 3.9%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 30  | 3.5%   |
| ②したことがある       | 10  | 1.2%   |
| ③受けたこともしたこともある | 10  | 1.2%   |
| ④受けたこともしたこともない | 764 | 90.3%  |
| 無回答            | 32  | 3.8%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出ていけ」と言う

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 62  | 7.3%   |
| ②したことがある       | 34  | 4.0%   |
| ③受けたこともしたこともある | 22  | 2.6%   |
| ④受けたこともしたこともない | 697 | 82.4%  |
| 無回答            | 31  | 3.7%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

8 何を言っても無視し続ける

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 51  | 6.0%   |
| ②したことがある       | 66  | 7.8%   |
| ③受けたこともしたこともある | 64  | 7.6%   |
| ④受けたこともしたこともない | 634 | 74.9%  |
| 無回答            | 31  | 3.7%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

9 生活費を渡さない

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 33  | 3.9%   |
| ②したことがある       | 6   | 0.7%   |
| ③受けたこともしたこともある | 6   | 0.7%   |
| ④受けたこともしたこともない | 769 | 90.9%  |
| 無回答            | 32  | 3.8%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 46  | 5.4%   |
| ②したことがある       | 16  | 1.9%   |
| ③受けたこともしたこともある | 5   | 0.6%   |
| ④受けたこともしたこともない | 744 | 87.9%  |
| 無回答            | 35  | 4.1%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

11 避妊に協力しない

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合   |
|----------------|-----|--------|
| ①受けたことがある      | 16  | 1.9%   |
| ②したことがある       | 6   | 0.7%   |
| ③受けたこともしたこともある | 6   | 0.7%   |
| ④受けたこともしたこともない | 770 | 91.0%  |
| 無回答            | 48  | 5.7%   |
| 合計             | 846 | 100.0% |

問17 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

| 選択肢                             | 回答数 | 回答割合  |
|---------------------------------|-----|-------|
| ①長野県女性相談センター                    | 183 | 21.6% |
| ②児童虐待・DV24時間ホットライン              | 222 | 26.2% |
| ③長野市福祉事務所(長野市役所保育家庭支援課内、篠ノ井支所内) | 192 | 22.7% |
| ④女性の人権ホットライン                    | 168 | 19.9% |
| ⑤県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110            | 126 | 14.9% |
| ⑥県警(地域安全推進室)                    | 326 | 38.5% |
| ⑦長野犯罪被害者支援センター                  | 110 | 13.0% |
| ⑧長野市男女共同参画センター                  | 101 | 11.9% |
| 無回答                             | 299 | 35.3% |
| 対象数                             | 846 | -     |

問18 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えにもっとも近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

| 選択肢                        | 回答数 | 回答割合   |
|----------------------------|-----|--------|
| ①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う     | 440 | 52.0%  |
| ②どんな場合でも人権侵害にあたると思う        | 181 | 21.4%  |
| ③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う | 177 | 20.9%  |
| ④人権侵害にあたるとは思わない            | 3   | 0.4%   |
| ⑤わからない                     | 32  | 3.8%   |
| 無回答                        | 13  | 1.5%   |
| 合計                         | 846 | 100.0% |

**「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。**

問19 平成26年4月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6人(15.4%)、平成26年7月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数と割合は490人(17.7%)となっています。このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

| 選択肢             | 回答数 | 回答割合   |
|-----------------|-----|--------|
| ①現在より大幅に増えた方がよい | 238 | 28.1%  |
| ②現在より少し増えた方がよい  | 306 | 36.2%  |
| ③現状でよい          | 83  | 9.8%   |
| ④現状より少なくてよい     | 10  | 1.2%   |
| ⑤わからない          | 197 | 23.3%  |
| 無回答             | 12  | 1.4%   |
| 合計              | 846 | 100.0% |

問20 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。

次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

| 選択肢                         | 回答数 | 回答割合   |
|-----------------------------|-----|--------|
| ①政治が身近になる                   | 29  | 3.4%   |
| ②男性中心の考え方に変化が生じる            | 164 | 19.4%  |
| ③男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される | 135 | 16.0%  |
| ④女性が持つ意見や発想が活かされる           | 428 | 50.6%  |
| ⑤何も期待しない                    | 52  | 6.1%   |
| ⑥わからない                      | 26  | 3.1%   |
| 無回答                         | 12  | 1.4%   |
| 合計                          | 846 | 100.0% |

問21 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

| 選択肢            | 回答数 | 回答割合  |
|----------------|-----|-------|
| ①図書や情報誌などの充実   | 101 | 11.9% |
| ②市民団体への活動の場の提供 | 303 | 35.8% |
| ③調査・啓発活動への助成支援 | 240 | 28.4% |
| ④講演会やセミナーの開催   | 279 | 33.0% |
| ⑤起業や資格取得講座の開催  | 263 | 31.1% |
| ⑥相談機能の充実       | 364 | 43.0% |
| ⑦女性リーダーの育成     | 306 | 36.2% |
| ⑧わからない         | 144 | 17.0% |
| ⑨その他           | 12  | 1.4%  |
| 無回答            | 26  | 3.1%  |
| 対象数            | 846 | -     |

問22 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

| 選択肢                                | 回答数 | 回答割合  |
|------------------------------------|-----|-------|
| ①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善           | 315 | 37.2% |
| ②政策・方針決定の場への女性の登用促進                | 209 | 24.7% |
| ③学校教育や社会社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実     | 241 | 28.5% |
| ④女性の人材育成の推進                        | 192 | 22.7% |
| ⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実             | 204 | 24.1% |
| ⑥育児や介護に関するサービスの充実                  | 420 | 49.6% |
| ⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実             | 72  | 8.5%  |
| ⑧男女共同参画に関する情報提供の充実                 | 109 | 12.9% |
| ⑨情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備 | 137 | 16.2% |
| ⑩企業に対する就労条件の改善策の啓発                 | 197 | 23.3% |
| ⑪職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底        | 200 | 23.6% |
| ⑫その他                               | 17  | 2.0%  |
| 無回答                                | 31  | 3.7%  |
| 対象数                                | 846 | -     |

問23 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

| 選択肢    | 回答数 | 回答割合   |
|--------|-----|--------|
| 文章回答あり | 188 | 22.2%  |
| 文章回答無し | 658 | 77.8%  |
| 合計     | 846 | 100.0% |



---

## 自由意見

---



### 問23 「男女共同参画」についての自由意見

| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容  |
|----|---------|--------|---|
| 男性 | 20歳～24歳 | 学生     | 男女が共に自由に社会に貢献することのできる権利を得るための男女平等には大いに賛成である。しかし意図的、作意的に女性を多く雇用するなどといった積極的な介入は男性差別にさえうつることがある。さらに一部の分野では、男性及び女性の一方が適任であることも確かであり、こうした性差を認めつつ男性、女性の平等な社会を作っていくべき。   |
| 男性 | 20歳～24歳 | 学生     | 女性が男性と平等になると考えるのではなく、男性が女性と平等になるように考えたらどうですか。   |
| 男性 | 20歳～24歳 | 学生     | 男女間の差別が完全に撤廃される社会の実現、是非頑張って下さい。   |
| 男性 | 25歳～29歳 | 正規雇用者  | 仕組みとして女性が働き続けられる体制整備は必要だと思います。一方で一般の女性がどこまでのことを願っているのかわかりません。実際結婚して子どもを産んだら働きたくないという女性は多いように思います。   |
| 男性 | 25歳～29歳 | 正規雇用者  | 女性が社会に積極的に参加できる環境を作ろうとしていると思うのですが、全ての女性が社会進出を望んでいるわけではないと思う。全く同じ仕事をやる事は不可能だと思う。自分が働いている職場では、女性は子育てなどがあり定時に帰ることが多いです。すごく女性が優遇されています。自分の会社が全てではないですが、やはり「男は外、女は内」という考えが定着していると思います。   |
| 男性 | 25歳～29歳 | 非正規雇用者 | 何故そこまで平等にこだわるのですか？現状においては男性が優位という認識が社会に蔓延しているが、それによって少なからず女性も利益を得ていることはあるのではないのでしょうか？もし仮に女性が優位の社会が存在したとしても、男性が得る利益は何かしらあるはずだ。「平等」という言葉は素晴らしい。それは否定しない。しかし、だからといって、やみくもに理想を追うのはいかなものか。まず、何故私達はこうまでして平等を追い求めるのか、根本的な部分を考えての方が良い。不平等でも適度な幸福が見つかるのならそれでいいのではないか？平等は果たしていかなる利益を生むか、そして不利益も生みはしないか、まずは、そうした広い視点を私達社会全体が身に付けることを最優先すべきではないでしょうか。 |
| 女性 | 25歳～29歳 | 正規雇用者  | まだ民間企業では女性の育休に良い待遇でない所も多いため、社会で柔軟な働き方を考えて欲しいと思う。  |
| 女性 | 25歳～29歳 | 正規雇用者  | 若い世代に講座やセミナーの開催など施策を進めてほしいです。   |
| 女性 | 25歳～29歳 | 家事専業者  | 子育てをしていると、働くのはどうしても難しいと思う。すぐに風邪をひいたり、参観日など、気持ちよく休ませてくれる会社なんて結局そうそうない。逆に男性の学校行事への参加をOKしてくれる会社は増えていると思う。私は参観日に出たいから、休みをもらいたかったら、親バカだと言われ会社をやめました。でも家庭、育児の方が今の私には大切なので、仕事をやめても生活していける程度に主人がお金を稼いでくれることに感謝しています。子育てができる短い時間、私は子どもに全力で向き合いたいので、女性でも働きたいなどとは特に思わなくなりました。子どもには、どんな優しい父親でも、一番はお母さん、それは変わらないと思う。                                   |
| 女性 | 25歳～29歳 | 家事専業者  | 3月に妊娠して今までと同様の勤務内容は変わりませんでした。つわりがひどく欠勤と有給で会社を休み、当たり前ですが会社の自分の業績は営業なのに達成は出来ませんでした。具合悪くても目標は変わりませんでした。勤務時間も朝9時～夜22時までと長く、結婚しても家事が出来ないため、土日だけ旦那の家へ行くという生活でした。お腹が大きくなる前に仕事はやめ、専業主婦になりました。まわりの妊婦さんに聞いても、体に負担をかけながら働いている人ばかりです。少子高齢化で子どもは宝じゃないんでしょうか。環境が厳しいことが目に見えているので、若い人は踏み切れず晩婚化が進み、高齢出産者が増加しているのだと思います。早急な制度の改善を求めます。                      |

| 性別 | 年齢      | 職業            | 記入内容  |
|----|---------|---------------|---|
| 女性 | 25歳～29歳 | 家事専業者         | 必ずしも女性が働くことが平等であるとは思わない。出産・育児（おっぱいが出るから）は女性でないと出来ないので専念した方が良い。男性も女性もそれぞれ向いている事があるので、お互いに理解し協力し合う事が大切。   |
| 男性 | 30歳～34歳 | 自営業（農・林・漁業以外） | 問15の「1」のように、具体的に実行することが必要だと思う。意識だけでは限界があると思う。   |
| 男性 | 30歳～34歳 | 正規雇用者         | 女性を現在の男性のポストに当てはめるというのではなく、女性が性別に関係なく特性や能力を発揮してもらう考え方が大切のように思う。   |
| 男性 | 30歳～34歳 | 正規雇用者         | 女性は、女性にしか優遇・サービスなどがある時には、何にも言わずに、男性が優遇・サービスを受けた時に男女差別と言う女性特有の性格を改善しなければ、何をやっても無駄だと思う社会で生きていけば、女性の方が何かと優遇されている事に気づかず、少し男性が優遇されるとすぐに騒ぎ出す。男女平等にしたいのであれば、女性限定のサービスなどに女性の方から男性にも、「そのサービスできないのですか」などの女性がいらないから、そのサービスが成り立っている。平等にしたければ、そのようなサービスがある事を怒らなければ、絶対に男女平等にはならない。都合の悪い事ばかり男女差別と騒いでも、何の改善にもならないので、サービスをするのであれば、男女関係なく行ったりして、社会から変えなければ絶対無理です。 |
| 男性 | 30歳～34歳 | 正規雇用者         | 官民一体により、進めていくことを望みます。受け身、国の政策を待つ、追従するのではなく、法にのっとり、全国に先立って、長野市独自の政策をして下さい。このくらいの気持ちがないと、何も改善しません！市長！！  |
| 男性 | 30歳～34歳 | 非正規雇用者        | 県内の大学、短大で学んだ女子学生の就活について、未だに大学生ではなく短大生しか採用しないという思考の企業が非常に多い。これは女性の扱いが低く、期待されていない事を意味している。将来の幹部候補として男性と同様に捉える企業が増えるべきで、単に採用数が増えても意味がなく、質的転換が必要だ。  |
| 女性 | 30歳～34歳 | 正規雇用者         | 初めて聞いた言葉で良く分かりませんが、昔の方ほど“女だから～とか、女のくせに～”という考えが強いと思います。だからといってむやみに無理に女性役員など作っても、ただその人にとって負担になるような改革はやめてほしいです。社会に出る分、家庭で負担になる事は必ずしもあるので、家族やまわりの協力は不可欠です。それは制度ではどうにもならないこと。ただ今子育てしていて、仕事していて、休むとなった時、すごい自分自身精神的に申し訳なさいでいっぱいです。障害者を雇った時に会社に手当てが出るように、子どものも事で休むとなった時、何か手当てが会社に出ればな……と思います。そしたら少しは気持ち的に楽です。   |
| 女性 | 30歳～34歳 | 正規雇用者         | 政治の場に女性がもっと多くいれば、今とは全く違う街づくりや、政策の決定がされるようになるのかなと思う一方で、あまり「子育て」「働くママ（母親）」を前面に押し出されると独身女性としては少し引いてしまう部分もあり、「どうせ子育て支援をメインに活動すんでしょ」と思うと、選挙で女性に一票投じたくなくなる事もある。「男女共同＝働く母親支援」にならない事を望みます。  |
| 女性 | 30歳～34歳 | 非正規雇用者        | 長野市の子育て支援サービスをもう少し増やして頂きたいです。子育てに充実したサービスが少ないと女性も働きにくく、どうしても制限がかかってしまう。これからの時代、もっと核家族が増える中、サポートはとても重大で大事な存在になっていくと思います。   |
| 女性 | 30歳～34歳 | 非正規雇用者        | 現在育児中です。子どもを保育園に預けパートで働いていますが、子どもが具合悪くなった時やPTA活動など、全て女性である私が仕事を休んで行っております。それを当然の様に思っている夫はもちろんですが、社会的にまだまだ男性の育児への参加率は低いのではないのでしょうか。パートとは言え責任を持って仕事をしているのは同じなのだから、もっと男性が育児に関わる機会や意識を何とかしてもらいたいです。子どもは女性1人のものではなく夫婦のものなのですから。  |

| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容  |
|----|---------|--------|---|
| 女性 | 30歳～34歳 | 家事専業者  | 若い世代は「男女は平等」という考えを持つ男性が多いが、年配の方はまだまだ男性優位という考えを持っている人が多い。女性が重要なポジションにつくことをよく思わない男性が多いと思う（男性が女性に嫉妬しているというか…）。出産前に勤めていた会社でも女性の役席者が何人かいたけれど、役席になれない男性からイヤミを言われていたりしている姿を何度も見たことがあったので、そういう方々の考えが改まらない限りは男女が平等になるにはほど遠いと思います。  |
| 女性 | 30歳～34歳 | 家事専業者  | 「男女共同参画」の主旨を理解していないので良く分かりませんが、私は男女が何事においても平等であるべきとは思いません。それぞれ特質や出来ることが違うと思います。ただ、仕事や社会の中で平等を求める女性がいる場合はそうされるべきだし、あと評価は男女共に平等であるべきだと思います。今、共働きしなければお金が足りません。少子化だから子どもを産め、親の介護…と女性が実際に負担することが増えてきているように思います。それに対する評価や援助は何よりも優先させるべきだと思います。“負担は減らせ、補助を増やせ”は現実無理だと思います。ならば女性の社会進出も大事ですが、60代以降の元気な高齢者にもっと働いて税金を納めてもらうべきだと思います。その為の企業、社会のあり方も考えてほしいです。 |
| 男性 | 35歳～39歳 | 自由業    | 男性でもやりたいこと（育児等）、女性でもやりたいこと（昇進等）ができる社会になるよう頑張ってください。   |
| 男性 | 35歳～39歳 | 正規雇用者  | 「男女共同参画」言葉が難しいので意味が伝わりにくいと感じた。  |
| 男性 | 35歳～39歳 | 正規雇用者  | 無理に女性の比率を上げるような方針はとるべきではなく、あくまでも実力主義とすべきであると思う。機会均等は必要です。   |
| 男性 | 35歳～39歳 | 非正規雇用者 | 地方都市の中では女性自身の意識（向上心や意欲）が低い様気がします。男性としては家庭を守る責任感を持つ意識は必ず持っていると思いますので、それをどう家族で考えるか、男性女性それぞれ優位な役割（能力）があると思うので、それが家族にとって良い方向であれば、それが一番だと思います。   |
| 男性 | 35歳～39歳 | その他    | 女性の社会進出は必要不可欠なことであるのは事実だが、子育てにおいても「母親の存在」というのも必要不可欠であると自分は思う。なので子育て、特に乳幼児期の子を持つ母親に対して「育休制度の充実」だったり、「仕事復帰後のサポート」をもっと確立化していかなければいけないのではと思う。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 正規雇用者  | 女性が仕事を持ち家庭と両立していくことも大切だと思うが、責任を持って仕事をしてほしい。パートだからと気軽に休むようでは同じ職場で働いている者としては困る時もある。女性の考え方も人によって違うので、「男女共同参画」可能でしょうか？  |
| 女性 | 35歳～39歳 | 正規雇用者  | もう少し、女性にとって働きやすい環境に、どこの職場も平等になっていただきたいと思います。  |
| 女性 | 35歳～39歳 | 正規雇用者  | 全てにおいて男女平等であるべきとは思いません。ただ共働きが普通になってきた今、子どもを持つ親が男女ともに子どもの幸せを1番に選択できる社会になってほしい。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 正規雇用者  | 私は最近結婚しました。主人は平日家のことをまったくしません。私の方が勤務時間が短いというのがあります。私も仕事をしているためかなり大変です。主人を見ると、家のことは女がやるものと思っているようです。言ってケンカになるより、自分でした方が早いのでやってしまいます。これから少しずつ変えていければいいなと思っています。私は仕事・家庭の中で、男・女は関係ないと思います。お互いを思いやり、気づきあいながら生活できるのが理想です。人の根本的な部分も大きいと思います。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 非正規雇用者 | 女性も生き生き楽しく幸せに安心して暮らせる世の中になってほしい。  |

| 性別 | 年齢      | 職業          | 記入内容   |
|----|---------|-------------|--|
| 女性 | 35歳～39歳 | 非正規雇用者      | 問19について。◎数の問題ではないと思っています。男女の性差なく色々な事柄を考えられる方の登用を希望しています。◎議員や地域の役員の顔ぶれを見ると、シニア世代以上の方が目立ちます。年長者・男性上位の考え方をお持ちの方が多くと思いますので、その方々から世代交代しない限り何も変わらない様な気がします…。私の周りの地域のPTAや育成会では父親も母親も協力していますよ。10年後位には男女平等社会になっていることを望みます。  |
| 女性 | 35歳～39歳 | 非正規雇用者      | 会社で上司は“男女は平等であるべき”という意見です。ですが会議などでは女性の意見が通りにくい、というのが実情です。  |
| 女性 | 35歳～39歳 | 非正規雇用者      | 子どもの習い事の送迎が多く、正社員になれません。女性が有給、ボーナス、社保の手当てが受けられるパートと正社員の間くらいの制度があれば良いと思います（「103万、130万の壁」も正直厳しいです）。別居中や離婚がとて多世の中で、1人で仕事と子育ての両立は本当に大変です。別居は目に見えないので、どれくらい実際に存在するか把握して欲しいです。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 非正規雇用者      | アンケートに答えながら色々考えることができました。男女共それぞれ役割や得意分野があると思いますが、互いに尊重しあい、より良い社会になることを希望します。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 非正規雇用者      | 男性・女性ともに社会で活躍するためには、健全な家庭があつてこそだと思います。健全な家庭生活を守りながら社会へ出るための支援、方法が必要。また、健全な家庭で育った子どもは将来の日本を担う人材です。「今」だけでなく、将来を見据えての活動を期待する。女性の立場を気にかける発言は良く聞かすが、逆に男性が劣位になる分野もあると思う。その分野での活動も知りたい。そもそも男女共同参画というネーミングが分かりづらい。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 家事専業者       | 女性が男性化して“共同参画”とするのも何か違うような感じもします。社会的弱者の“男性”というのも存在すると思います。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 家事専業者       | 女性が社会進出できるよう、育児のサポートを手厚くして欲しい（施設面、金銭面ともに）。   |
| 女性 | 35歳～39歳 | 家事専業者       | 男女共同参画は主として女性の社会進出と、男性の家への帰属への方向性を示しているのかもしれませんが、社会学的立場の前にジェンダーとしての性の役割の重要性は、一体どのように考えるべきなのでしょうね。人には様々な生き方を選択する可能性があるのは良いことだと思いますが、一度親になったとき、父親と母親の役割というのは替えようのない生物学的な事実であり、次世代の子を養育するのが親の義務であるのなら、そんな安易に女に社会復帰を急がすのは、ちゃんちゃらおかしい話だなあ、母親が子の養育を縮める社会って、何て生きづらい社会なんだろう、こんな生きづらい社会はそのうち確実に避けようなく破綻が待っているのだろうなあ、次世代の子らは、本当にかわいそうだなあと思うのです。辛くなったら皆生きるのをやめてしまうって生き方も、ひとつの選択扱って事が容認されるってことなんですかねえ。 |
| 男性 | 40歳～44歳 | 自営業（農・林・漁業） | このアンケートからすると、“女性の地位が低すぎる”ということを強調しているように感じて仕方ありません。どちらが上になるかは、時と場合によることもあります。何となく平等という概念が違う気がします。  |
| 男性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者       | 何もかも男女平等とは無理だ。男らしさ、男にしかできない事、男が向いている事、女らしさ、女にしかできない事、女が向いている事を踏まえた上で考えなくては、ただ同じ内容を男性、又は女性に与えたのでは、逆に不平等になってしまうと思う。  |
| 男性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者       | 組織や箱物を作っただけでは何も問題解決はしないと考えます。行政や首長が常に情報発信をし続けて、変えて行かなければなりません。   |

| 性別 | 年齢      | 職業       | 記入内容  |
|----|---------|----------|---|
| 男性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者    | 男女を対等にしたいと思う女性がそれを実現できる社会にする事は大切だと思うが、女性の多くは男性と同等の責任を持ち、仕事等に活躍する事を望んではいない様に感じているので、むやみに役職の女性の割合を増やせば良いというものではないと思う。女性らしさを活かせる社会で男性と女性それぞれの長所を合体できる社会を目指すべきでは？   |
| 男性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者    | 今は教育で男女平等が伝わっていますが…。女性の職場で活躍したい！という気持ちを育て実行に移せるよう支援していくことが必要だと思います。若い世代～年寄世代まで幅広く意識改革が必要だと思います。   |
| 男性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者    | 男性の産休制度等取得しやすい社会の実現。企業への指導や教育をお願いします。   |
| 男性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者    | 男性だけでなく女性の意識改革が必要だと思います。  |
| 男性 | 40歳～44歳 | 非正規雇用者   | 元々性別が違うのですから何でも平等という考えはいかなものかと感じています。違いを認め合ってこそだと思います。「女性だから」とか「男性だから」は良くないですが、違いは認め合わなければなりません。  |
| 女性 | 40歳～44歳 | 会社役員・経営者 | 男女平等と言われてもうかなり長い間、時が経っていますが、実際はとても都合の良い言葉でしかない気がします。事実、子どもがいれば、女性は子育て中心の生活になります。でも、それが悪いわけではなく、もっと社会の仕組みが良くなれば良いと思います。例えば、子育て中の女性への生活保障をすれば、働かなくても安定があり、子どもへも愛情をそそげ、沢山良い事もあるはず。子どもも増えるし、そういった事で、社会の中の割り振りを考え、女性の立場を確立した方が良くと思う。   |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者    | 私女性ですが、ずっと正社員ですが、機会を与えられるかということについては、平等に与えられているとは思いますが。ただ結婚や育児などで、女性自身が「自分にとって一番大事なこと（ものごと）」が「家族」となっている場合に、会社もあてにならない人をトップにしたら、いない間仕事が回らなくなるのも困るし、案外そういう人は途中で仕事を投げ出しても何とも思わない人も多い。そういう人が周りに多い（私の周りに）。そういう人にきちんと仕事が出るのか疑問である。また会社も育児や結婚している女性を雇用する体制や機会は用意されているが、それによって（そういう人が同じグループにいたら）同じグループの人に負担がかかっているのだが、そこについての会社のフォローがないので、本人は優遇されていいかもしれないが、そこにも注目してほしい。残業時間も社員各々が規制されたり、仕事を時間短縮でやることで評価されている中、時短勤務や契約社員のやり残した作業を任せられる周りの人間が、自分の給料や評価にかかわってくることも忘れないでいただきたい。はっきり言って会社が欲しい人間は女でも男でも雇うはず。また男の人が子どもをあやすだけでなく、家事、親戚や近所付き合い、全部やれるなら育児休暇とっても良いのでは。あとは、横浜市ばりに子育て支援をがんばって下さい！ |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者    | よくわからないままアンケートに答えてしまって申し訳ない様な気がします。ただ、別の話になってしまうかもしれませんが、県庁、市役所に勤務しているからと、偉そうな態度の方が多と思う。皆同じ人間では？  |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者    | 男女共に得意分野があるのは昔から変わりないと思います。それを生かした上で女性が社会で活躍するためには、もっと自由な労働条件で働けるような法整備や啓蒙が必要だと思います。労働時間の短縮や、学校行事等にも対応できるような育児休暇、介護休暇を男女共に取れるように、雇用主・経営者側に対して法整備、啓蒙をお願いしたいです。夫婦各々が家庭での時間をもっと持てるようになれば、自然と働きに出る女性は増えると思います。そのためには労働時間を法改正で短くし、最低賃金を引き上げてもらうことが一番近道なのではないかと思っています。  |

| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容   |
|----|---------|--------|--|
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者  | 職場では男女の差が少なくなってきた分、女性にも当然男性と同じような労働を求められるが、家庭においてはまだ女性が担う役割が多いため苦労している女性は多いと思う。男性も女性も特に育児や介護で大変な時は、仕事をセーブしながら続けやすいような社会になるといいです。   |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者  | 職場では男女共同参画の意識が広く浸透しているように思えるが、地域の集まりでは遅れている。男女の役割が固定されていると言うべきか…。会長職は男衆、裏方は女衆とはっきり分けられており、それが楽であることも確かにあるが、はじめから決まっているようではいけない。とりあえず、60代以上の男性の古い考え方が柔らかくなると良いが、男女共同参画ということ学ぶ機会もなく、長い年月固定されたものがすり込まれているのだからどうしようもないのか…とあきらめている。   |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者  | 公官庁は男性も積極的に育休、育児時間を取っているが民間はまだ不十分である。ただ夫婦2人で取るということには賛成できかねます。昔は女性の地位も立場も低く今のように大切にされていない中で、家事や育児などを女性独りで行ってきたことを考えると今の人は甘いように思う。また女性の妊娠、出産に対する対策がしっかり練られていない中で、男性を関わらせることをすれば十分という考え方が納得できない。結婚をしても賃金の面などから子どもを持たない方がいたり、不妊治療をしている方も多いため、そちらの対策を優先して欲しい。男性には男性の、女性には女性の仕事というのは必ずある。すべて平等という考え方をする方もいて難しい問題だが、全ての人がそれなりに生きていける社会を目指していけば、男女バランスが良くなると思う。 |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者  | 子どもを持って働くということに対する社会全般の考え方の甘さを感じる。男性にとっても女性にとっても“働き盛り”と言われる年代であることもあるが、まず社会の基本が家庭であるという意識は低すぎるように思う。勤務時間は決まっていなくても、5時に帰ることが良しとされない労働環境。家族が病気の時でもなかなか休みを取って付き添うことができない。自治会組織など地域社会の場では、男性が出席するのが当然という考え方が根強い。労働環境がまず変わらなければ、子育ても介護も女性一人の手に任せやすくなってしまふ。責任も女性が背負うことになり、孤立することになりかねない。男性も女性も等しく家族の一員であるという、当たり前のことが当たり前と感じられる社会になつてほしい。                      |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者  | 制度が充実しても身近に感じられない部分が多いため、地域社会や企業の体質が変化できていないと思う。教育現場での男女平等意識をより深めることはもちろん、年配の方々の固定観念を変えていく試みが急がれると思う。特に少子化対策を行うと言いつつ、働く女性のバックアップは不十分で、放課後の児童の預かり等も学年（小学生）によって利用不可能な状態が生じている。現状ではとても子育て支援充実とは言えない。又、男性の意識も、自分は“蚊帳の外”的な意識が根強くあると実感する。  |
| 女性 | 40歳～44歳 | 正規雇用者  | この調査をどのようにまとめ、結果をどのように活かすのか、教えてください。   |
| 女性 | 40歳～44歳 | 非正規雇用者 | 男性と女性が対等な立場で自由にコミュニケーションを交わし、お互いの個性と長所を認め合う関係を社会の中で育んでゆくことが、男女共同参画の第一歩ではないだろうか。  |
| 女性 | 40歳～44歳 | 非正規雇用者 | 男女平等といっても全てに渡り平等になればいいとは思いません。男性が向いている事、女性が向いている事があると思っています。それをお互い補いながら家庭、仕事、地域の役割を担っていけたら、それが理想だと思います。  |
| 女性 | 40歳～44歳 | 非正規雇用者 | 男性も女性も特性を生かして良かった部分は、今までも沢山あったと思います。良い部分は残し、悪い部分は話し合い、お互い柔軟な考えも持ち協力し合える社会が良いと思います。   |



| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容   |
|----|---------|--------|--|
| 女性 | 40歳～44歳 | 非正規雇用者 | 「男女共同参画」を初めて知りました。男女共に平等はとても女性にとってはありがたい事です。家でも稼ぎ手は主人、私はパート（4時間）なので、「働いているのは一緒じゃん！！」と言っても「時間が違う。」「内容量が違う。」と争いにもなります。が、以前と比べ家の事をとても良くやってくれる様になり、穏やかになってきていると思います。昔と今と、男性、女性との意識や考えの違いは大きいと思いますが、お互いが大変なんだと思いやり、でも母になると女性の方が大変！！なので、もう少し女性が活躍出来て男性側の理解を得られれば良いなあ～と思います。応援します。ぜひ良い未来を…。   |
| 女性 | 40歳～44歳 | 非正規雇用者 | 小中学生の時から学校でも家庭の仕事をするようにもっと授業や総合の時間にも働きかける。調理実習などをもっと増やす、地域のおばさんから郷土料理を教えてもらう…など。また保護者にも、子どもが家で仕事を一緒にする大切さを伝え、父母が共に家事をやるようにする（具体的なプランを作る）。公民館でも男の料理教室やその他家事に関するセミナーをして、地域の人が気軽に気長に人と関わりながら家事をする。女性にも社会で活躍する重要性を説いて、職場にはポジティブアクションを導入し、それを守らせるよう条例にする。また男性の介護、育児休暇を積極的に取れるように仕組みを作り、会社がそれに反するときには公的機関からも指導を行い、ブラック企業リストを公開して下さい。内部告発を受け入れる行政の仕組みを作りましょう。 |
| 女性 | 40歳～44歳 | 非正規雇用者 | 仕事でよく、「女のくせに」と言う言葉を言われました。主婦がそんなことをする必要がないと、好きなことを出来ないママ友もいます。そんな世の中に根付いているものは、なかなかおせないのでしょうか？   |
| 女性 | 40歳～44歳 | 家事専業者  | 1人息子が3才になった時、1年間職場復帰しました。熱を出して3日間職場を休んだ次の日、女性管理職に「迷惑だ」と言われ、退職を決意しました。息子は未だに（小学1年生）家の中で母の姿が見えなくなるのを不安がります。父親や祖父母がいても母を求めるのです。これは3才で1年間親視してしまった「トラウマ」だったかと反省しています。子どもにとって母親は特別な存在です。子どもの手が完全に離れるまで育児休暇を心置きなくとれる会社が私の理想です。子どもを預ける施設をどんなに増やしても、母の愛を求める心の不安定な子どもたちを増加させるだけだと思います（ちなみに前職は教員でした）。   |
| 女性 | 40歳～44歳 | 家事専業者  | 日本人の根強い考え方の中には、女性＝家庭、男性＝仕事というのはベースにある。子どもを産むのは女性なので仕方がないと思うが、家事及び育児が世の中のどんな仕事よりも大変で無給だという事を男性が分かっているのではないのかもしれない原因。24時間営業のコンビニを無収入で一人でやっているようなもの。一つ一つの事は簡単な事かもしれないけれど、全てを一人でやり、子どもの2時間おきの夜泣きに付き合い。男性に「誰が金を稼いでいるんだ！」などと言われたら、子どもを産まずに働いていた方がよっぽどまし！と思われても仕方ない。そもそもいろんな決め事、条例や政治もそうだけど、男性が考えたサービスなど、子育て中に女性からしたらあんまり行き届いていなかったりする事が多い。                   |
| 男性 | 45歳～49歳 | 自由業    | 男女の社会進出や役職の登用については、各個人の能力によって判断されるべきであって、例えば一定の割合を女性に割り当てるようなことをすると、逆にそれこそが男女差別に該当してしまうように思われます。男性女性にはそれぞれの長所があります。その長所の部分を生かすべきであって、何でもかんでも男女を同等に捉えていくことは、大きな間違いだと思います。男性から見ると女性はとても魅力的です。おそらく女性から見ても男性はとても魅力的に思えるでしょう。その魅力の部分を生かすべきであって、男性を女性化し、女性を男性化することは大きな間違いだと思います。   |
| 男性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | 女性差別や蔑視はいけない。しかし、何でも男女が同じ事をさせるのが正しいとか平等だとは思わない。男女がお互いにそれぞれにしかできない事を尊重しあって、お互いに助け合っていく事が重要だと思う。   |

| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容   |
|----|---------|--------|--|
| 男性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | (困り事など)相談できる窓口や(市の)部署などをさらにPRすればいいと思う。また土・日でも開いていればいいと思う。  |
| 男性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | 誰もが理解し納得出来る仕組み、組織で、他人の為に個の利益を考えずに活動出来るのであれば、どの様な形でも良いのではないかと思います。それと同時にムダを減らす事も考えた方が良いのではないのでしょうか？そちらの方が重要と考えます。   |
| 男性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | 市民にもっと認知、理解できる活動を期待致します。   |
| 男性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | 強制力がある法律の整備が必要。ただし企業も利益をあげる必要があるのでは、減税もセットである必要があると考えます。   |
| 女性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | 家庭により育児と仕事等の両立が難しい方(旦那様の協力、シングルマザーなど)の理由により、仕事をやりたくても出来ない方々がまだまだ沢山いると思います。そのような方々のいない世の中になって頂けたらと思います。例)仕事をしたいが、子どもを預けられる施設が無い為に仕事が出来ない等。  |
| 女性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | 法律、制度という形からよりも、本来は男女の意識の変化が必要なのだと思います。が、それが難しいのであれば、形より入る方法もあるのではないかと考えます。   |
| 女性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | アンケートはしました。で、終わるのではないですか。実行はしています。行いますか？   |
| 女性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | この言葉が多くの人々が知るよう、世の中を変えていく必要があります。  |
| 女性 | 45歳～49歳 | 正規雇用者  | 私は現在に、某金融機関に中途入社して働いています。大学を卒業する頃、「女性は結婚をもって退職するところ」と聞いていたので、就職先として全く眼中にありませんでしたが、諸事情により現在に至ります。入社してみると、評判通り、男尊女卑。廊下を直進していても、脇から出て来る男性は、廊下を歩いている女性の足を止め、当たり前のようにつきついて行きます。分からない事があり、男性に聞いても、「〇〇さんは、そういう事知らなくていいから」と教えてもらえないことなど、しょっちゅうです。男性は病気などで成績が振るわなくなっても、下の職階に移されることはないですが、女性は打診され、そうせざるを得なくなります。女性にも主査などのポジションを、という動きもありますが、賃金に伴っていません。また、セクハラ対策もイマイチで、ホットラインの担当者は男。うわさ好きのパートさん達が広めていく。セクハラで訴えられた男性への責めが甘い。部長の中にも、男親がいない、会社を辞めたら生計を立てられなくなるから、所管部署に訴える事などしないだろうという女性を選んで、離婚する気もないのに、手を出し、都合のいい女にしようとする男性も、のさばっています。企業の経営者に、啓蒙活動をしていただくことを、切に願います。なかなか書く時間がとれず、なぐり書きですみません！ |
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者 | 初めて聞いた言葉でした。自分の子ども世代の実現に期待します。   |
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者 | 互いに尊重する姿勢がなければどんな理想を持ってても実現は難しい。教育をし、相談できる場所、支援体制を整えていくこと。これからも進めていってほしいと思います。   |
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者 | 子育てをしながら仕事に出っていますが、臨時職員という立場の主婦の方々が沢山います。皆さん一生懸命子育てと仕事をしています。男性はほとんどの方が正職員ですが、週休2日の休みがあったり、ボーナスがあったりするのにも、臨時の女性達より忙しく働いている姿があまり見られないのが、とても納得がいけない事が多々あります。平日も子どもの学校の用事などで休みを取らなくてはならない時も申請しづらい事もあります。家庭でも職場でも男性は女性に頼り過ぎだと思う。   |
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者 | 今はパート先と家庭の仕事などで忙しく、自治会や学校のPTA活動はできればやりたくない。今回のアンケートの内容、どうでもいいかなと思ってしまう。考えた事もなかった。介護施設、もう少し安い料金で利用できる様にしてほしい。   |

| 性別 | 年齢      | 職業            | 記入内容  |
|----|---------|---------------|---|
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者        | 固定観念を持たず、まずは家庭、地域でお互いに（男女間で）できる事から始めていくのがいいのかなと思いました。   |
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者        | 「男女共同参画」…はじめて知りました…。  |
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者        | 高齢化、人口減少の中で女性の労働力がこれから必要とされるとしたら、男女平等や男女共同という制度のもとで無理な負荷が女性にかかってくるのではないかと心配な部分があります。職場でも女性に対して男性と平等な仕事が回ってくるようになってきてますが、男女平等を都合の良いように（会社の）使用してるように、最近は多く感じられるようになってきています。平等や共同だから…と、職場や地域で無理に押し付けられるような社会にならないように、配慮も今後充分考えていかなければならないのではないのでしょうか。                            |
| 女性 | 45歳～49歳 | 非正規雇用者        | 自分が現在の生活の中で、女性だからという理由で生活しづらいことはありません。社会で活動したい人が男性でも女性でもそれが負担になるような環境があるのなら改善が必要だと思う。   |
| 男性 | 50歳～54歳 | 会社役員・経営者      | 誰かが女性が男性がと言う事で平等感が無いように感じますが、家の中にあつては家、夫婦の考え方が主で良いと思います。別に子育てを男がやっても良いしバランスなのでしょう。私は別としても、今の若い人達は、子どものオムツも当たり前に変えますし、共に子どもの事を考えています。今の50代、60代の古い考え方の人間が色々する事はかえって良く無い。若い人達の中では男も女も関係なく良い方向に向かっていると思います。この色々な女性に関する…センター等見ていると、なんで女性だけ、みたいに若い人は思うのではないですか？皆さんが差別の場を作っている気がします。 |
| 男性 | 50歳～54歳 | 会社役員・経営者      | 男女間のバランスを保つのは難しいと思う。  |
| 男性 | 50歳～54歳 | 正規雇用者         | 日本のやり方は何でも「女性が」「女性が」「女性の比率が」などイメージや数値で表そうとしているが、そうではなく実際の状態が「女性が参加している」とする必要があるわけで、その為の行動が見えない。このアンケートの間19～問22なんかはまさにそう。本来変革すべきところへのアプローチは無く、「こんなことやるとけばいいんじゃない？」的。やるべき事は特定の女性（リーダー）に対してではなく、全女性ならやる行動は別にあると思う。本当に「男女共同参画」とかを考えるなら数値とかリーダーではなく、全ての女性と男性に響く行動をしてほしい。           |
| 男性 | 50歳～54歳 | 正規雇用者         | 質問項目が多く内容が難しく感じます。もっと簡単な質問でお願いします。  |
| 男性 | 50歳～54歳 | 正規雇用者         | 原因は長時間労働勤務などの労働環境である。労働の負担が大きいと体力的に劣る女性は仕事を続けられなくなる。結果として仕事は男性、家庭は女性になってしまう。家庭での負担は一昔前に比べ、衣食住の社会環境が整い軽減されパート勤務などはできるが、収入のサポートをする立場では家庭での発言権は弱くなってしまふ。「被扶養者」扱いである。また社会で仕事をしているのが男性が多数であれば、男性の社会における発言権が強くなるのは当然である。北欧など男女平等となっている社会では、労働環境が人間的で男女同じように仕事をしていることから明らかである。       |
| 女性 | 50歳～54歳 | 自営業（農・林・漁業以外） | 女性の責任感とか、仕事に対する情熱が育つよう、子どものときからの教育が重要。「だから女はダメなんだ。」的な古い考えを持つ世代の人々がその考えを伝承しないこと。女性が出産することは絶対に女性でないとできないことであるから、出産時前後のサポートをもっと充実させる。  |
| 女性 | 50歳～54歳 | 正規雇用者         | 男女共同参画は、私が思っていたより全然進んでいないと思います。できれば国会議員、県会、市会議員の数を一度50%女性にしてみたら日本人の意識は変わるかもしれません。市長選に30～50代の女性が出なかった事は本当に残念で、市議の女の人は是非出ていただきたいかったです。  |
| 女性 | 50歳～54歳 | 正規雇用者         | 男女各々良いところを伸ばす様な働きかけが必要と思う。女は子どもを産み、育てるという母性を生かし、組織に参画していけば良いのではないのでしょうか。  |

| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容   |
|----|---------|--------|--|
| 女性 | 50歳～54歳 | 非正規雇用者 | この調査自体、男性中心社会を前提とした発問があるので不自然に感じた。安倍内閣もそうだが、女性議員の数がどうだというよりも政治家として立派な見識を持った人なら、男女問わず登用すべきである。その結果男性が多ければ、それは致し方のないことであるし、仮に全員女性であったとしても私はいいと思う。  |
| 女性 | 50歳～54歳 | 非正規雇用者 | 海外では育児休暇を取って戻ってきても昇進ができたり、仕事を早く終えて子どもを迎えに行くことができるような制度があったり、女性が安心して子育てや仕事ができる社会の仕組みがあるようだが、今の日本の社会では制度があっても、現実には休暇を取りにくかったり、企業は男性の育て方と女性の育て方が違っていると思うし、結婚や出産で退職する女性がほとんどであると思う。法律、制度だけではなく、企業も社会も改善しようとする意識を持ち、努力していく必要があると思う。それが少子化対策にも繋がるのではないかと思う。  |
| 女性 | 50歳～54歳 | 非正規雇用者 | 男女共同参画社会を目指し男女が平等になることは大変素晴らしいことですが、現実には難しいところがありますね。時は流れても現実はそのままだっていません。意識を変えることが難しいのだと思います。けれど少しずつでも世の中が変わって男女平等になっていけば、今よりずっと明るい未来になると思います。  |
| 女性 | 50歳～54歳 | 非正規雇用者 | 「男女共同参画」とか「男女平等」などと言葉で言うといかにも女性が差別されたり機会を奪われているように感じられるが、実際は共同参画していない部分で女性が恩恵をこうむることも多いと思う。例えばPTA会長、自治会役員などを決める時、役のつかないことは仕方なく引き受けるが、役がつくことになってしまった時はだいたい「お父さんにやらせてもらおう」ということになるのが実状です。また企業においても同じで、企業側は役所からの様々な通達や法律で男女機会均等に努力しています。しかし女性の中で役職につくにふさわしい人物は少ないし、手を挙げる人の数も少ない。そういう事情があるのに、ただ数字上だけで「まだこんなに女性の管理職が少ない」などというのはナンセンス。私は女性ですが、女性の管理職適性はそれほど高くない、むしろ低いと感じます。視野が狭く、責任感が土壇場で発揮されず、大局的見地から物を考えられないのが悲しい哉、女性です。政治家についても同じ理由から女性には期待していません。立派な人は性別に関係なく立派です。「家庭的な目線で」「台所から政治を」などと言うキャッチフレーズの候補者は絶対に投票したくない。以上、長々と書きましたが、男女共同参画は今ままで良いと思います。推進する必要はない。…というか、役所で何かできることなど一つもないと思う。その理由はこのアンケートの例えば問22、21、選択肢の中に一つも「これだ！」と思えるものがありません。また担当者も2～3年で変わるのでしょうから、継続した施策となるとも思えないからです。あとお願いですから、こういうアンケートを実施したからには、単に意見の集約、数字の計算、データ作成だけで終わらず、役に立つことをやって下さい。期待していませんけど。 |
| 女性 | 50歳～54歳 | 非正規雇用者 | 長年にわたって言われてきたと思いますが、何年かかたら前進するのでしょうか。男性の目線を変えて行く事も大切、女性の努力も大切。社会が動いていない。   |
| 女性 | 50歳～54歳 | その他    | 誰もが性差を全く感じなくなれば男女共同参画社会達成されるかと思います。職場と家庭…、私はやはり女性は家庭を守って欲しいのです。  |
| 男性 | 55歳～59歳 | 自由業    | 男女を分けて考える事が良くないと思います。ただ、政治が男性中心な事が残念です。数を問題とする事（ただ女性を増やすとか）も違うと思います。消費税増税で生活不安になり、議員数削減もどうなったのか（ほったらかし）。政治に対する不満があまりにも多すぎます。   |
| 男性 | 55歳～59歳 | 正規雇用者  | 政、官、財トップの方からどんどん変えていかないと絵に描いた餅のままだと思う。   |
| 男性 | 55歳～59歳 | 正規雇用者  | 育休を1子に対して3年は与えられるよう法律改正する。   |

| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容  |
|----|---------|--------|---|
| 男性 | 55歳～59歳 | 非正規雇用者 | 男女が平等で、良きパートナーで生活していける社会になってほしい。  |
| 男性 | 55歳～59歳 | 非正規雇用者 | ここに調査したことを十分に生かし、もっと社会が良くなるよう努力してほしい。時間から時間内に仕事を終わることなく24時間いつでも対応できるようにしてほしい。給料泥棒といわれないよう仕事をしてほしい。  |
| 男性 | 55歳～59歳 | 非正規雇用者 | 各問が難しくよく理解できない。もう少し分かりやすくしてほしいと思います。  |
| 男性 | 55歳～59歳 | 無職     | 弱者を助けて下さい！お願いします。   |
| 男性 | 55歳～59歳 | 無職     | 日本の家制度が根本だと思います。男は一日中仕事、女は家事、この考えがすり込まれているのでは。女性は自立（経済的）が一番だと思います。世代交代するのを待つのが早いかもしれません。女性はキャリアを積み重ねるのが良いと思います。   |
| 女性 | 55歳～59歳 | 自由業    | 地域活動の場では、特に60代以上の男性は、まだ女性を差別する風潮は根強く残っている（特に山間地域）。地区行政にも女性の意見が反映しにくい。まだまだ女性参画、男女平等は日本は遅れていて、先進国といわれながら恥ずべき状況です。「女は引っ込んでいろ」という言葉がまだまだまかり通っている社会は嘆かわしい事だと思います。職場でも女性が女性を差別するようなパワハラなどがあり、もっと意識の改革が必要です。   |
| 女性 | 55歳～59歳 | 自由業    | 意識改革には長い時間がかかるものと思われます。効率的には社会の形態、制度等、形から変えて、意識の改革につなげていって頂ければと思います。  |
| 女性 | 55歳～59歳 | 正規雇用者  | 出産、育児は女性にとって重要な仕事ですが、職場は一旦離れてしまうと復帰は大変難しいものです。核家族が当たり前になり、仕事を持つ為には保育園に頼るしかありませんが、必ず入園できる保証がなく就業の妨げになってしまい苦勞する話をよく聞きます。環境が整っていれば、企業も安心して子育て世代を雇用出来ると思っています。  |
| 女性 | 55歳～59歳 | 正規雇用者  | 一言で男女共同参画といっても、やはり女性と男性では全てが平等という事はありません。育児はともかくとして妊娠、出産、授乳は女性にしか出来ません。仕事の為にこれらを犠牲にして男性と同じ立場で働き男女平等の評価を得ても、少子化に繋がるだけで何のメリットもありません。人々はより豊かな社会、生活を求め、世の中も男女平等とうたい続け現代の社会になりましたが、果たしてこれで良いのでしょうか。女性の社会参加を求めるだけでなく、社会で働く夫を支え、女性が妻として母として心も豊かな日々を送れる事こそ大切だと思います。 |
| 女性 | 55歳～59歳 | 正規雇用者  | 一から十まで同じ事をするのが共同参画や平等ということではないと思います。やはり性別によって得意不得意や向き不向きということも…。お互いの個性や価値観が尊重されることで共同参画できるのが良いと思います。世代によっても革新的な考え方ができなかつたり、保守的な考えに抵抗のある方も多いでしょう。いろいろな考え方の中で認め合えることができれば…と思います。  |
| 女性 | 55歳～59歳 | 非正規雇用者 | 「男女共同参画」という言葉だけが一人歩きすることなく、市民一人一人が共に生きるという意識が持てる日が一日も早く来ますように。若いお父さんお母さんが5時に家に帰れる日を増やしてあげたい。子育て中の家庭に思いやりの目を注いであげてほしい。   |
| 女性 | 55歳～59歳 | 非正規雇用者 | 働いている女性の為にも育児、福祉に関するサービスを充実してほしいです。   |
| 女性 | 55歳～59歳 | 非正規雇用者 | ～希望すること～ 子育てをしている間は、男女共に働き方を選択できて、なおかつ正規職員としての権利は守れるような社会になって欲しい（労働時間によって給料が変動でき、フルに働けるようになったら元の給料に戻ることでできる、退職することなく、子育て中の女性が安定して働ける時代を望みます）。私も介護・子育て中に退職せざるを得なく、フルに働けるようになって働きましたが、正規の職員とは同等に扱ってもらえなかった。このような世の中では若い方が結婚をためらってしまうのもよくわかります。                |

| 性別 | 年齢      | 職業          | 記入内容   |
|----|---------|-------------|--|
| 女性 | 55歳～59歳 | 家事専業者       | 同世代の女性の中に、男性優先の考えの人が多く事を悲しく思います。大人はなかなか考えを変えてくれません。学校教育の中で工夫をしながら男女平等、暴力の否定、対話の力など、子ども達の命の中に植え付けていく事が大事かと思えます。   |
| 女性 | 55歳～59歳 | 家事専業者       | 他県より移り住んだ者の感想ですが、現在の生活の中で“男女共同参画”の言葉を耳にしません。長寿県の長野では農業の存在が大きく、昔から男性女性、家族の協力があって成り立ってきたものを感じます。家族・地域等の形態を全て肯定するわけではありませんが、狭い意味での共同参画は成されているように感じます。的外れかもしれませんが、日常の中で感じたことを書かせていただきました。                            |
| 女性 | 55歳～59歳 | 家事専業者       | 40年位前に比べると、職場でも男性の意識が変わってきていると思います。個々が想像力を豊かになり、自分の言動の相手にもたらす結果や、自分自身への後悔の念を考えられればうまく回るのではないかと思います。  |
| 女性 | 55歳～59歳 | 家事専業者       | 言葉は良く聞いていたが具体的な事までよく知りませんでした。これからは市報等をよく読んで勉強したいですが、「喜びと責任を共に分かちあい、生き生きと自分らしく生きられる」と言われても、介護は主体が嫁1人というのが実態だし、自分の人生はその時点であきらめなければならない現実があります。私には遠い言葉です。   |
| 女性 | 55歳～59歳 | 無回答         | ○能力のある方が男だから、女だから…を考えずに、仕事、社会、地域活動に参加できる環境、社会になれば良いと思います。 ○家庭を守る事、子育てをする事も大切な事と評価してほしい。 ○女性でなければならない、子を産み、育てる事（授乳）が安心してでき、職場復帰、仕事ができる環境が必要（家事・育児・介護の協力者、仕事時間、託児所等）。  |
| 男性 | 60歳～64歳 | 自営業（農・林・漁業） | 行政において様々な取組を行っている事は承知しています。具体的に目に見えるものがない現実であると思いますので推進の施策、周知をお願いしたいです。  |
| 男性 | 60歳～64歳 | 会社役員・経営者    | まだまだ男女の役割分担的な考えに変わらない（自分の世代では）。最近の若い人は新しい教育を受け改善傾向が著しい。とても良い事と思います。  |
| 男性 | 60歳～64歳 | 正規雇用者       | 地域の学校（PTA）役員等への参画と意見集約する。  |
| 男性 | 60歳～64歳 | 正規雇用者       | 女性は家事、育児、介護に負担がかかり、職業や地域の役などはしにくい。産休、育休、介護休暇などの制度を充実させ、女性が働きやすい環境にしないといけない。男性も家事、育児、介護に参加できるよう、仕事の負担を減らすような社会になれば良いと思う。  |
| 男性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者      | ほとんどの家庭の主婦は今の生活に満足しているのではないのでしょうか。男女共同参画社会は、今幸せな人をもっと幸せにしてくれるのですか。得意であるとか苦手であるとか個人差を認めないような社会は、むしろ不幸な社会であるような気がします。男女共同参画ではなかったのですが、私の回りの奥さん方は幸福を満喫しています。これ以上の幸せに出来ないくらいにです。平等とは、場面場面でこぼこがあるくらいのゆとりがあっても良いと思います。 |
| 男性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者      | 長野市に貴課が存在している事を認識しておりませんでした。行政の任務としては新しい部署なのか、知名度は高い方ではないと思います。企業の中でも認識している経営者は少ないと思います。世間で男女平等は当たり前になってきましたが、社会を形成する慣習などにも当たり前になる様なれば良いと思います。   |
| 男性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者      | 男と女は気質的に差が存在していて難しい問題もある。役割を考え対処する必要がある。   |

| 性別 | 年齢      | 職業     | 記入内容   |
|----|---------|--------|--|
| 女性 | 60歳～64歳 | 正規雇用者  | 社会の一員として成人すると、仕事と家庭の両立では誰もが悩む時があると思います。女性として生を受けたので子どもを授かりたいという母性をどう育てどう支援していくかは、社会全体で考えていかなくてはならないと思います。格差社会の中では高い能力が期待されてしまうため、男女を問わずストレスの大きい今を生きている様に思います。男女が気楽に遊ぶ時はあっても、家庭生活の中では会社の一員としてしてなくてはならないことをする時間が持てなくなると分かっているのに、結婚にも踏み切れない様にも思えます。男女が平等になり、給料の面でも恵まれて来た事で、女性も結婚しなくても気の合った人達と楽しい時を過ごせるようになった事で、女性も役職に安心してつける様になったと思う反面、本当にこれで良いのかと疑問に感じる事もある。人と人が思いやりの心を大切にしながら義務と責任を果たし、少しずつ忍耐の心を育て日本人として人間としての誇りを持って正しく生きていくことで、男女の違いと人間としては差別がないことより深く理解して共同参画社会が成る様な甘い考えを持っています。より良い社会になるよう期待しています。 |
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者 | 今女性の仕事への復帰が望まれています、子どもが幼い時は母親がしっかり子育てをする事が大切だと思います。その間は父親の稼ぎで生活できる事が望ましいと思います。なぜなら、保育園に預ける→将来は父・母を介護施設に預ける。結局、働くのにジャマなものは自分から切り離すことになると思います。幼い頃保育園に預けられた人は、大きくなると親を介護施設に入れるのではないですか？そして十分に手をかけられなくて育った子は、思春期に入りいろいろな問題が出てくるのではないですか？親が仕事で忙しければ、結局心は留守になりがちで、よほどのスーパーウーマンでない限り子どもに充分にかかわる事は出来ないと思います。「男女共同参画」に反対する訳ではありませんが、子育ての時期だけは父か母がしっかり自分の子どもを育てる事が出来る事が大事だと思います。一時の事で大きくなって社会に出て働くことの出来ない若い人達を作らない為にも必要な事だと思います。   |
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者 | 私は以前、女性の声をもっと生かせる社会をとの意向で組織された「女性議員を増やす会」に10年間近く所属していました。その当時から少しずつ女性の知事が増えたりしてきてはいますが、報道でも言われていますが、世界国家の中でも女性議院の数は少ないと思います。男性と女性で構成されている社会は、それぞれの見方で見えていく事が大切だと思います。男性だけの視点でものを見ていっても欠けるものがあると思います。それぞれの視点での考え方を出し、より良い社会を作り上げる事が出来ればと思います。女性は学生の間は「男女平等」の意識を持てますが、実社会ではなかなかその認識が持てないと思います。私は今福祉の社会で働いていますが、福祉の社会は人手不足のためか男女差はないように思えます。人は男性女性を選んで生まれてくる事は出来ません。それぞれの性を生き生きと生きていくために、男女が協力して考え行動していけたらと思います。就職が難しい昨今、「女性」である事が理由で就職や仕事を続ける事が出来ないなどという社会でなく、「女性」が認められる社会であるように願います。                  |
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者 | 課主催による講演会に参加させていただいています。毎回、個性的な講師による講演内容を聞きながら、自分の考えや思いを確認することが出来る機会になっています。今後も更に充実した講演会など期待しています。   |

| 性別 | 年齢      | 職業       | 記入内容   |
|----|---------|----------|--|
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者   | 男女が社会の対等な構成員となる事には賛同できますが、まず社会が成り立っていくために、少子化が一番の問題なのではないでしょうか。若い方達が子どもを持ち、また子どもにきちんとした教育を受けさせる、男性は男性としての役割、女性は女性としての役割があると思います。社会で対等とはどういうことなのか。その事から明確にしていく必要があるかと思えます。私も40年近く外で働いてきましたが組織の中では女性は不利です。でも女性がしなければならぬ役割もたくさんあると思います。対等の考え方が難しいのではないのでしょうか。   |
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者   | アンケート内容を見て「男女共同参画」の意味が分かりました。DV、ジェンダーという暗く重い問題を含んでいるとは知りませんでした。昔からの男性優位は経済的な問題から切り離されることはなかったと思います。女性も職業を持ち自立することでたくましく生きてほしい、男女が尊重し合う社会にと願っています。  |
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者   | 仕事に関してはまだまだ男性の意識が低いです。意識の啓発により、少しずつでも変化していくと思います。  |
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者   | 「お前達の事は守る、だから黙って俺について来い。すべてお前達のためなんだから。」そんな思想を刷り込まれて生きてきた世代です。男女同権と教わりながら意識は違っていたと思います。だからこそ今すぐく分かります。こうした思想ではこれからは生きていけないんだと。そう考えている私達の世代はたくさんいます。そうした声をどんどん聞いて真の意味の同権の意識を広めて欲しいのです。意識が変わればどんな小さな事からでも少しずつ確実に変えていける、そう思っています。地に着いた活動を望みます。先日ある会議に出席しましたが、担当の市の職員さんはすべて男性。障害者や介護者に関する会議でした。女性の多くがこうした事に関わっているのに、話し合いの場に女性の担当者がいない。制度さえ変えれば女性の立場が変わるとは思いませんが、せめて市の担当の方々には（この方々とは限りませんが）女性も必ず加えるという方向で少しずつ実質的に変えていって欲しいです。 |
| 女性 | 60歳～64歳 | 非正規雇用者   | 生まれ変わっても”女”でいいと思う私。男は男、女は女の分があると思っています。体が違う様に男と女はある程度違っていいのではないのでしょうか、と私は思います。   |
| 女性 | 60歳～64歳 | 家事専業者    | 男女平等は、年配の方の考えがなかなか変わらない為に進まない。若い人は学校で、年配者は地域で学習していったらいいと思います。  |
| 女性 | 60歳～64歳 | 無職       | そもそもこの考え方は賛成していない。男と女は太陽と月のような役割の違う性を持っている。弱々しい男をつくり、強い女をつくっている。結婚できない、結婚しなくても良い社会をつくっている。中性化した社会で生きるの是不幸だと思う。私は結婚と同時に夫に会社を辞められ、私が働かざるを得なかった。それから二人子どもを育てながら40年間働きました。子育てに仕事を休んだのは4～5ヶ月で、夫には金を持たせて離婚、家を出てもらいました。理想に反した生き方でした。30才でした。それから仕事をしながら子どもの事を考え、子どもを見ながら仕事の事を考え、両方とも中途半端。残念なのはやはり子育てが充分に出来なかった。男尊女卑は改善されたが、私達はどこに向かっているのでしょうか。   |
| 女性 | 60歳～64歳 | その他      | 高齢者が増えて少子化が進んでいく現状を食い止めなければならぬと思います。女性が働きながら子どもを育てられるようなシステム（保育園等）がもっと身近にあれば心強いです。しかし女性が安心して働ける場所があればの事ですので、元気な長野市にする立場の方の努力も重大です。「男女共同参画」はそれに伴うのではないかと考えます。   |
| 男性 | 65歳～69歳 | 会社役員・経営者 | 形ばかりアリバイ的施策から脱却し、実態を正確に把握した上での実効性ある施策、環境づくりを望みます。  |
| 男性 | 65歳～69歳 | 自由業      | 男女共同参画を口実に、女性を男性と区別せず働かせすぎないようにしてほしい。  |
| 男性 | 65歳～69歳 | 正規雇用者    | 考え方そのもの。   |



| 性別 | 年齢      | 職業            | 記入内容  |
|----|---------|---------------|---|
| 男性 | 65歳～69歳 | 非正規雇用者        | 社員数の男女比を考えると、単純に比率だけで女性役員を決めることは無理がある。また夜勤のある会社に本当に女性も出来るのか？毎日のことになると女性にはちょっと無理がある（看護師のような例外はあるが…）。スウェーデンのようになれば良いが税金があがるので国民が納得するかどうか？   |
| 男性 | 65歳～69歳 | 非正規雇用者        | 理想論を言えばキリが無いが、現実には色々な面でかなりハードルが高く、実現は厳しい。   |
| 男性 | 65歳～69歳 | 非正規雇用者        | ・現状で極度な差があるとは認識していない。・一般的には取り立てて是正に向けた働きは必要ないと考えている。・職場での任用面においても「女性だから…」は必要なく、能力主義で任用すべきと考える。・女性を家事、育児、介護etcから開放させる行政サービス（低廉）が身近にあれば良いのではないのでしょうか。   |
| 男性 | 65歳～69歳 | 非正規雇用者        | 困ったとき相談する人や場所があること、知っていることが大切だと感じている。本庁、支所へ気軽に市民が訪れられる態勢、体制が一層充実することを願う。月1回市内のどこかでセンターや同参画推進課スタッフの取組みが見られるPR、催事、学習会のますますの進展を。ご活躍、期待。  |
| 男性 | 65歳～69歳 | 無職            | 地域活動の責任ある立場に参加する女性が少ないと思う。PTAでは女性が多いが会長は少ない。自治会などの役職にも女性を多く選出すべきだ。  |
| 男性 | 65歳～69歳 | 無職            | この意味を深く浸透していく為の努力が、大変な努力と必要性を個々に自覚することが一番であるが、大変時間を必要とするのではないかと思う。  |
| 男性 | 65歳～69歳 | 無職            | 女性は妊娠、出産という大きな役割がある。これは他の人に変わってもらうことの出来ないものである。これを前提とすると、基本的に「男女共同参画」というのは無理がある。問1について「男女は平等になっていると思いますか」のような質問の方法は良くないと思う。もっと他の大きな問題があると思う。「子育て」「育児」の方が大きな問題だと思う。現在、親と子どもが接している時間は何時間あると思いますか？ほとんど会話が無い状況です。これで親が求めるような子どもに育つと思いますか？又インターネットや、スマホのライン、このようなものをなくしないと子どもは良くなれないと思う。 |
| 男性 | 65歳～69歳 | 無職            | 1. 日本国の将来は現役人から現役人へと引き継がれることの重要性を周知して頂きたい。 2. カナダ、北ヨーロッパの他国の「男女共同参画」を参考にして頂くことも良いと思われれます。   |
| 男性 | 65歳～69歳 | 無職            | 共同参画に関する広報を増やしたほうが良い。目にすることが少ない。  |
| 男性 | 65歳～69歳 | 無職            | ◎女性が働きやすいよう、保育園や幼稚園など子育て支援等の環境づくり、男性が育児休暇、介護休暇が取りやすいよう啓発（特に会社）。法律による義務化が必要と思います。<br>◎また会社等企業内でも、入社2、3年後からプロジェクトなどのチームリーダーを適性に応じて男女関係なく採用する。<br>◎同一仕事、同一賃金でやりがいのある仕事。 ◎税金の壁を引き上げる。   |
| 男性 | 65歳～69歳 | その他           | 現役の時は仕事中心で、職場でも家庭でも自分中心、男性中心でしたが、現役を退き軽い仕事に就いて初めて、男女同等の大切さが分かります。特に子どもが3人も女（3女）なので。   |
| 男性 | 65歳～69歳 | その他           | 男女共同参画を又、女性の登用とか言われているが、仕事の面では、既に女性が、職業の面では女性の就職先は多くなり、男性は今後増々弱い立場になると思う。女性と安倍首相が言うが、子育ては女性がするべきで、男性は家庭を支えるのが当然と思う。   |
| 女性 | 65歳～69歳 | 自営業（農・林・漁業以外） | 少子高齢化が進む中、特に少子は深刻な問題です。何といっても未来を担う子どもは宝です。その子どもを生み出す力は女性です。女性が安心して、子どもを生み育てる社会を作ってほしいです。保育園や小学校が閉鎖されていくようでは未来が見えません。男女共同参画も大切ですが、本末転倒にならないよう女性の立場を尊重しつつ、まずは健全な家庭生活を築き上げることが大切かと思います。  |

| 性別 | 年齢      | 職業       | 記入内容   |
|----|---------|----------|--|
| 女性 | 65歳～69歳 | 自由業      | 男性と女性は子どもの頃から本質的に異なっていると思います。女性の中には男性と同じように生きていきたいと思う人も多いと思います。このような方は今の時代、自分の努力である程度生きられる時代になったと思います。女性の生き方として、自分の目標に向かっていくのも人生、自分の周りの人が目標に向かっていくのを手助けしたり支えたりする人生も、もっとすばらしい人生と思えるこのごろです。              |
| 女性 | 65歳～69歳 | 非正規雇用者   | 今の若い夫婦は共働きが多いせいか、夫婦協力しあって子育て家庭に協力しているの、社会にも協力しやすいのでは。若い人がどんどん参加していくと良いと思います。   |
| 女性 | 65歳～69歳 | 家事専業者    | 女性も働くべきだという考えは賛成出来ません。それぞれ女性が働きたいと思う人が気持ちよく働ける環境を整えるのが良いと思います。女性は子どもを産み育てる大切な事があります。男性には決して出来ない事です。男女の役割はあると思いますので、性別に関係なく社会で活動出来る意識と環境を皆で考えていくと良いと思います。～すべき、～しなければならない、この考えはしんどいです。男性が意識を変えた方が良いでしょう。 |
| 女性 | 65歳～69歳 | 家事専業者    | 役員のみでの活動状態で浸透していない。内容がわかっていない。   |
| 女性 | 65歳～69歳 | 家事専業者    | 私達の時代に比べると今の世代の男性は、育児や家事についてもだいぶ協力的になっているように思います。女性の立場を良くするには、男性の意識改革と理解を深めていくことが必要です。女性も自分の意見をもっと言えるような社会や組織作りを希望します。職場でも、女性の役職が少ないと思ったことがあった。育児をする期間の休職を、多くの職場に普及されると良い。                             |
| 女性 | 65歳～69歳 | 家事専業者    | 介護・育児等に係わる女性の役割を理解し、サポートして頂ける体制をどんどん開発して欲しい。又このような実態調査をすることは大変良いことと思います。   |
| 女性 | 65歳～69歳 | 家事専業者    | 子育て中の女性がフルタイムで男性と同じに働く事はとても大変だと思います。家族のサポートなしでは無理な話です。男性の意識改革も必要です。家事を手伝うなどして自分の出来る事は「役割分担」するくらいの気持ちでやって欲しいと思います。  |
| 女性 | 65歳～69歳 | 家事専業者    | 男女差別なく人権が尊重され、それぞれの個性の調和された社会を望みます。社会のあり方を変えることと共に、そのために子どもの頃からの学校や家庭の教育も大切と思う。  |
| 女性 | 65歳～69歳 | 家事専業者    | 潜在的に男尊女卑の精神の方が年齢を重ねて多い。表面的には理解を示していても、シンの所は昔のままで全然変化がない。性別はあっても人間としての基本が戦後70年近くになるが少しも変わってない。女性が参画するという事に足かせ、手かせになっているものが多すぎる。夫婦・家族・地域・職場・社会、足元から改革すべき。  |
| 女性 | 65歳～69歳 | 無職       | ず～っと当たり前男性を前に！と思っていましたが、家庭においても結局は奥さんの考えの方に落ち着く（奥さんの手の平の上で旦那様は踊らされてる）。実社会においては難しいと思います。出過ぎと言われます。でも方向がそうになっているのはうれしい事だと思います。   |
| 女性 | 65歳～69歳 | 無職       | 男性、女性を問わず、本当に能力のある人がリーダーシップを取り、活躍して頂きたい。昨今詐欺でだまされる人が多い世の中、真面目に生きている人がバカを見る事の無い社会に、日本にしていかなければと切に思います。  |
| 女性 | 65歳～69歳 | 無職       | 男女共同参画という言葉初耳でした。アンケートの答えに戸惑いました。  |
| 男性 | 70歳以上   | 会社役員・経営者 | 身近な人と大声で怒鳴り合うことはDVとらないと考えます。   |
| 男性 | 70歳以上   | 自由業      | 1.命を育てる（子育て）は人生の中の一番楽しい事（約20年間だけ）を男も女も知るべき。 2.人（生き物）はすべて子ども（子孫）のために生きるのであり、その中から自分の生き甲斐を見つけるのだと思う。 3.顔の数だけ考え方あり 4.苦勞、負荷etcは男も女も同じ。   |
| 男性 | 70歳以上   | 無職       | 議会での女性へのヤジは許されない。  |

| 性別 | 年齢    | 職業       | 記入内容   |
|----|-------|----------|--|
| 男性 | 70歳以上 | 無職       | このアンケートも男女共同参画ありきであり、行政機関は先頭に立ってそれを推進しなければの立場をとっている。この考えに違和感がある。   |
| 男性 | 70歳以上 | 無職       | 男女が社会の対等な構成員として責任を共々分かち合い男女平等の社会になるよう努力したいと思います。   |
| 女性 | 70歳以上 | 会社役員・経営者 | 御近所まわりを見ても皆さん生活で稼ぐのでいっぱいです。今回の調査はゆとり的な意識のように感じました。稼いでも稼いでも消費税が10%になるのかしらとか、現実には厳しいです。長い間やってきたように男の仕事、女の仕事って所からは大きく変わらないかと思いつつ調査に参加させて頂きました。  |
| 女性 | 70歳以上 | 非正規雇用者   | 男女平等と言ってもそれぞれの家庭環境や諸々の状況によって良し悪しの問題も出てきます。男性も女性もその立場で一番楽な方向をお互いに見つけて、思いやれる社会生活が送れる事が望ましい事だと思います。   |
| 女性 | 70歳以上 | 非正規雇用者   | 男女共同参画についてもっと分かりやすく新聞テレビなどで説明して頂けたら良いかと思えます。知らないでいる人が沢山いると思います。  |
| 女性 | 70歳以上 | 非正規雇用者   | (ご参考になれば)★私は一つの企業に定年まで勤め、その後引き続き関連の会社に勤め、未だ現役で働いています。<br>★経験の中で「男女」のことで感じたことは、★50代の時初めて(全国でも珍しく)管理職につきました…ここで感じましたことは、①やはり男性より10年近く職につくと役職交代までに5年しかなかったので現実苦しかった。②転勤を言われた時…50代を過ぎ1人単身で移動するなんて、～家族もあり～今から知らない所で仕事するなんて…そう考えた時「そーか男の人達は、生半可な苦勞をして来ているんだな」と再認識しました。…それまではなんて女の人に厳しいんだと…③私も子ども3人授かり、こうして今日勤められるのは、家族のおかげで仕事が続けてこれたと。イ. 両親が本当によく子ども3人を見てくれた!(今の年齢になり私が3人孫を見てと言われたら出来るだろうか…と感謝はざーっとしていただけれど現実の年齢になって、更に感ずる。)ロ. 主人の協力が大切。感謝です。ハ. 当時はまだ産休がなく、2番目くらいから当然のようになってきたので1番目2番目くらいまでは生まれる直前まで働いていた(今は産休が取れるのが当たり前。女性に感謝の気持ちあるかな…?と言うのは、残った職場の人達は、決まった人数で仕事をこなしているの、他の人に相当仕事の負担がかかる。これは私が役職についてつくづくと感じた)。ご要望:やはり経験をして感じたことは、①長い歴史の中で「男尊女卑」の精神が根付いているので、イ. 小学校時代から男女平等の精神を教えるべくと思う。ロ. 職場についても総合職は男女平等に転勤もありますよとか(いかにも女性が不利みたいだが、男性も並みの努力と苦勞をしている)。スタートラインから組織をしっかりと教える。ハ. 地域は、やはり男性がリードしている(今地域で上に立っている人は男性優位の時代に育っている人達なので、自然体にならなっている)ので、少しづつ体制を整えて行く必要がある。やはり「理論」と実体験は違うと思いま～す!お役立ち出来たら嬉しいで～す! |
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者    | 戦前生まれの私にとって男性社会の中で生きてまいりました。不平等をそれ程不満にも思いませんでした。男社会とは言え、家庭に於いては実権を握っていたつもりですし、自分の意見はしっかり持ってきたつもりです。男の子も女の子もさんづけするという見かけだけの平等をおかしいと思っています。男としてとか女としてというより、人間としてどう生きるべきか、どう育てるべきか、それを考えます。   |
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者    | 現状は男性優先になっている感がある。特に昭和1ケタ生まれの男性が配偶者に対して人権を認めたがらない。男性の老人の意識を変えるような行政を望みます。  |

| 性別 | 年齢    | 職業    | 記入内容   |
|----|-------|-------|--|
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者 | 長野県の場合、特に男性・女性の役割がくずれていない気がします。男は外で、女は内で働くという事がまだまだ変えられない様です。特に70代以降の男性は頭が硬いです。これから若い人達は自分の最も適する仕事、男性が育児、家事等得意な人は、どんどん家庭内の仕事をこなし、女性が外で働く事が出来れば良いと思います。   |
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者 | 男女共同参画の言葉について、まだまだ分からない市民は沢山いると思います。講座やセミナーを開いても参加者は少ないのではないのでしょうか。私達の年代では、子・孫の時代が少しでも格差の少ない生活が出来ることを願います。   |
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者 | まずは家庭の協力がある事。社会の育児、介護制度の充実と、会社の当たり前に社会の制度を利用できる世の中になって欲しいです。   |
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者 | 男性優位の社会で生活してまいりましたが、男性も女性もそれぞれの立場を尊重し合える社会になることを望みます。  |
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者 | 女性にもすばらしい力を持った方はたくさんいらっしゃる事は認めます。私が私ごと自分を一番に考える人ばかりだと大変な事になります。家族の為に自分を少し犠牲にする時があってもいいと思います。保育所を充実して女性が働きやすくする事は大事ですが、その一方には子どもがいるという事を忘れないでほしい。朝早くから、又、生まれてすぐ一日中預けられる子ども達はどうかという事を一番考えてほしい。保育所の子ども達はなんとお行儀がいいことでしょう。常に大人の顔色を見てじっと自分を押し殺して一日過ごしております。いっぱいいい事もありますが、働く事、重要な仕事をする事は賛成ですが、子どもを産み、しっかり育てるという事を一番に考えてほしいです。働ける時に働く。人間的に魅力的な人は周りが放っておかないと思います。目下介護に集中しております。人生前半自分の事が第一で、兄弟、子ども達に迷惑をかけて生きてきました。人生後半はごめんね、ごめんねと思いながら、家族に又地域に、自分の出来る事を一生懸命がんばっております。時間がないので走り書きですみません。自分がどんな人生を歩みたいかという事はやはり、子どもの頃の家庭教育、学校教育が大切かと思えます。自分が選んだ人と結婚し、その人生を人のせいにして(夫、社会)、自分はずっと才能があるのにとうとう生きるのはやめた方がいいと思います。 |
| 女性 | 70歳以上 | 家事専業者 | 私の家は職場の皆様の御協力で、充分な育児休暇をとらせていただき、三人の子どもを出産し、仕事を続けさせていただきありがたいと思っておりますが、どこの職場も同じように仕事を続けさせていただくことが不可能な現状だと思います。我が家は祖父、祖母(私)と七人同居して、孫の面倒を見る事ができていますが、3番目となると身体の動きも鈍くなり苦戦しながら頑張る状態です(食事、掃除、洗濯、子守と)。要望ですが、「サポートセンター」が定着していたらありがたいです。職場に保育所等がある所も聞いたことがあります?母親が仕事を続けられるには保育してくれる人が(1日数時間でも)いればと思います。   |
| 女性 | 70歳以上 | 無職    | 小学校から可能なものはできる限り、男女、能力を問わず平等に(当番制)。例えば委員等＝リーダーシップを養う。子育てにおいては、孫は祖父母に見てもらう環境が全てにおいて良い結果になると思う。(祖父母は張り合い、生き甲斐、脳の活性化)それには地方創成で仕事(職場)が生まれる事(増加)が大切だと思うのですが。  |
| 女性 | 70歳以上 | 無職    | 姑や母親の「女は…」という意識や、家庭生活や子育てで子ども達へ男尊女卑の考えを伝えていると思う。私は特に姑の「女は…」という押し付けに非常に苦しめられた。「女の足を引っ張るのは女…」ということもかなり強いと思う。   |
| 女性 | 70歳以上 | 無職    | 問14で地域に関する件で関係ないかもしれませんが、今の所で生活して9年になりますが、自治会、区長、PTA、どこの人だか一度も分かりません。アパート・コーポに住んでいる人は皆そうだと思います。特に区長さんなりすればおとしより方もっと出歩けると思います。関係ない事書きすみません。   |
| 女性 | 70歳以上 | その他   | 自分が介護されています。同居の娘は職場で責任者として働いています。頑張ってもらいたい。(代筆:娘)  |

---

## 調査票

---





一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

|             | 男性が優位 | 女性が優位 | 平等である | わからない |   | 問1 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|---|----|
| 1 家庭では      | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |
| 2 学校教育の場では  | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |
| 3 地域社会では    | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |
| 4 職場では      | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |
| 5 法律や制度の上では | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |
| 6 慣習・しきたりでは | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |
| 7 政治の場では    | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |
| 8 社会全体では    | 1     | 2     | 3     | 4     | → |    |

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
それぞれ1つずつお選びください。

|                 | 知っている | 聞いたことがある | 知らない |   | 問2 |
|-----------------|-------|----------|------|---|----|
| 1 男女共同参画社会      | 1     | 2        | 3    | → |    |
| 2 ジェンダー（社会的性別）  | 1     | 2        | 3    | → |    |
| 3 女子差別撤廃条約      | 1     | 2        | 3    | → |    |
| 4 男女雇用機会均等法     | 1     | 2        | 3    | → |    |
| 5 長野市男女共同参画推進条例 | 1     | 2        | 3    | → |    |
| 6 長野市男女共同参画センター | 1     | 2        | 3    | → |    |

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。  
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 新たな発想や多様な価値観が活かされる社会
- 5 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 6 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 7 その他（ ）

| 問3 |
|----|
|    |
|    |
|    |

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

| 問4 |
|----|
|    |



問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。  
次の中から1つお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他 ( )

|    |
|----|
| 問5 |
|    |

**「労働」に関することでおたずねします。**

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。  
あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。  
あてはまる番号を1つずつお選びください。

|            | 男性の方が<br>優遇されて<br>いる | 女性の方が<br>優遇されて<br>いる | 平等で<br>ある | わから<br>ない |   |
|------------|----------------------|----------------------|-----------|-----------|---|
| 1 賃金       | 1                    | 2                    | 3         | 4         | → |
| 2 昇進や昇格    | 1                    | 2                    | 3         | 4         | → |
| 3 仕事の内容    | 1                    | 2                    | 3         | 4         | → |
| 4 研修の機会や内容 | 1                    | 2                    | 3         | 4         | → |

|    |
|----|
| 問6 |
|    |
|    |
|    |

**「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。**

問7 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。  
次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

|    |
|----|
| 問7 |
|    |

問8 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

|    |
|----|
| 問8 |
|    |

**問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。**

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

|    |
|----|
| 問9 |
|    |

**問10 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。**

|                | 主に自分がしている | 自分と家族が同じ程度している | 自分は手伝い程度している | していない |
|----------------|-----------|----------------|--------------|-------|
| 1 掃除           | 1         | 2              | 3            | 4     |
| 2 洗濯           | 1         | 2              | 3            | 4     |
| 3 食料品、日用品などの買物 | 1         | 2              | 3            | 4     |
| 4 食事のしたく       | 1         | 2              | 3            | 4     |
| 5 食事の後かたづけ     | 1         | 2              | 3            | 4     |
| 6 ごみを捨てる       | 1         | 2              | 3            | 4     |

|     |
|-----|
| 問10 |
| →   |
| →   |
| →   |
| →   |
| →   |
| →   |

**問11 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。**

|               | 主に自分がしている | 自分と家族が同じ程度している | 自分は手伝い程度している | していない |
|---------------|-----------|----------------|--------------|-------|
| 1 育児（お孫さんを含む） | 1         | 2              | 3            | 4     |
| 2 介護          | 1         | 2              | 3            | 4     |

|     |
|-----|
| 問11 |
| →   |
| →   |

**問12 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。**

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 利用しにくい雰囲気があるから
- 4 上司がいい顔をしないから
- 5 育児、介護は女性の方が向いているから
- 6 他に育児、介護をする人がいるから
- 7 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 8 男性で制度を利用する人がほとんどいないから
- 9 制度の整備が不十分だから
- 10 その他（具体的に

|     |
|-----|
| 問12 |
|     |
|     |
|     |

**問 13** 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。  
次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の固定的な役割分担意識を改める
- 2 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
- 3 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
- 5 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
- 7 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性のための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に
- 12 特に必要なことはない

問 13

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

**「地域社会」に関することでおたずねします。**

**問 14** あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

|                                    | そうである | そうではない | わからない |   | 問 14 |
|------------------------------------|-------|--------|-------|---|------|
| 1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている             | 1     | 2      | 3     | → |      |
| 2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である        | 1     | 2      | 3     | → |      |
| 3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている            | 1     | 2      | 3     | → |      |
| 4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている        | 1     | 2      | 3     | → |      |
| 5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている            | 1     | 2      | 3     | → |      |
| 6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される | 1     | 2      | 3     | → |      |

**問 15** 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 4 女性が積極的に役職につくこと
- 5 その他（具体的に

問 15

|  |
|--|
|  |
|--|

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するために必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう

裏面もごさいます

男女の「人権」に関することでおたずねします。

※2

問 16 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

※2 DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為

|                               | 受けたことがある | したことがある | 受けたこともしたこともある | 受けたこともしたこともない |   | 問 16 |
|-------------------------------|----------|---------|---------------|---------------|---|------|
| 1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす            | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 2 なぐる                         | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 3 ける                          | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 4 髪の毛をつかんで引きずり回す              | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 5 大声で怒鳴る                      | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 6 メールや郵便物、行動を細かく監視する          | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 8 何を言っても無視し続ける                | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 9 生活費を渡さない                    | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 10 嫌がっているのに性的行為を強要する          | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |
| 11 避妊に協力しない                   | 1        | 2       | 3             | 4             | → |      |

問 17 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所（長野市役所保育家庭支援課内、篠ノ井支所内）
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警（地域安全推進室）
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

| 問 17 |  |
|------|--|
|      |  |
|      |  |
|      |  |
|      |  |

問 18 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えにもっとも近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

|      |
|------|
| 問 18 |
|      |

**「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。**

問 19 平成 26 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数と割合は、6 人 (15.4%)、平成 26 年 7 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数と割合は 490 人 (17.7%) となっています。

このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

|      |
|------|
| 問 19 |
|      |

問 20 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 政治が身近になる
- 2 男性中心の考え方に変化が生じる
- 3 男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される
- 4 女性が持つ意見や発想が活かされる
- 5 何も期待しない
- 6 わからない

|      |
|------|
| 問 20 |
|      |

問 21 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

- 1 図書や情報誌などの充実
- 2 市民団体への活動の場の提供
- 3 調査・啓発活動への助成支援
- 4 講演会やセミナーの開催
- 5 起業や資格取得講座の開催
- 6 相談機能の充実
- 7 女性リーダーの育成
- 8 わからない
- 9 その他 ( )

|      |
|------|
| 問 21 |
|      |
|      |
|      |

問 22 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備
- 10 企業に対する就労条件の改善策の啓発
- 11 職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底
- 12 その他 (具体的に )

|      |
|------|
| 問 22 |
|      |
|      |
|      |

裏面もございます

問 23 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入もれ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ9月19日（金）までにポストへご投函ください。

平成26年11月発行

**発行** 長野市

**編集** 長野市生活部 男女共同参画推進課

長野市大字鶴賀緑町1613番地 電話026(224)5428(直通)

E-mail : danjo@city.nagano.lg.jp

**集計** 協同組合長野シーアイ開発センター